

Veritas NetBackup™ インストールガイド

UNIX と Windows

リリース 8.0

Veritas NetBackup™ インストールガイド

マニュアルバージョン: 8.0

法的通知と登録商標

Copyright © 2016 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供

されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	インストールの準備	8
	NetBackup インストールディレクトリの制限事項	8
	NetBackup のバージョン間の互換性について	9
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	9
	SORT の新規インストールのための推奨手順	10
	SORT のアップグレードのための推奨手順	15
	NetBackup ソフトウェアの入手について	16
	NetBackup メディアキットについて	16
	NetBackup の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージについて	18
	ストレージデバイスの構成について	18
	サポートされているロボット形式の検索	19
	NetBackup をインストールする方法	19
	NetBackup プリインストールチェッカーについて	19
	NetBackup Product Improvement Program について	20
	NetBackup ホスト用のセキュリティ証明書について	21
第 2 章	NetBackup ライセンス	23
	NetBackup のライセンスの要件について	23
	ライセンスキーエントリについて	24
	ライセンスキーについてよく寄せられる質問	25
第 3 章	UNIX システムでのサーバーソフトウェアのインストール	29
	UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件	29
	マスターサーバーとメディアサーバーが NetBackup Appliance でない いかぎり、Windows と UNIX プラットフォームの英語以外のバージョンを混在させない	33
	異なるバージョンの UNIX ベースオペレーティングシステムを実行する環境での NetBackup のインストール	33
	Solaris システムの特別なインストールガイドライン	33
	HP-UX システムの特別なインストールガイドライン	34
	AIX マスターサーバーの特別なガイドライン	34
	UNIX クラスタ環境の特別なインストールガイドライン	34
	インストールスクリプトの動作	35

NetBackup ソフトウェアメディアのマウントについて	36
UNIX または Linux システムでの NetBackup ソフトウェアメディアの マウント	37
NetBackup マスターサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール	38
NetBackup ソフトウェアのインストール	43
NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール	44
マスターサーバーからクライアントへのクライアントソフトウェアのプッシュイ ンストールについて	48
マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール	49

第 4 章

Windows システムでのサーバーソフトウェアのイン ストール	51
Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要 件	51
NetBackup のインストール前の環境チェッカーについて	57
インストール前の環境チェッカーの実行	58
Windows クラスタのインストールとアップグレードの要件	61
Windows システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバー インストールの実行	63
NetBackup クラスタ環境のインストール後の作業	76
Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認	77
Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール	77

第 5 章

管理インターフェースのインストール	80
NetBackup 管理コンソールについて	80
NetBackup Java 管理コンソールのインストール	80
Windows での複数バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールのイン ストール	81
Windows 上の旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールの削除	82
NetBackup のリモート管理コンソールについて	83
NetBackup リモート管理コンソールのインストール	83

第 6 章

NetBackup クライアントソフトウェアのインストール	85
NetBackup クライアントのインストールについて	85
Windows での NetBackup クライアントのインストールについて	86
Windows クライアントのインストール方法と必要条件について	87

NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのイン ストール	89
NetBackup Windows クライアントのサイレントインストール	97
NetBackup クライアントの構成方法	97
UNIX/Linux での NetBackup クライアントのインストールについて	98
UNIX/Linux クライアントのインストール方式について	100
UNIX クライアントのローカルインストール	101
標準 RPM ツールによる Linux クライアントバイナリのインストールと アップグレード	104
UNIX または Linux クライアントのリモートインストール方式について	106
サーバーの初期インストール後の UNIX または Linux クライアントの 追加	112
サーバーのアップグレード後のクライアントのアップグレード	114

第 7 章 NetBackup の構成 119

NetBackup の起動と停止のスクリプトについて	119
NetBackup Server の構成について	121
NetBackup 管理コンソールの起動	122
デバイスの構成ウィザードについて	124
ボリュームの構成ウィザードについて	126
カタログバックアップウィザードについて	127
バックアップポリシーの構成ウィザードについて	128

第 8 章 NetBackup ソフトウェアのアップグレード 130

NetBackup のアップグレードについて	130
NetBackup 7.x アップグレードポータルについて	130

第 9 章 NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェ アの削除 132

UNIX システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について	132
UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削 除について	133
UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削 除	133
Windows システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について	144
Windows サーバー、クラスタ、およびクライアントからの NetBackup サー バーおよびクライアントソフトウェアの削除	144
Windows システムからの NetBackup LiveUpdate の削除	148

	Windows サーバーおよび Windows クライアントからの Java コンソール の状態データの削除について	148
第 10 章	参照先	150
	NetBackup Java Runtime Environment について	150
	レプリケーションディレクトリを使用した NetApp ディスクアレイの使用	152
	NetBackup データベースに対するセキュリティ強化	156
索引		157

インストールの準備

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup インストールディレクトリの制限事項](#)
- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)
- [NetBackup ソフトウェアの入手について](#)
- [ストレージデバイスの構成について](#)
- [NetBackup をインストールする方法](#)
- [NetBackup ホスト用のセキュリティ証明書について](#)

NetBackup インストールディレクトリの制限事項

NetBackup によってサポートされる各ファイルシステムで、インストールフォルダのファイル名とフォルダ名の制限が定義されています。ファイルシステムのベンダーが提供するマニュアルで、ファイル名とフォルダ名に関する制限事項の詳細を確認してください。さらに、NetBackup では、インストールフォルダの名前で特定の文字のみがサポートされます。サポート外の文字を使うと予期しない結果になり、データが失われる可能性があります。NetBackup がインストールフォルダでサポートする文字は次のとおりです。

- UNIX または Linux
POSIX の完全にポータブルなファイル名の文字 (A-Z a-z 0-9 . _ -)
- Windows
ASCII 7 ビット範囲内の印字可能文字

メモ: Windows の繁体字中国語と韓国語バージョンでは、NetBackup クライアントをスペースが含まれるパスにインストールすると、リストア操作が失敗する場合があります。スペースを含むパスの例には C:\Program Files があります。これらの Windows バージョンでは、スペースをとみなわないパスに NetBackup のクライアントソフトウェアをインストールするようにしてください。

NetBackup のバージョン間の互換性について

マスターサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。サーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。NetBackup カタログは NetBackup マスターサーバー上に存在します。したがって、マスターサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディアサーバーが含まれている場合は、マスターサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性についての完全な情報は、8.0 バージョンの『NetBackup リリースノート』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC8512>

ベリタスは EOSL 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

<http://www.veritas.com/docs/TECH74757>

p.16 の「NetBackup ソフトウェアの入手について」を参照してください。

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のように多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト

このツールを使うと、システムで **NetBackup** のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な **Hotfix** が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の **NetBackup** ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 1-1

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.11 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.12 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。

手順	詳細
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.13 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.13 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス(Email address)

電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password)

パスワードを入力し、検証してください

名 (First name)

名を入力してください

姓 (Last name)

姓を入力してください

会社名 (Company name)

会社名を入力してください

国 (Country)

国を入力してください

優先言語 (Preferred language)

優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text)

表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。
- [送信 (Submit)]をクリックします。
- ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

- 4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。
- 5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報はPDFとして保存できます。**NetBackup** では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)] セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)] を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collectors)] タブを選択します
- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)] のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)] 画面の [製品ファミリー (product family)] セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)] 画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)] をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)] セクションを確認して [次へ (Next)] をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)] 画面の [検証オプション (Validation options)] 下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)] をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)] をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)] をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)] セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)] を選択します。

- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。
- 6 実行 (Run). /sortdc
ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。
- 7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。
- 8 メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。
- 9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストール/レポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。
カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。
- 10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。
指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。
ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。
ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。
- 12 インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。
ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。
ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。
- 14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 1-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.11 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.13 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.13 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.15 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.15 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。

- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。
- 4 [検索 (Search)]をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

NetBackup ソフトウェアの入手について

NetBackup 8.0 は次の形式で入手可能です。

- DVD メディアキット
すべての必要なソフトウェアとマニュアルファイルは複数の DVD で提供されます。
p.16 の「[NetBackup メディアキットについて](#)」を参照してください。
- 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ
MyVeritas Web サイトにある DVD イメージファイルをダウンロードできます。
p.18 の「[NetBackup の電子ソフトウェア配布 \(ESD\) イメージについて](#)」を参照してください。

NetBackup メディアキットについて

メディアキットは各々のサポート対象の UNIX プラットフォームまたはオペレーティングシステム用の DVD と Windows 用の 1 枚の DVD を含んでいます。各 DVD のラベルには、内容についての簡潔な説明が記載されています。キットの印刷資料は、『NetBackup スタートガイド』を含んでいます。

表 1-3 は各 DVD の内容を記述します。

表 1-3 NetBackup 8.0 DVD の内容

プラットフォーム OS	内容
AIX 64 ビット	サーバーとサポート対象のオプション
HP-UX IA64	サーバーとサポート対象のオプション
Linux RedHat x86_64	サーバーとサポート対象のオプション

プラットフォーム OS	内容
Linux SUSE x86_64	サーバーとサポート対象のオプション
Solaris SPARC64	サーバーとサポート対象のオプション
Solaris x86-64	サーバーとサポート対象のオプション
Windows の場合	■ サーバーとサポート対象のオプション ■ すべての x64 クライアント ■ すべての x86 クライアント
Linux zSeries RedHat x64	メディアサーバーとサポート対象のオプション
Linux zSeries SUSE x64	メディアサーバーとサポート対象のオプション
UNIX クライアント 1	■ AIX ■ HP PA-RISC および IA64 ■ Solaris SPARC および X86
UNIX クライアント 2	すべての Linux プラットフォーム
LiveUpdate 形式 1 のクライアント	■ AIX ■ HP IA64 ■ すべての Linux プラットフォーム ■ Solaris SPARC および X86
LiveUpdate 形式 2 のクライアント	■ HP PA-RISC ■ すべての Windows プラットフォーム
Windows の OpsCenter	すべての Windows プラットフォーム
UNIX または Linux の OpsCenter	すべての UNIX または Linux プラットフォーム
OpenVMS (CD 形式)	OpenVMS の NetBackup クライアント

メモ: ESX の NetBackup vCenter プラグインは MyVeritas のダウンロードサイトから電子的に利用可能です。このプラグインは保守契約の下でお客様が自由に利用できます。MyVeritas ダウンロードサイトへのアクセス情報を記載した電子メールは NetBackup 7.6.1 が一般に利用可能になったときに送信されました。詳細情報が利用可能です。

p.18 の「[NetBackup の電子ソフトウェア配布 \(ESD\) イメージについて](#)」を参照してください。

NetBackup の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージについて

NetBackup 8.0 の ESD イメージは MyVeritas の Web ページからダウンロード可能です。イメージは 1.8G のサイズ制限に従っています。

ESD のダウンロードを正しく行うために、一部の製品イメージがより小さく管理しやすいファイルに分割されています。ファイルを解凍する前に、1 of 2、2 of 2 として識別できる分割されたイメージファイルを最初に結合する必要があります。MyVeritas 上の Download Readme.txt ファイルには、ファイルを結合する方法が記述されています。

p.16 の「[NetBackup ソフトウェアの入手について](#)」を参照してください。

p.16 の「[NetBackup メディアキットについて](#)」を参照してください。

ストレージデバイスの構成について

NetBackup の信頼性は、ストレージデバイスの構成に依存します。信頼性の高いバックアップおよびリストアを確実に行うには、オペレーティングシステムで動作するように最初にデバイスをインストールおよび構成する必要があります。

NetBackup をインストールする前に、次のガイドラインを使ってオペレーティングシステムで動作するようにストレージデバイスを構成します。

新しいインストール

NetBackup をインストールする前に、最新バージョンのドライバでデバイスをインストールして構成することを推奨します。

接続と設定

新しいデバイスを準備し、接続するために、次のタスクを実行します。

- SCSI ID (ターゲット) を設定します。利用可能な SCSI ID に設定されていることを確認してください。
- この SCSI ID によって利用可能な互換性のあるホストバスアダプタに、デバイスを物理的に接続します。
互換性とは、デバイスとホストバスアダプタの両方が同じ形式であることを意味します。たとえば、シングルエンド、HVD、LVD、ファイバーチャネルなどの形式があります。

構成

オペレーティングシステムで動作するようにストレージデバイスを構成するには、次のマニュアルを参照してください。

- デバイスとオペレーティングシステムのベンダーからの指示。
- 『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』。ご使用のオペレーティングシステムに該当する章を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

NetBackup のインストール オペレーティングシステムで動作するようにすべてのストレージデバイスがインストール、構成、および検証された後、NetBackup をインストールできます。

警告: デバイスが適切に構成されていないと、バックアップが失敗したり、データが損失する場合があります。

サポートされているロボット形式の検索

サポートされているロボット形式のリストについては、『Hardware Compatibility List (HCL)』を参照してください。

ベリタスはこのマニュアルの更新版を定期的にベリタスのサポート Web サイトに掲載しています。

このリリースでサポートされている最新のロボット形式を検索する方法

- ◆ 次のリンクをクリックして『Hardware Compatibility List (HCL)』にアクセスします。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

NetBackup をインストールする方法

NetBackup を新規にインストールするには、次の順序でソフトウェアをインストールします。

- | | |
|------|--|
| 手順 1 | マスターサーバーソフトウェアをインストールします。 |
| 手順 2 | メディアサーバーソフトウェア (NetBackup Enterprise のみ) をインストールします。 |
| 手順 3 | NetBackup リモート管理コンソールをインストールします (省略可能)。 |
| 手順 4 | クライアントソフトウェアをインストールします。 |
| 手順 5 | NetBackup のすべてのアドオン製品 (言語パッケージなど) をインストールします。 |

インストール手順に進む前に、インストール要件を確認してください。

NetBackup プリインストールチェッカーについて

NetBackup 7.6 以降では、UNIX/Linux プラットフォーム用と Windows プラットフォーム用のサーバーインストーラの両方に新しいプリインストールチェッカーが含まれています。

この機能を使用すると、サーバーの正常なインストールまたはアップグレード準備ができているか判断しやすくなります。

メモ: この機能は、NetBackup 7.1 の Windows バージョンでリリースされた NetBackup のインストール前の環境チェッカーとは異なります。

この検査は、マスターまたはメディアサーバーでインストールを開始する際に自動的に実行されます。検査の結果は次のポイントで示されます。

- UNIX/Linux のアップグレードスクリプト
「このホストはマスターサーバーですか」の質問に回答した後。
- Windows のインストールウィザード
[Installation Summary]が表示される[Ready to Install the Program]画面

実行されるテストの 1 つは、ローカルにインストールされた EEB (Emergency Engineering Binary の略で、緊急エンジニアリングバイナリの意味) の更新とインストール中の NetBackup のバージョンに含まれている修正の比較です。プリインストールテストのうちいずれかが失敗すると、必要な操作の種類を示すメッセージが表示されます。

一部のテスト失敗は軽微なものとなされ、アップグレードの続行が許可されます。重要なテスト失敗があると、インストールまたはアップグレードの実行が妨げられます。この出力は、インストールまたはアップグレードを安全に続行する前に他の処置を講じる必要があることが通知されます。

プリインストール検査の結果は次の場所に格納されます。

- UNIX の場合
次のパスにあるインストールトレースファイル
`/usr/opensv/tmp`
- Windows の場合
`bpimage` コマンドは次のディレクトリにファイルを作成します。
`%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallSummary¥`

p.9 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup Product Improvement Program について

NetBackup 7.5 以降では、NetBackup Product Improvement Program で、インストール配置とプログラムの使用状況の情報を取得します。

NetBackup のインストール時に NetBackup Product Improvement Program に参加して、この情報を自動的にセキュリティを考慮してベリタスに送信するように設定できます。ベリタスが受信した情報は、継続的な品質向上プログラムの一部に組み込まれます。ベリタスはこの情報を参考に、お客様が NetBackup 製品をどのように構成、配置、使用し

ているかを理解します。この情報はその後、製品の機能、テスト、テクニカルサポート、今後の要件の改善点をベリタスが識別するのを助けるのに使われます。

NetBackup Product Improvement Program について詳しくは、NetBackup のライセンス契約書の「17.18 Data Collection; Data Protection Regulations」を参照してください。使用許諾契約は次の場所にあります。

- UNIX
DVD メディアの UNIX イメージのベースディレクトリ、または MyVeritas からダウンロードしたメディアイメージにある LICENSE ファイルを参照します。
- Windows
DVD メディア、または MyVeritas からダウンロードしたメディアイメージから、インストールウィザード (Browser.exe) を実行します。[Home] ページで、[Installation] をクリックします。[Installation] ページで、[Server Software Installation] または [Client Software Installation] を選択します。[ようこそ (Welcome)] ページで、[次へ (Next)] をクリックして [使用許諾契約 (License Agreement)] のページに進みます。

プログラムをオプトアウトする機能は引き続き使用できます。マスターサーバーまたはメディアサーバー上で、TELEMETRY_UPLOAD オプションをデフォルトの YES から NO に変更します。これに関する詳しい情報を参照できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000112586

NetBackup ホスト用のセキュリティ証明書について

NetBackup では、NetBackup ホストの認証にセキュリティ証明書が使用されます。NetBackup セキュリティ証明書は、X.509 公開鍵インフラストラクチャ (PKI) 標準に適合しています。マスターサーバーは、認証局 (CA) として動作し、ホストにセキュリティ証明書を発行します。

NetBackup では、ホスト ID ベース証明書とホスト名ベース証明書の 2 種類の NetBackup ホストセキュリティ証明書が提供されます。ホスト ID ベース証明書は、各 NetBackup ホストに割り当てられる UUID (Universal Unique Identifier) に基づいています。NetBackup マスターサーバーは、これらの識別子をホストに割り当てます。

NetBackup 8.0 以前に生成されたすべてのセキュリティ証明書は、現在ホスト名ベースの証明書と呼ばれます。NetBackup は、これらの旧証明書をより新しいホスト ID ベース証明書に置き換えるプロセスにあります。この移行は将来のリリースで完了し、ホスト名ベース証明書の使用は終了します。しゅうただし移行はその途上にあり、特定の処理では NetBackup 8.0 に引き続き過去のホスト名ベース証明書が必要です。

NetBackup ホストの種類と証明書の種類に応じて、証明書の配備は異なります。次のシナリオを検討します。

NetBackup マスターサーバー	ホスト ID ベース証明書とホスト名ベース証明書は、NetBackup のインストールおよびアップグレード中に自動的に配備されます。
--------------------	--

クラスタ化された NetBackup マスターサーバー ホスト ID ベース証明書とホスト名ベース証明書は、自動的にすべてのノードに配備されないことがあります。

NetBackup メディアサーバーとクライアント マスターサーバーでの設定によっては、ホスト ID ベース証明書がメディアサーバーとクライアントに自動的に配備されることがあります。

ホスト名ベース証明書は、コマンドラインインターフェースを使用して手動で配備されます。

次の表に、NetBackup セキュリティ証明書を配備する必要があるさまざまなシナリオを一覧表示します。

NetBackup マスターサーバー NetBackup マスターサーバーでは、ホスト名ベース証明書とホスト ID ベース証明書が必要です。

NetBackup 管理コンソール NetBackup 管理コンソールを使用してアクセスするホストでは、ホスト名ベース証明書とホスト ID ベース証明書が必要になります。

Java バックアップ、アーカイブ、およびリストアユーザーインターフェース Java バックアップ、アーカイブ、およびリストアユーザーインターフェースを使用してアクセスするクライアントには、ホスト ID ベース証明書が必要になります。

NetBackup アクセス制御 (NBAC) NBAC が NetBackup ホストで有効になっている場合、ホストにはホスト名ベース証明書が必要になります。
NBAC を有効にすると、証明書は自動的に配備されます。

クラウドのメディアサーバー NetBackup CloudStore サービスコンテナでは、ホスト名ベース証明書がメディアサーバー上で配備されている必要があります。配備されていない場合、サービスコンテナは開始できません。

NetBackup ライセンス

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のライセンスの要件について](#)
- [ライセンスキーエントリについて](#)
- [ライセンスキーについてよく寄せられる質問](#)

NetBackup のライセンスの要件について

NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーのソフトウェアをインストールするには、NetBackup 製品のライセンスを入力する必要があります。

ライセンスを入手するには、NetBackup 製品を発注するときにライセンスの SKU を発注する必要があります。

発注後、ベリタスは次の情報を含むライセンス証明書を添付した電子メールを送信します。

購入済みの NetBackup のライセンスのリスト このリストは発注した製品のライセンスすべてを含んでいます。

安全な場所にこのリストを保管してください。テクニカルサポートに問い合わせる場合に、製品のライセンスが必要になることがあります。

NetBackup 製品をダウンロードするためのアクセス用のシリアル番号

DVD メディアキットの代わりに、NetBackup 製品インストール用の電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージをダウンロードするためにこのシリアル番号を使うことができます。

次の Web サイトに移動し、システムに ESD イメージをダウンロードするためにこのシリアル番号を入力します。

<http://my.veritas.com>

NetBackup をインストールするときには、メッセージが表示されたらマスターサーバーで他のすべての製品ライセンスを入力することを推奨します。これらのライセンスを後で追加することもできますが、マスターサーバーのソフトウェアをインストールするときにそれらを入力する方が簡単です。

NetBackup のライセンスの管理方法について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

ライセンスキーエントリについて

すべての NetBackup SKU のライセンスはマスターサーバーで入力する必要があります。メディアサーバーで必要となる機能によって、一部の SKU のライセンスをメディアサーバーでも入力する必要があります。

表 2-1 に各サーバーで入力する必要があるライセンスを記述します。

表 2-1 NetBackup メディアサーバーで必要なライセンス

メディアサーバー形式	必要なライセンス (メディアサーバーの機能に基づく)
Enterprise メディアサーバー	■ NetBackup Enterprise Server 8.0 UNIX ■ NetBackup Enterprise Server 8.0 WIN/LNX/SOLX64 ■ NetBackup Standard Infrastructure 8.0 XPLAT1 Front End TBYTE ■ NetBackup Enterprise Infrastructure 8.0 XPLAT1 Front End TBYTE ■ NetBackup Platform Base ■ NetBackup Option Library Based Tape Drive 8.0 XPLAT ■ NetBackup Option Shared Storage Option 8.0 XPLAT ■ NetBackup Option NDMP 8.0 XPLAT ■ NetBackup Media Server Encryption Option for Enterprise Server、UNIX ■ NetBackup Media Server Encryption Option for Enterprise Server、Windows/Linux
SAN メディアサーバー	■ NetBackup Enterprise Client、UNIX ■ NetBackup Enterprise Client、Windows/Linux ■ Media Server Encryption Option for SAN Media Server (Enterprise Client)、UNIX ■ Media Server Encryption Option for SAN Media Server (Enterprise Client)、Windows/Linux

次の方法のいずれかを使用してライセンスを入力します。

- **NetBackup** マスターサーバーとメディアサーバーのインストール時 (推奨)
インストールスクリプトはインストールすることを計画するすべての **NetBackup** 製品のライセンスを入力するように求めるメッセージを表示します。
- **NetBackup** 管理コンソール
NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーのインストールの後で、コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]をクリックします。
- コマンドラインインターフェース (CLI) (UNIX のみ)
NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーのインストールの後で、次のコマンドを使います。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key
```

メモ: システム内のほぼすべてのサーバーから **NetBackup** サーバーにログオンして、ライセンスの表示、入力および管理を行うことができます。ライセンスをリモート管理する場合は、変更対象のシステムのライセンスを確実に表示します。間違ったサーバーにライセンスを追加または変更しないように注意してください。

ライセンスキーについてよく寄せられる質問

次に、ライセンスキーの管理方法について頻繁に寄せられる質問事項を示します。

表 2-2

質問	回答
NetBackup のライセンスシステムは、他のベリタス製品のライセンスシステムと同じですか。	NetBackup では、他のベリタス製品でも使用される共通のライセンスシステムを使用しています。ただし、共通のライセンスシステムによって、各製品のライセンス機能の採用方法が柔軟になっています。たとえば、 NetBackup ではノードロックライセンスシステムを採用していませんが、他のいくつかの製品ではノードロックライセンスシステムを採用しています。
メディアキットしか持っていない場合、 NetBackup を使用できますか。	いいえ。メディアキットだけでは、 NetBackup にアクセスできません。必ず正規または評価版のライセンスキーが必要です。ライセンスキーは、メディアキットとともに提供されるため、メディアキットを持っている場合はキーも持っているはずです。

質問	回答
ライセンスキーはどのような形式ですか。また、ライセンスキーにはどのような情報が含まれていますか。	キーは、シリアル番号です (たとえば、xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxx)。ライセンスキーには次の情報が含まれています。 ■ NetBackup サーバーまたは NetBackup Enterprise サーバーのいずれのキーであるか ■ サーバー、クライアント、エージェントまたは別ライセンス製品のいずれのキーであるか ■ 正規または評価版のいずれのキーであるか ■ キーの生成方法および生成場所に関する情報
ライセンスキーにはシリアル番号が割り当てられていますか。	はい。シリアル番号情報がキーに埋め込まれています。
所有しているライセンスキーに関するレポートを表示できますか。	はい。ライセンスキーに関する情報はマスターサーバーに格納されています。 情報にアクセスするには、NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]、[ライセンスキー (License Keys)]の順に選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <pre>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</pre> レポートの表示方法について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
別ライセンス製品およびエージェントを使用可能にする方法を教えてください。	NetBackup のインストール時に、すべての別ライセンス製品およびエージェントのライセンスキーを入力するように求められます。 エージェントまたは他のアドオン製品を後から購入した場合は、ライセンスキーを手動で入力できます。NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <pre>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</pre> 追加のバイナリをインストールする必要があるため、一部の別ライセンス製品をインストールする際に、製品版の NetBackup DVD セットが必要になります。NetBackup DVD は、安全な場所に保管しておいてください。
ライセンスキーは入力後も保管する必要がありますか。	はい。ライセンスキーのコピーは安全な場所に保管しておいてください。

質問	回答
ライセンスキーを紛失した場合、どうすればよいですか。	ベリタスでは、ユーザーに発行したすべてのライセンスキーを記録しています。ライセンスキーを紛失した場合は、ご購入先にお問い合わせいただくと、キーのコピーを入手できます。 Veritas では、ユーザーに発行したすべてのライセンスを記録しています。ライセンスを紛失した場合は、ご購入先にお問い合わせいただくと、ライセンスのコピーを入手できます。 ■ アメリカ大陸、環太平洋地域、オーストラリアの場合: 650-318-4265 FAX: 650-335-8428 ■ ヨーロッパ、中東、アフリカの場合: 00.353.61.365232 FAX: 00.353.61.365223 Veritas の提携会社から NetBackup を購入した場合は、キーに関する情報はその提携会社にお問い合わせください。
大量注文の場合のライセンスキーにはどのように対応していますか。	NetBackup のインストールの多くは非常に大規模で、長いライセンスキーが使用されます。ライセンスキーを何度も入力することは時間のかかる作業です。購入する NetBackup コンポーネントの種類ごとに 1 つのライセンスキーを要求できます。たとえば、50 の Oracle エージェントを使用するために、1 つのライセンスキーを入手できます。サイトライセンスでは、特定の NetBackup エージェントまたは別ライセンス製品を無制限に使用できます。 ただし、購入する NetBackup コンポーネントの種類ごとに固有のライセンスキーが必要になります。個別のライセンスキーは NetBackup サーバー、Lotus Notes エージェント、または NDMP オプションのようなコンポーネントに必要なになります。
サイトライセンスの場合のライセンスキーにはどのように対応していますか。	サイトライセンスは大量注文の場合と同様の対応になります。サイトライセンスの証明書には、無制限の数に対して有効なライセンスキーであることが明記されます。
NetBackup リモート管理コンソールを使用可能にするにはライセンスキーが必要ですか。	いいえ。NetBackup リモート管理コンソールには、特別なライセンスキーは必要ありません。NetBackup リモート管理コンソールは、マスターサーバーにアクセス可能な任意のコンピュータにインストールできます。
ライセンスキーは何回でも使用できますか。	はい。ライセンスキーは何回でも使用できます。ただし、購入したライセンス数を超える NetBackup サーバー、クライアント、エージェント、別ライセンス製品をインストールしたり使うことは法的に認められていません。

質問	回答
既存のユーザーの場合、ライセンスキーを入手する方法を教えてください。	ベリタスと現行の保守契約を締結しているすべての NetBackup ユーザーは、最新バージョンの NetBackup を自動的に入手できます。 NetBackup メディアキットを受け取り、ライセンスを購入したコンポーネントごとのライセンスキーを受け取ります。 ベリタスの提携会社と保守契約を締結している場合は、提携会社を介してアップグレードを行います。詳しくは、提携会社にお問い合わせください。
正しいライセンスキーを入手していない場合の対処方法を教えてください。	正しいライセンスキーを受け取っていない場合は、ライセンスキーの証明書に記載されている注文管理部門の電話番号にお問い合わせください。テクニカルサポートでは、正規のライセンスキーは発行できません。ライセンスキーは、注文管理部門からのみ受け取ることができます。テクニカルサポートでは、正規のライセンスキーに関する問題が解決するまで、1 か月間有効の一時ライセンスキーを発行できます。
評価版のライセンスでは何が有効になりますか。	評価版のライセンスを使用すると、事前に決定されている期間は、 NetBackup と、そのエージェントおよび別ライセンス製品を無制限に使用できます。
評価版の期限切れが近づいたら通知されますか。	ライセンスキーの有効期限を調べるには、 NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <code>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</code>
評価版のライセンスの期限が切れるとどうなりますか。	NetBackup サービスまたはデーモンが停止されます。製品を使用しようすると評価期間が終了したことが通知されます。
評価版のライセンスの期限が切れた場合、バックアップ構成とカタログ情報は保存されますか。	はい。 NetBackup の評価版に正規のライセンスを追加すると、すぐにカタログ情報および構成情報にアクセスできるようになります。
評価版のライセンスを正規のライセンスにアップグレードする方法を教えてください。	とても簡単です。正規のライセンスを購入して NetBackup に追加します。評価版の構成情報とカタログデータはすべて保持されています。 正規のライセンスキーを入力するには、 NetBackup 管理コンソールを開き、[ヘルプ (Help)]>[ライセンスキー (License Keys)]を選択します。 UNIX サーバーでは、次のコマンドを実行することもできます。 <code>/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/get_license_key</code>

UNIX システムでのサーバーソフトウェアのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件](#)
- [インストールスクリプトの動作](#)
- [NetBackup ソフトウェアメディアのマウントについて](#)
- [NetBackup マスターサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール](#)
- [NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール](#)
- [マスターサーバーからクライアントへのクライアントソフトウェアのプッシュインストールについて](#)

UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件

[表 3-1](#) は NetBackup のインストールのために UNIX と Linux システムを準備するための要件を記述します。各項目に対応するためにチェックリストとしてこの表を使ってください。

インストールの必要条件に関する最新情報について詳しくは [SORT Web サイト](#) を参照してください。SORT に関する詳しい情報を参照できます。

p.9 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

表 3-1 UNIX および Linux での NetBackup のインストールおよびアップグレード要件

チェック	要件	詳細
	オペレーティングシステム	■ UNIX と Linux の互換性のあるオペレーティングシステムの完全なリストについては、次の Web サイトで『Software Compatibility List (SCL)』を参照してください。 http://www.netbackup.com/compatibility https://sort.veritas.com/netbackup
	メモリ	■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のマスターサーバーごとに、最低 8 GB のメモリを搭載する必要があります。 ■ 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のメディアサーバーごとに、最低 4 GB のメモリを搭載する必要があります。 ■ 本番環境では、いずれのクライアントにも最低 512 MB のメモリを搭載する必要があります。 ■ NetBackup-Java インターフェースの適正なパフォーマンスのため、512 MB の RAM が必要です。その領域のうち、256 MB はインターフェースプログラム (jnbSA または jbpSA) で利用可能である必要があります。 メモリの要件についての追加情報に関しては、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	ディスク領域	■ 必要となる正確な空き領域はハードウェアプラットフォームによって決まります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。 8.0 の NetBackup リリースノート http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ NetBackup カタログには、バックアップについての情報が含まれているため、製品の使用に伴ってサイズが大きくなります。カタログに必要なディスク領域は、主に、次のバックアップ構成によって異なります。 ■ バックアップ対象のファイル数。 ■ バックアップの間隔。 ■ バックアップデータの保持期間。 空き容量など、領域に問題がある場合は、NetBackup を代替のファイルシステムにインストールすることができます。インストールの際に、代替のインストール場所を選択して、/usr/openv からの適切なリンクを作成することができます。 メモ: ディスク領域の値は初回インストール用です。NetBackup カタログはマスターサーバーが本番環境になっているときにかなり多くの領域を必要とします。NetBackup カタログのサイズ変更の要件について詳しくは、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332

チェック	要件	詳細
	一般要件	■ gzip および gunzip コマンドがローカルシステムにインストールされていることを確認してください。これらのコマンドがインストールされているディレクトリは、root ユーザーの PATH 環境変数設定に含まれている必要があります。 ■ すべてのサーバーに対する、すべての NetBackup インストール DVD または ESD イメージ、有効なライセンス、および root ユーザーのパスワード。 ■ サポートされているハードウェアでサポートされているバージョンのオペレーティングシステム (パッチを適用済みであること) を稼働しているサーバー、十分なディスク領域、およびサポートされている周辺装置。これらの要件について詳しくは、『NetBackup リリースノート UNIX、Windows および Linux』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332 ■ すべての NetBackup サーバーがクライアントシステムを認識し、またクライアントシステムから認識されている必要があります。一部の環境では、それぞれの /etc/hosts ファイルに対して、もう一方の定義を行う必要があります。また、他の環境の場合は、ネットワーク情報サービス (NIS) またはドメインネームサービス (DNS) を使用することになります。 ■ 画面解像度には 1024 x 768、256 色以上が必要です。
	クラスタシステム	■ NetBackup クラスタ内の各ノードで ssh コマンド、rsh コマンド、または同等のコマンド (HP-UX システムでは remsh) を実行できることを確認します。root ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログインできる必要があります。このリモートログインは、NetBackup サーバー、NetBackup エージェントおよび別ライセンス製品のインストールと構成を行うときに必要です。インストールおよび構成を完了した後は不要になります。 ■ NetBackup をインストールする前に、クラスタフレームワークをインストールして構成し、起動しておく必要があります。 ■ DNS、NIS、/etc/hosts ファイルを使って仮想名を定義しておく必要があります。IP アドレスも同時に定義します。(仮想名は IP アドレスのラベルです。) クラスタ要件に関する詳細情報を参照できます。 『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	NFS の互換性	NFS マウントされたディレクトリへの NetBackup のインストールはサポートされていません。NFS マウントしたファイルシステムのファイルロックは確実にない場合があります。
	カーネルの再構成	一部の周辺機器およびプラットフォームでは、カーネルの再構成が必要です。 詳しくは、『NetBackup デバイス構成ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	Red Hat Linux	Red Hat Linux の場合、サーバー用のネットワーク構成にする必要があります。

チェック	要件	詳細
	他のバックアップソフトウェア	この製品をインストールする前に、現在システムに構成されている他のベンダーのバックアップソフトウェアをすべて削除することをお勧めします。他のベンダーのバックアップソフトウェアによって、NetBackup のインストールおよび機能に悪影響が及ぼされる場合があります。
	Web サービス	NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。これらの必須アカウント要素は、インストールの前に作成しておく必要があります。詳しくは以下の URL を参照してください。 https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000081350 メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスのために使うユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントと資格情報が必要です。 メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法について詳しくは、次をご覧ください。 https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774 デフォルトでは、UNIX インストールスクリプトは、Web サーバーをユーザーアカウント nbwebsvc およびグループアカウント nbwebgrp に関連付けようとします。これらのデフォルト値は、NetBackup インストール応答ファイルに上書きできます。UNIX のインストールスクリプトを開始する前に、ターゲットホストに NetBackup インストール応答ファイルを設定する必要があります。NetBackup インストール応答ファイルにカスタム Web サーバーアカウント名を次に示すように設定します。 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。 - 任意のテキストエディタでファイル /tmp/NBInstallAnswer.conf を開きます。ファイルが存在しない場合はファイルを作成します。 - 次に示す行を追加して、デフォルトの Web サーバーユーザーアカウント名を上書きします。 <pre>WEBSVC_USER=custom_user_account_name</pre> - 次に示す行を追加して、デフォルトの Web サーバークラスアカウント名を上書きします。 <pre>WEBSVC_GROUP=custom_group_account_name</pre> - ファイルを保存して閉じます。

マスターサーバーとメディアサーバーが NetBackup Appliance でない かぎり、Windows と UNIX プラットフォームの英語以外のバージョンを 混在させない

マスターサーバーとメディアサーバーが NetBackup アプライアンスでないかぎり、Windows と UNIX プラットフォームの英語以外のバージョンを混合しないでください。英語版以外の Windows と UNIX プラットフォームを混在させると、オペレーティングシステムアーキテクチャとエンコードの相違により、非 ASCII のファイル名とフォルダ名がユーザーインターフェースに正しく表示されなくなる可能性があります。この問題により正常に動作しなくなることがあります。

異なるバージョンの UNIX ベースオペレーティングシステムを実行する 環境での NetBackup のインストール

NetBackup は、システムロケールが同一であるかぎり、異なるバージョンの UNIX ベースのオペレーティングシステムを実行している環境にインストールできます。複数の UNIX プラットフォームで異なるロケールを使用すると、ユーザーインターフェースで非 ASCII のファイル名やフォルダ名が正しく表示されない原因になります。この問題により正常に動作しなくなることがあります。

Solaris システムの特別なインストールガイドライン

カーネルパラメータには、メッセージキュー、セマフォ、共有メモリのパラメータなど、NetBackup のパフォーマンスに影響を与える可能性のあるパラメータがあります。これらの値を調整することによって、システムパフォーマンスが低下したり、デッドロックの状態になることを回避できる場合があります。

チューニング可能なパラメータについて詳しくはオンラインで参照してください。

- NetBackup *NIX セマフォのチューニング推奨値 (Linux、Solaris、HP-UX、AIX)
<http://www.veritas.com/docs/TECH203066>
- NetBackup 用 Solaris 10 の調整
<http://www.veritas.com/docs/TECH63229>
- NetBackup メディアサーバープロセス (bptm / bpdm) 用 Solaris 10 共有メモリの調整
<http://www.veritas.com/docs/TECH62633>
このリンクは NetBackup 6 を参照しています。x の情報は、NetBackup 7 にも引き続き有効です。x。

パラメータの定義と例について詳しくは、サポート Web サイトの『NetBackup バックアップ計画とパフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

HP-UX システムの特別なインストールガイドライン

HP-UX システムに **NetBackup** をインストールする場合は、次のガイドラインを使用してください。

- 長いファイル名をサポートしているファイルシステムにインストールしてください。
- **NetBackup** のインストール中、**NetBackup** データベースの作成時に次のエラーが発生する可能性があります。

```
SQL error (-832) -- Connection error: Insufficient system  
resources - failed to allocate a SYSV semaphore
```

このエラーを修正するには、HP-UX カーネルのセマフォの数を増やします。

HP-UX パラメータを変更する方法については、『**NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide**』の OS に関連するチューニング要素に関する章を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

AIX マスターサーバーの特別なガイドライン

メモリに関する既知の問題により、AIX マスターサーバーのメモリ値をリセットすることをお勧めします。次のコマンドを実行することをお勧めします。

- `ulimit -s unlimited`
- `ulimit -d unlimited`
- `ulimit -m unlimited`

この変更により、物理メモリ、データ領域、およびスタックのサイズが無制限に設定されます。これにより、AIX のメモリに関する既知の問題が解決されます。`ulimit` の値を変更した後は、必ず **NetBackup** デーモンを停止して再起動してください。

UNIX クラスタ環境の特別なインストールガイドライン

クラスタシステムに **NetBackup** をインストールする場合は、次のガイドラインを使用してください。

- **NetBackup** クラスタ内の各ノードで `rsh` コマンドまたは同等のコマンド (HP-UX システムでは `remsh`) を使用できることを確認します。**NetBackup 7.5** 以降では `ssh` コマンドを使うこともできます。`root` ユーザーとして、パスワードを入力せずにクラスタ内の各ノードにリモートログインする必要があります。このリモートログインは、**NetBackup** サーバーとすべての **NetBackup** 別ライセンス製品のインストールと構成を行うときに必要です。インストールおよび構成を完了した後は不要になります。
- **NetBackup** をインストールする前に、クラスタフレームワークをインストールして構成し、起動しておく必要があります。インストールに関する追加の前提条件および注意

事項については、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化 管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- DNS、NIS または `/etc/hosts` を使用して、仮想名を定義しておく必要があります。IP アドレスも同時に定義します。(仮想名は IP アドレスのラベルです。) この仮想名および IP アドレスは、NetBackup のリソースにだけ使用します。

インストールスクリプトの動作

NetBackup サーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアもインストールされます。

NetBackup 8.0 をインストールすると、次の別ライセンス製品もインストールされます(プラットフォームでサポートされている場合)。

- BMR マスターサーバー
- NDMP
- Veritas Product Authentication and Authorization (NetBackup アクセス制御)
- Vault
- BMR ブートサーバー
- DB2
- 暗号化
- Informix
- LiveUpdate エージェント
- Lotus Notes
- Oracle
- SAP
- Snapshot Client
- Sybase

インストールの完了後、これらの機能を有効にするには、各別ライセンス製品の有効なライセンスキーを入力する必要があります。各別ライセンス製品も必要に応じて構成する必要があります。

サーバーソフトウェアと別ライセンス製品に加えて、インストールスクリプトは次のタスクを実行します。

ホスト名	サーバーの <code>/usr/opensv/netbackup/bp.conf</code> ファイルに、ホスト名を書き込みます。 クラスタ環境では、スクリプトはサーバーの <code>/usr/opensv/netbackup/bp.conf</code> ファイルに仮想ホスト名を書き込みます。
自動起動スクリプトと自動停止スクリプト	サポートされているプラットフォームの適切なディレクトリに、自動起動および停止スクリプトを追加します。
PBX	PBX をサポートするプラットフォームでは、クライアントソフトウェアのインストール時に、NetBackup バージョン 7.x によって PBX がインストールまたは更新されます。 NetBackup をインストールするコンピュータにまだ PBX がインストールされておらず、プラットフォームで PBX がサポートされている場合は、インストールスクリプトによって PBX がインストールされます。 PBX がコンピュータにすでにあれば、インストールスクリプトは次のタスクの 1 つを実行します。 ■ 8.0 に含まれているバージョンより古ければ既存のバージョンを更新します。 ■ 既存のバージョンが 8.0 に含まれているバージョンと同じかまたはそれ以降なら PBX を更新しません。 メモ: NetBackup 6.0 または 6.5 からアップグレードする場合、PBX が正しくアップグレードされないことがあります。PBX のアップグレードが正常に行われなければ、古いバージョンを削除するために 6.0 か 6.5 のパッケージの ICS ディスクを使ってください。詳しくは、NetBackup のそれらのバージョンの『Infrastructure Core Services Installation Guide for UNIX』を参照してください。

NetBackup ソフトウェアメディアのマウントについて

NetBackup DVD をマウントするときは、ガイドラインとして次の表の例を使ってください。他のフラグまたはオプションが必要かどうかは、ハードウェアのご購入先に確認してください。

表 3-2 NetBackup DVD をマウントするためのフラグとオプション

フラグかオプション	定義
-v、-t、-f	マウントするファイルシステムの種類を指定します。
-o	必要に応じてファイル名を正しく変換します。

フラグかオプション	定義
-r	DVD を読み込み用にマウントしたいことを指定します。
device_path	DVD ドライブの名前を指定します。
mount_point	DVD をマウントしたいディレクトリを指定します。

p.37 の「UNIX または Linux システムでの NetBackup ソフトウェアメディアのマウント」を参照してください。

UNIX または Linux システムでの NetBackup ソフトウェアメディアのマウント

次の手順は UNIX または Linux システムで NetBackup DVD をマウントする方法を示しています。

UNIX または Linux システムで NetBackup DVD をマウントする方法

- 1 root ユーザーとしてログインします。
- 2 マウントポイントを作成します (Solarisを除くすべて)。

```
mkdir /dvd
```

- 3 (該当する場合) 11.23 以前の HP-UX システムで、PFS デーモンを起動します。

```
nohup pfs_mountd &
nohup pfsd &
```

- 4 オペレーティングシステムで適切なマウントコマンドを発行します。

AIX	<pre>mount -v cdrfs -r device_path mount_point</pre>
AIX	<pre>smitty cdrfs</pre> または <pre>smitty mountfs</pre>
11.23 以前の HP-UX	<pre>pfs_mount -o xlat=unix device_path mount_point</pre> デバイスパスを検出するには、ioscan -fn を実行します。
11.23 以後の HP-UX	<pre>mount -F cdrfs device_path mount_point</pre>
Linux	<pre>mount device_path mount_point</pre>
Solaris	Volume Manager (vold) が実行されている場合、DVD は自動的にマウントされます。 vold が実行されていない場合は、次のように起動します。 <pre>/usr/sbin/vold &</pre>

NetBackup マスターサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール

マスターサーバーでは、バックアップ、アーカイブおよびリストアが管理されます。マスターサーバーには、**NetBackup** カタログが格納されます。**NetBackup** カタログには、**NetBackup** 構成およびバックアップについての情報を持つ内部データベースが含まれます。

新規にマスターサーバーをインストールする場合は、次のガイドラインを使用してください。

マスターサーバーの指定	マスターサーバーにするコンピュータを指定し、最初に、そのコンピュータにマスターサーバーソフトウェアをインストールします。
EMM サーバー	NetBackup 7.6 以降では、マスターサーバーに EMM を構成する必要があります。すべてのマスターサーバーには、それぞれの EMM 構成が必要です。リモート EMM または共用 EMM は、サポートされなくなりました。
ライセンス	マスターサーバーのインストール時に、NetBackup 基本製品のライセンスキーを入力する必要があります。サーバーまたはクライアントで使用する NetBackup の別ライセンス製品またはエージェントを追加するたびに、ライセンスキーを入力する必要があります。これらの追加のライセンスキーは、マスターサーバーで入力する必要があります。 NetBackup-Java 管理コンソールでライセンスを追加または更新して保存を行った場合、コンソールを再起動する必要があります。 NetBackup のライセンスの管理については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332

NetBackup マスターサーバーソフトウェアをインストールする方法

- 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

DVD	■ ドライブに適切なプラットフォームの NetBackup サーバー DVD を挿入します。 内容を識別するには、DVD のラベルを確認します。 p.16 の「NetBackup メディアキットについて」を参照してください。 ■ 必要に応じて、DVD をマウントします。 p.36 の「NetBackup ソフトウェアメディアのマウントについて」を参照してください。 ■ 次のコマンドを入力します。 <code>dvd_directory/install</code> <code>dvd_directory</code> は、DVD にアクセス可能なディレクトリのパスです。
ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)	■ インストールイメージが存在する場所に移動します。 ■ 次のコマンドを入力します。 <code>./install</code>

- 3 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Server Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
ATTENTION! To help ensure a successful upgrade to NetBackup 8.0,
please visit the NetBackup 7.x Upgrade Portal:
http://www.veritas.com/docs/TECH74584.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

- 4 **NetBackup** のインストール場所について、適切なプラットフォーム情報を次のように入力します。

- 次の質問が表示されたら、Enter キーを押してデフォルト (y) を受け入れます。

```
The NetBackup and Media Manager software is built
for use on <platform> hardware. Do you want to install
NetBackup and Media Manager files? [y,n] (y)
```

- 次の質問が表示されたら、**NetBackup** と **Media Manager** ソフトウェアをインストールする場所を選択します。

```
NetBackup and Media Manager are normally
installed in /usr/opensv.
Is it OK to install in /usr/opensv? [y,n] (y)
```

Solarisのために表示されるパスは/opt/opensvです。

デフォルト (y) を受け入れるためには、Enter キーを押します。

インストール場所を変更するには、n と入力し、Enter キーを押します。それから適切な宛先を入力します。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.8 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。

- 5 NetBackup サーバーまたは Enterprise Server のライセンスキーを入力します。
- 6 y を入力し、次に、プロンプトに従って NetBackup の他の別ライセンス製品およびエージェントのライセンスキーを追加します。

ライセンスキーは後で追加できますが、ここで入力することをお勧めします。
NetBackup-Java 管理コンソールを使用してライセンスキーを後で追加する場合は、コンソールを再起動する必要があります。
- 7 すべてのライセンスキーの入力後、q を入力して License Key ユーティリティを終了し、サーバーソフトウェアのインストールを完了します。
- 8 次のメッセージが表示されたら、正しいコンピュータ名を確認または入力します。

```
Installing NetBackup Enterprise Server version: 8.0
If this machine will be using a different network interface than

the default (name), the name of the preferred interface
should be used as the configured server name. If this machine
will be part of a cluster, the virtual name should be used as the

configured server name.
The domainname of your server appears to be "domain". You
may choose to use this domainname in your configured NetBackup
server name, or simply use "name" as the configured
NetBackup server name.
Would you like to use "name.domain" as the configured NetBackup
server
name of this machine? [y, n] (y)
```

メモ: ドメイン名の間違った情報は、認証ブローカーおよび NetBackup アクセス制御の構成中にエラーを発生させます。この問題を解決するには、bpnbaz -configureauth コマンドを使って、認証ブローカーを構成してください。bpnbaz -configureauth コマンドについて詳しくは、次を参照してください。

Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

-
- 表示された (デフォルトの) 名前を受け入れるには、Enter キーを押します。

- 表示された (デフォルトの) 名前を変更するには、n を入力して、名前を入力します。
- クラスタ化された NetBackup サーバーの場合、NetBackup サーバーの実際のローカルホスト名ではなく仮想名を入力します。

9 次の質問が表示された場合は、質問に答えてマスターサーバーを指定または確認します。

Is <name> the master server? [y, n] (y)

- Enter キーを押して、表示された名前 (前の手順で指定したマシン名) を受け入れます。
- 前の手順でサーバーの仮想名を入力した場合、インストールスクリプトは次の質問を示します。

Is this server part of a cluster installation?

答えが「はい」である場合は、y を押し、表示される一連のクラスタ構成の質問に答えます。

答えが「いいえ」である場合は、n を押します。

10 次の質問が表示された場合は、質問に答えてこのマスターサーバーにメディアサーバーを使用しているかどうかを指定します。

Do you want to add any media servers now? [y, n] (n)

- このマスターサーバーにメディアサーバーを使用していない場合は、Enter キーを押して、次の手順に進みます。
- このマスターサーバーにメディアサーバーを使用している場合は、y を入力し、各メディアサーバーの名前を入力します。
メディアサーバー名を入力する場合は、コンピュータ名とドメイン名を入力する必要があります。次に例を示します。

alpha.domain.com

alpha はコンピュータ名で、domain.com はドメイン名です。

ここに入力するメディアサーバー名は、マスターサーバーの bp.conf ファイルに自動的に追加されます。メディアサーバーのソフトウェアを後でインストールすると、マスターサーバーはメディアサーバーとすぐに通信できます。

- 既存の NetBackup 運用環境にメディアサーバーを追加する場合は、このマニュアルの手順を使うことができません。既存の NetBackup 運用環境にメディアサーバーを追加する方法の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 2』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 11 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押し、EMM サーバーのデフォルト名を受け入れます。NetBackup 7.6 以降では、マスターサーバーに EMM を構成する必要があります。すべてのマスターサーバーには、それぞれの EMM 構成が必要です。リモート EMM または共用 EMM は、サポートされなくなりました。

```
NetBackup maintains a centralized catalog (separate from the
image catalog) for data related to media and device
configuration, device management, storage units, hosts and host
aliases, media server status, NDMP credentials, and other
information. This is managed by the Enterprise Media Manager
server.
Enter the name of the Enterprise Media Manager (default: <name>)
```

- 12 次の質問が表示されたら、質問に答えます。

```
Do you want to start the NetBackup job-related processes so
backups and
restores can be initiated? [y, n] (y)
```

- クラスタ化された NetBackup サーバーがある(または導入を予定している)場合は、n を入力します。
 - 非クラスタインストールの場合は、Enter キーを押してデフォルトの答えの y を受け入れ、NetBackup プロセスと EMM サーバーを起動します。
メディアサーバーを後でインストールする場合、EMM サーバーが実行されている必要があるため、これらのプロセスをすぐに起動する必要があります。
- 13 クラスタ化された NetBackup マスターサーバーの場合、NetBackup を実行するすべてのノードでこれらの手順を繰り返します。
- 14 初期インストールが完了したら、他の NetBackup アドオン製品 (言語パッケージなど) をインストールできます。

NetBackup ソフトウェアのインストール

マスターサーバーソフトウェアをインストールした後、ご使用の環境に応じて、メディアサーバーソフトウェアまたはクライアントソフトウェアをインストールできます。

- システムにメディアサーバーがあれば、メディアサーバーソフトウェアをインストールする準備ができています。
p.44 の「[NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール](#)」を参照してください。
- ご使用の環境にメディアサーバーが存在しない場合、クライアントコンピュータにクライアントソフトウェアをインストールできます。
 - p.101 の「[UNIX クライアントのローカルインストール](#)」を参照してください。

- マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをインストールするには (推奨)、クライアント形式のソフトウェアを最初にマスターサーバーにインストールする必要があります。
p.49 の「[マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

NetBackup メディアサーバーソフトウェアの UNIX へのインストール

この項では、新しい NetBackup メディアサーバーをインストールする方法を記述します。NetBackup の既存のバージョンがないコンピュータにサーバーソフトウェアをインストールするためにこの情報を使ってください。

メディアサーバーソフトウェアを使用すると、NetBackup 環境内のロボットおよびストレージデバイスを管理できます。

マスターサーバーおよび EMM サーバーソフトウェアをインストールした後、メディアサーバーコンピュータにメディアサーバーソフトウェアをインストールできます。

新しいメディアサーバーをインストールする場合は、次のガイドラインを使用してください。

メディアサーバーの指定 メディアサーバーにするコンピュータを指定し、それらにメディアサーバーソフトウェアをインストールします。

クラスタ 新規か最初の NetBackup 7.x メディアサーバーは、クラスタとしてインストールできません。ただし、NetBackup 6.x のクラスタ化された既存のメディアサーバーは、NetBackup 7.x にアップグレードしてクラスタ化されたままにできます。

EMM サーバー EMM サーバーは、メディアサーバーソフトウェアをインストールする前にインストールして実行しておく必要があります。

ライセンスキー NetBackup メディアサーバーソフトウェアをインストールするときに、NetBackup 製品のライセンスキーを入力する必要があります。サーバーまたはクライアントで使用する NetBackup の別ライセンス製品またはエージェントを追加するときも、ライセンスファイルを入力する必要があります。これらの追加ライセンスキーは、メディアサーバーごとに入力する必要があります。

NetBackup のライセンスの管理について詳しくは『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: NetBackup-Java 管理コンソールでライセンスキーを変更して保存する場合は、コンソールを再起動する必要があります。

IBMzSeries RedHat と NetBackup 7.0.1 以降、これらのプラットフォームはメディアサーバーと
 IBMzSeries SUSE としての使用のみサポートされるようになりました。

NetBackup メディアサーバーソフトウェアをインストールする方法

- 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

DVD

- ドライブに適切なプラットフォームの NetBackup サーバー DVD を挿入します。
 内容を識別するには、DVD のラベルを確認します。
 p.16 の「[NetBackup メディアキットについて](#)」を参照してください。
- 必要に応じて、DVD をマウントします。
 p.36 の「[NetBackup ソフトウェアメディアのマウントについて](#)」を参照してください。
- 次のコマンドを入力します。
`dvd_directory/install`
`dvd_directory` は、DVD にアクセス可能なディレクトリのパスです。

ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)

- インストールイメージが存在する場所に移動します。
- 次のコマンドを入力します。
`./install`

- 3 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Server Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
ATTENTION! To help ensure a successful upgrade to NetBackup 8.0,
please visit the NetBackup 7.x Upgrade Portal:
http://www.veritas.com/docs/TECH74584.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

- 4 **NetBackup** のインストール場所について、適切なプラットフォーム情報を次のように入力します。

- 次の質問が表示されたら、Enter キーを押してデフォルト (y) を受け入れます。

```
The NetBackup and Media Manager software is built
for use on <platform> hardware. Do you want to install
NetBackup and Media Manager files? [y,n] (y)
```

- 次の質問が表示されたら、**NetBackup** と **Media Manager** ソフトウェアをインストールする場所を選択します。

```
NetBackup and Media Manager are normally
installed in /usr/opensv.
Is it OK to install in /usr/opensv? [y,n] (y)
```

Solarisのために表示されるパスは/opt/opensvです。

デフォルト (y) を受け入れるためには、Enter キーを押します。

インストール場所を変更するには、n と入力し、Enter キーを押します。それから適切な宛先を入力します。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.8 の「**NetBackup インストールディレクトリの制限事項**」を参照してください。

- 5 **NetBackup** サーバーまたは **NetBackup Enterprise** サーバーのライセンスキーを入力します。

- 6 y を入力し、次に、プロンプトに従って **NetBackup** の他の別ライセンス製品およびエージェントのライセンスキーを追加します。

ライセンスキーは後で追加できますが、ここで入力することをお勧めします。

NetBackup-Java 管理コンソールを使用してライセンスキーを後で追加する場合は、コンソールを再起動する必要があります。

- 7 すべてのライセンスキーの入力後、q を入力して **License Key** ユーティリティを終了し、サーバーソフトウェアのインストールを完了します。

- 8 次のメッセージが表示されたら、正しいコンピュータ名を確認または入力します。

```
Installing NetBackup Enterprise Server version: 8.0
If this machine will be using a different network interface than

the default (name), the name of the preferred interface
should be used as the configured server name. If this machine
will be part of a cluster, the virtual name should be used as the

configured server name.
The domainname of your server appears to be "domain". You
may choose to use this domainname in your configured NetBackup
server name, or simply use "name" as the configured
NetBackup server name.
Would you like to use "name" as the configured NetBackup server
name of this machine? [y, n] (y)
```

メモ: ドメイン名の間違った情報は、認証ブローカーおよび **NetBackup** アクセス制御の構成中にエラーを発生させます。この問題を解決するには、bpnbaz -configureauth コマンドを使って、認証ブローカーを構成してください。bpnbaz -configureauth コマンドについて詳しくは、次を参照してください。

Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 表示された(デフォルトの)メディアサーバーの名前が正しかったら、Enter キーを押します。
 - 表示された(デフォルトの)メディアサーバーの名前が正しくなかったら、n を入力し、正しい名前を入力します。
- 9 次の質問が表示された場合は、質問に答えて、すでにインストールしてあるマスターサーバーを指定します。

Is <name> the master server? [y,n]

- n を入力し、マスターサーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。
 - マスターサーバーがクラスタ化されている場合は、マスターサーバーの仮想名を入力します。
- 10 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押し、EMM サーバーのデフォルト名を受け入れます。NetBackup 7.6 以降では、マスターサーバーに EMM を構成する必要があります。すべてのマスターサーバーには、それぞれの EMM 構成が必要です。リモート EMM または共用 EMM は、サポートされなくなりました。

Enter the name of the Enterprise Media Manager (default: <name>)

マスターサーバー名は、デフォルトで表示されます。

- 11 残りのメディアサーバーにメディアサーバーソフトウェアをインストールするには、手順 1 から 10 を繰り返します。

マスターサーバーからクライアントへのクライアントソフトウェアのプッシュインストールについて

マスターサーバーからクライアントにソフトウェアをプッシュインストールすることによって、クライアントのインストールを迅速に実行できます。この方式を使用すると、各クライアントでローカルインストールする必要がなくなります。

次に、マスターサーバーからクライアントソフトウェアをインストールするための NetBackup 環境の準備方法について説明します。

- マスターサーバーにクライアント形式のソフトウェアをインストールします。NetBackup 構成に関係するすべてのクライアント形式をインストールしてください。
 p.49 の「[マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。
- マスターサーバーからクライアントソフトウェアをプッシュインストールするには、各クライアント名を NetBackup ポリシーに割り当てておく必要があります。ポリシーは、マスターサーバー上に作成されます。

ポリシーを作成する場合、ポリシー形式を指定して、そのポリシーに割り当てられるクライアントのオペレーティングシステムを示す必要があります。ポリシーが存在しない場合、マスターサーバーによってクライアントのオペレーティングシステムが認識されないため、リモートインストール (またはプッシュインストール) は失敗します。

NetBackup ポリシーの作成方法については、『**NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 必要なポリシーが作成された後に、マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをプッシュインストールできます。
- p.106 の「**UNIX** または **Linux** クライアントのリモートインストール方式について」を参照してください。

マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール

次の操作を行うには、クライアント形式のソフトウェアをマスターサーバーにインストールする必要があります。

- **NetBackup** ポリシーにクライアントを割り当て、クライアントをバックアップできるようにする
- マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをインストールする (またはプッシュインストールする)

UNIX クライアント形式では、クライアントインストールスクリプトによって、クライアントソフトウェアをマスターサーバーにインストールできます。その後、マスターサーバーからクライアントにクライアントソフトウェアをインストール (またはプッシュインストール) できます。

マスターサーバーにクライアント形式のソフトウェアをインストールする方法

- 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

DVD

- ドライブに **NetBackup UNIX** クライアントの DVD を挿入します。
 p.16 の「**NetBackup** メディアキットについて」を参照してください。
- 必要に応じて、DVD をマウントします。
 p.36 の「**NetBackup** ソフトウェアメディアのマウントについて」を参照してください。
- 次のコマンドを入力します。
`dvd_directory/install`
dvd_directory は、DVD にアクセス可能なディレクトリのパスです。

- ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
- インストールイメージが存在する場所に移動します。
 - 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

- 3** 次のメッセージが表示されたら、**Enter** キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Client Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

- 4** インストールしたいすべてのクライアント形式を選択し、インストールのプロンプトに従います。

Windows システムでのサーバーソフトウェアのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [Windows](#) および [Windows クラスタ](#) のインストールおよびアップグレード要件
- [NetBackup](#) のインストール前の環境チェッカーについて
- [インストール前の環境チェッカーの実行](#)
- [Windows クラスタのインストールとアップグレードの要件](#)
- [Windows システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバーインストールの実行](#)
- [NetBackup クラスタ環境のインストール後の作業](#)
- [Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認](#)
- [Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール](#)

Windows および Windows クラスタのインストールおよびアップグレード要件

[表 4-1](#) は [NetBackup](#) のインストールのために [Windows](#) システムを準備するための要件を記述します。各項目に対応するためにチェックリストとしてこの表を使ってください。

インストールの必要条件に関する最新情報について詳しくは [SORT Web](#) サイトを参照してください。[SORT](#) に関する詳しい情報を参照できます。

p.9 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools](#) について」を参照してください。

表 4-1 Windows および Windows クラスタでの NetBackup のインストールおよびアップグレード要件

チェック	要件	詳細
	オペレーティングシステム	- 最新のオペレーティングシステムパッチと更新を適用したことを確認します。オペレーティングシステムが最新のものかどうか不明な場合は、ご購入先にお問い合わせのうえ、最新のパッチおよび更新版を入手してください。 - Windows の互換性のあるオペレーティングシステムの完全なリストについては、次の Web サイトで『Software Compatibility List (SCL)』を参照してください。 http://www.netbackup.com/compatibility
	メモリ	- 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のマスターサーバーごとに、最低 8 GB のメモリを搭載する必要があります。 - 複数のデータベースエージェントが有効になっている本番環境のメディアサーバーごとに、最低 4 GB のメモリを搭載する必要があります。 メモリの要件についての追加情報に関しては、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	ディスク領域	- NTFS パーティション。 - サーバーソフトウェアおよび NetBackup カタログに対応するために必要となる正確な空き領域は、ハードウェアプラットフォームによって決まります。このトピックに関する詳細情報を参照できます。 8.0 の NetBackup リリースノート http://www.veritas.com/docs/DOC5332 - アップグレードの場合は、Windows がインストールされているドライブに、さらに 500 MB のディスク領域が必要になります。アップグレードの完了後は、この領域は不要です。 - NetBackup カタログには、バックアップについての情報が含まれているため、製品の使用に伴ってサイズが大きくなります。カタログに必要なディスク領域は、主に、次のバックアップ構成によって異なります。 - バックアップ対象のファイル数。 - バックアップの間隔。 - バックアップデータの保持期間。 - ディスクストレージユニットボリュームまたはファイルシステムで 5% 以上の利用可能なディスク容量を確保することを推奨します。 メモ: ディスク領域の値は初回インストール用です。NetBackup カタログはマスターサーバーが本番環境になっているときにかなり多くの領域を必要とします。NetBackup カタログのサイズ変更の要件について詳しくは、『NetBackup Backup Planning and Performance Tuning Guide』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332

チェック	要件	詳細
	一般要件	以下の項目すべてがあることを確認します。 ■ NetBackup インストール DVD か ESD イメージ ■ 適切なライセンスキー ■ すべてのサーバーの管理者アカウントとパスワード ■ 画面解像度は 1024 x 768、256 色以上に設定してください。 メモ: Windows 2008 Server、Windows 2008 R2 Server、Windows 2012 R2、Windows 2012 UAC が有効な環境で NetBackup をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、UAC が有効な環境で NetBackup をインストールできません。管理者グループのユーザーが NetBackup をインストールできるようにするには、UAC を無効化します。

チェック	要件	詳細
	リモートインストールおよびクラスタインストール	

チェック	要件	詳細
		リモートインストールおよびクラスタインストールには、前述のすべてのインストール要件に加えて、次のガイドラインが適用されます。 ■ クラスタ内のすべてのノードで、同じバージョンのオペレーティングシステム、Service Pack および NetBackup を実行している必要があります。サーバーのオペレーティングシステムに異なるバージョンを混在させることはできません。 ■ インストールのアカウントには、すべてのリモートシステムまたはクラスタ内のすべてのノードの管理者権限が必要です。 ■ インストール元のシステム (またはプライマリノード) では、Windows 2008/2008 R2 Server/Windows 2012/2012 R2 のいずれかを実行している必要があります。 ■ インストール先のコンピュータ (またはクラスタノード) に Windows 2008/2008 R2/Windows 2012/2012 R2 のいずれかがインストールされている必要があります。 ■ Remote Registry サービスはリモートシステムで開始する必要があります。 NetBackup 7.5.0.6 以降で、NetBackup のインストーラはリモートシステムの Remote Registry サービスを有効にし、開始できます。Remote Registry サービスが開始されない場合、インストールは次のエラーメッセージを受信します。 Attempting to connect to server server_name failed with the following error: Unable to connect to the remote system. One possible cause for this is the absence of the Remote Registry service. Please ensure this service is started on the remote host and try again. ■ NetBackup の仮想名と IP アドレス NetBackup で利用可能な仮想名および IP アドレスを用意します。インストール中に、この情報を入力する必要があります。 ■ メディアサーバーのクラスタのサポートの変更 NetBackup 7.1 からは、クラスタ化されたメディアサーバーの新しいインストールを実行することはできません。ただし、クラスタ化された既存の 6.x メディアサーバーは NetBackup 8.0 にアップグレードして、クラスタ化されたままにできます。 ■ Windows Server Failover Clustering (WSFC) ■ NetBackup グループによって使用される共有ディスクがクラスタ内で構成され、アクティブノードでオンラインになっている必要があります。 ■ NetBackup を共有ディスクが存在するノード (アクティブノード) からインストールします。 ■ コンピュータ名またはホスト名は 15 文字より長い名前には設定できません。 ■ Cluster Server (VCS) のクラスタ ■ SFW-HA 4.1 と SFW-HA 4.2 の場合: バージョン 7.x をインストールするか、またはバージョン 6.x からアップグレードする前に、次の Web サイトからパッチをインストールしてください。 http://entsupport.veritas.com/docs/278307 ■ NetBackup をインストールする前に、すべての NetBackup ディスクリソースを、Veritas Enterprise Administrator (VEA) で構成しておく必要があります。 ■ クラスタノードのデバイス構成とアップグレード クラスタをアップグレードする場合、ltid およびロボットデーモンは、特定のクラスタノードのデバイス構成を EMM データベースから取得します。EMM データベースでのデバイス

チェック	要件	詳細
		構成の格納または取得は、クラスタノード名 (gethostname を使用して表示) によって行われます。クラスタノード名は、デバイス構成の更新時 (ltid によるドライブ状態の更新時など) に使われます。クラスタノード名は、デバイスの接続先を示す場合にのみ使用されます。NetBackup の仮想名は、ロボット制御ホストなど、他の目的にも使用されます。 クラスタ要件に関する詳細情報を参照できます。 『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』 http://www.veritas.com/docs/DOC5332
	リモート管理コンソールのホスト名	マスターサーバーのインストール中に、リモート管理コンソールホストの名前を入力する必要があります。
	NetBackup 通信	ネットワークがすべてのサーバーおよびクライアントから認識され、相互に通信できるように構成されていることを確認します。 通常は、ping コマンドを実行してサーバーからクライアントにアクセスできるように設定されている場合は、NetBackup でも正しく動作します。 ■ NetBackup サービスおよびポート番号は、ネットワーク全体で同じである必要があります。 ■ デフォルトのポート設定を NetBackup サービスとインターネットサービスのポートに使うことを推奨します。ポート番号を変更する場合は、すべてのマスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントに対して同じ値を設定する必要があります。ポートエントリは、次のファイルに格納されています。 %SYSTEMROOT%\system32\drivers\etc\services。デフォルト設定を変更するには、NetBackup のカスタムインストールを行うか、services ファイルを手動で編集する必要があります。
	CIFS マウントされたファイルシステム	CIFS マウントされたディレクトリへの NetBackup のインストールはサポートされていません。 CIFS マウントしたファイルシステムのファイルロックは確実でない場合があります。
	ストレージデバイス	ロボットおよびスタンドアロンテープドライブなどのデバイスが製造元の指示どおりに取り付けられ、Windows ソフトウェアから認識されている必要があります。
	サーバー名	サーバー名の入力を求められたら、適切なホスト名を常に入力してください。IP アドレスを入力しないでください。
	バージョンの混在	使用を計画しているクライアントの最新バージョンと同じかそれ以上のリリースレベルの NetBackup サーバーをインストールしてください。サーバーソフトウェアのバージョンが古い場合、新しいバージョンのクライアントソフトウェアとともに使用すると、問題が発生する可能性があります。 p.9 の「NetBackup のバージョン間の互換性について」を参照してください。

チェック	要件	詳細
	Windows 2008/2008 R2 Server Core、2012/2012 R2 Server Core でのインストール	NetBackup はこれらのコンピュータにサイレントインストール方式でのみインストールできます。 p.77 の「Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール」を参照してください。
	他のバックアップソフトウェア	現在システムに構成されている他のベンダーのバックアップソフトウェアをすべて削除します。 他のベンダーのバックアップソフトウェアによって、NetBackup のインストールおよび機能に悪影響が及ぼされる場合があります。
	Web サービス	NetBackup 8.0 より、NetBackup マスターサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各マスターサーバー（またはクラスタ化されたマスターサーバーの各ノード）で使用できる必要があります。詳しくは以下の URL を参照してください。 https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000081350 メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスのために使うユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。マスターサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントと資格情報が必要です。 メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法について詳しくは、次をご覧ください。 https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115774

p.29 の「UNIX および Linux のインストールおよびアップグレード要件」を参照してください。

NetBackup のインストール前の環境チェッカーについて

メモ: インストール前の環境チェッカーは、非推奨のユーティリティです。SORT ツールの使用を推奨します。

p.9 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

NetBackup 7.1 以降、NetBackup サーバーの正常なインストールかアップグレードを妨げる可能性がある問題の識別に役立つように環境チェッカーが含まれています。環境チェッカーは現在、Windows でのみ利用可能です。

環境チェッカーは DVD ブラウザのリンクとして利用できます。チェッカーは、インストールまたはアップグレード前に実行するスタンドアロン機能です。

環境チェッカーでは次のことができます。

- 新しい NetBackup のインストールまたはアップグレードの準備ができているかどうかを判断するためのシステムの評価。
- ローカルとリモートの Windows システムの評価の実行。
- 手動またはネットワークの参照による、チェックするリモートコンピュータのリストの作成。
- NetBackup をマスターサーバーかメディアサーバーとしてサポートするすべてのサポート対象の Windows プラットフォーム (x86 と x64) での環境チェッカーの実行。
- 即時表示用の HTML レポートの生成。

p.58 の「インストール前の環境チェッカーの実行」を参照してください。

インストール前の環境チェッカーの実行

メモ: インストール前の環境チェッカーは、非推奨のユーティリティです。SORT ツールの使用を推奨します。

p.9 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

環境チェッカーを実行し、コンピュータで NetBackup のインストールの準備ができているかどうかを評価するには、次の手順を使います。

環境チェッカーを実行する方法

- 1 次の方法のいずれかを使用して、NetBackup インストールウィザードを起動します。
 - DVD メディア
ドライブに Windows 版 NetBackup の DVD を挿入します。自動再生機能が無効になっている場合は、DVD ドライブに移動して Browser.exe を実行します。
 - ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
イメージが存在するディレクトリに移動して、Browser.exe を実行します。
- 2 [ホーム (Home)] 画面で、[Preinstallation] をクリックします。

- 3 [Preinstallation]画面で、[Run the preinstallation Environment Checker]をクリックします。
- 4 [ようこそ (Welcome)]画面で内容を確認し、[次へ (Next)]をクリックします。
- 5 [Choose]画面で、チェックするシステムを次のとおり選択します。

Local Environment Check (デフォルト) ローカルコンピュータのみをチェックするためには、このオプションのチェックマークを付けたままにして[次へ (Next)]をクリックします。

コンピュータのチェックが完了した後、結果を示す概略ページが表示されます。

- Remote Environment Check**
- 1 つ以上のリモートコンピュータをチェックするためには、このオプションを選択し、[次へ (Next)]をクリックします。

メモ: ローカルコンピュータを含めるために[Local Environment Check]オプションを保持できます。また、除外するためにこのオプションを選択解除することもできます。
 - [削除 (Remove)]画面で、チェックするコンピュータを次のとおり追加するか、または削除します。
 - **Add Server From List**
 ネットワークで利用可能なシステムのリストからコンピュータを選択するためにこのオプションをクリックします。次に[次へ (Next)]をクリックします。
 選択したコンピュータの適切なユーザー名とパスワードを入力し、そして[OK]をクリックします。
 - **Add Server Manually**
 コンピュータ名を手動で追加するためにこのオプションをクリックします。
 [Manual Remote Computer Selection]ダイアログボックスで、適切なドメイン名とサーバー名を入力し、そして[OK]をクリックします。
 [Remote Computer Login Credentials]ダイアログボックスで、適切なユーザー名とパスワードを入力し、そして[OK]をクリックします。
 - **削除 (Remove)**
 [Remote Computers]リストからコンピュータを削除するために、リストからコンピュータを選択し、[削除 (Remove)]をクリックします。
 - チェックするすべてのコンピュータが[Remote Computers]リストに追加された後、[次へ (Next)]をクリックします。
 環境チェッカーは各リモートコンピュータの検証プロセスを実行します。すべてが完了した後、リストにあるすべてのコンピュータに対してチェックを開始するために[次へ (Next)]をクリックします。

- 6 すべてのコンピュータがチェックされたら、チェックされたシステムのリストが各コンピュータ名の下に簡潔な結果が示された状態で[結果 (Results)]画面に表示されます。そのコンピュータの完全な結果を参照するにはコンピュータ名をクリックします。次は概略に表示される記号の説明です。

緑色のチェックマーク	項目が NetBackup のインストールまたはアップグレードの要件を満たしていることを示します。
黄色い感嘆符	NetBackup のインストールまたはアップグレードで問題を起こす可能性がある潜在的な問題が検出されたことを示します。
赤い X	項目が NetBackup のインストール要件を満たしていないことを示します。 NetBackup のインストールかアップグレードを試みる前に赤い X が付いているすべての概略レポートの項目を訂正する必要があります。

メモ: ベリタスは黄色い感嘆符と赤い X でマーク付けされているすべての項目に対応することを推奨します。それから環境チェッカーを再び実行してください。

- 7 結果ファイルを保存するために、次のいずれかを実行します。
- 結果をデフォルトの場所に保存するためには、[Save Results To]チェックボックスのチェックマークをそのまま残しておきます。
 - 結果を異なる場所に保存するためには、[Change Path]をクリックし、適切な場所を入力してから[保存 (Save)]をクリックします。

結果ファイルを保存しない場合には、チェックマークを外すために[Save Results To]チェックボックスをクリックします。

- 8 環境チェッカーを終了するために、[完了 (Finish)]をクリックします。
- p.57 の「[NetBackup のインストール前の環境チェッカーについて](#)」を参照してください。
- p.9 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

Windows クラスタのインストールとアップグレードの要件

通常のサーバー要件に加えて、**NetBackup** のクラスタインストールは特別な配慮を必要とします。

次に、Windows システムで **NetBackup** のクラスタインストールおよびアップグレードを行う場合のガイドラインを記述します。

表 4-2 インストールとアップグレードに関する Windows クラスタの要件

項目	要件
サーバーのオペレーティングシステム	インストール元およびインストール先のシステムでは、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows Server 2012、または Windows Server 2012 R2 を実行している必要があります。
権限	クラスタインストールを実行するには、クラスタ内のすべてのリモートノードの管理者権限を持っている必要があります。クラスタ内のすべてのノードと各ノードの既存のソフトウェアを記録しておくことをお勧めします。
NetBackup の仮想名と IP アドレス	NetBackup で利用可能な仮想名および IP アドレスを用意します。インストール中に、この情報を入力する必要があります。
ノードのオペレーティングシステム	すべてのクラスタノードで、同じバージョンのオペレーティングシステム、同じ Service Pack レベル、および同じバージョンの NetBackup を使用する必要があります。クラスタ環境では、異なるバージョンのサーバーは実行できません。
メディアサーバーのクラスタのサポートの変更	NetBackup 7.1 からは、クラスタ化されたメディアサーバーの新しいインストールを実行することはできません。ただし、クラスタ化された既存の 6.x メディアサーバーは NetBackup 8.0 にアップグレードして、クラスタ化されたままにできます。
Windows Server Failover Clustering (WSFC)	■ NetBackup グループによって使用される共有ディスクがクラスタ内で構成され、アクティブ ノードでオンラインになっている必要があります。 ■ NetBackup を共有ディスクが存在するノード (アクティブ ノード) からインストールします。 ■ コンピュータ名またはホスト名は 15 文字より長い名前には設定できません。
Cluster Server (VCS) のクラスタ	■ SFW-HA 4.1 と SFW-HA 4.2 の場合: バージョン 7.x をインストールするか、またはバージョン 6.x からアップグレードする前に、次の Web サイトからパッチをインストールしてください。 http://entsupport.veritas.com/docs/278307 ■ NetBackup をインストールする前に、すべての NetBackup ディスクリソースを、Veritas Enterprise Administrator (VEA) で構成しておく必要があります。

項目	要件
クラスタノードのデバイス構成とアップグレード	クラスタをアップグレードする場合、ltid およびロボットデーモンは、特定のクラスタノードのデバイス構成を EMM データベースから取得します。EMM データベースでのデバイス構成の格納または取得は、クラスタノード名 (gethostname を使用して表示) によって行われます。クラスタノード名は、デバイス構成の更新時 (ltid によるドライブ状態の更新時など) に使われます。クラスタノード名は、デバイスの接続先を示す場合にのみ使用されます。NetBackup の仮想名は、ロボット制御ホストなど、他の目的にも使用されます。

Windows システムでのローカル、リモート、またはクラスタ化されたサーバーインストールの実行

次の手順を使って、Windows コンピュータで NetBackup のローカル、リモート、クラスタ化されたインストールを実行します。

NetBackup 8.0 サーバーソフトウェアをローカル、リモート、クラスタ化された Windows サーバーにインストールする方法

- 1 システムにログオンします。管理者権限でログオンしてください。
- ローカルインストールの場合、NetBackup をインストールするシステムにログオンします。

■ リモートインストールの場合、NetBackup をインストールするホストすべてへのネットワークアクセスを持つシステムにログオンします。

■ クラスタインストールの場合、アクティブ ノード (共有ディスクが存在するノード) にログオンします。
- 2 次の方法のいずれかを使用して、NetBackup インストールウィザードを起動します。
- DVD メディア
ドライブに Windows 版 NetBackup の DVD を挿入します。自動再生機能が無効になっている場合は、DVD ドライブに移動して Browser.exe を実行します。

■ ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
イメージが存在するディレクトリに移動して、Browser.exe を実行します。
- 3 ブラウザの初期画面 ([ホーム (Home)])で、[Installation]をクリックします。
- 4 [Installation]画面で、[Server Software Installation]をクリックします。
- 5 [ようこそ (Welcome)]画面で内容を確認し、[次へ (Next)]をクリックします。

- 6 (該当する場合) 以前にこのホストに **NetBackup 8.0** をインストールしてある場合、**[Program Maintenance]**ダイアログが表示されます。
- **[変更 (Modify)]**を選択してローカルホストのインストール設定を変更するか、またはローカルホストをリモートホストへのプッシュインストールを実行するためのプラットフォームとして使用します。
 - **[修復 (Repair)]**を選択して、**NetBackup 8.0** をローカルホストで元の状態にリストアします。
 - **NetBackup 8.0** をローカルホストから削除するには、**[削除 (Remove)]**を選択します。
- 7 **[使用許諾契約 (License Agreement)]**画面で、次の処理をして**[次へ (Next)]**をクリックします。
- [I agree to and accept the terms of the license agreement]**にチェックマークを付けます。
- ソフトウェアをインストールするにはこの項目を選択する必要があります。
- 8 **[Veritas NetBackup Installation Type]**画面で以下の情報を入力します。

Where to install	■ ローカルインストールの場合、[Install to this computer only]を選択します。 ■ リモートインストールの場合、[Ins all to multiple computers on your network]を選択します。 ■ クラスタインストールの場合は、[Install a clustered Master Server]を選択します。 このオプションは、システムが Windows Server Failover Cluster (WSFC) または VCS クラスタ環境用に構成されていることがインストール処理で判断された場合にのみ表示されます。
Typical	デフォルト設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。
Custom	任意の設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。

[次へ (Next)]をクリックします。

- 9 **[NetBackup のライセンスキーとサーバーの種類 (NetBackup License Key and Server Type)]**画面で、次の情報を指定します。

License Key	製品購入時に提供された製品のライセンスキーを入力します。 入力するライセンスキーによって選択可能なコンポーネントが決まります。たとえば、マスターサーバーのライセンスキーを入力した場合にのみ、「NetBackup Master Server」の隣にあるアイコンをクリックできます。 リモートインストールやクラスタインストールの場合: メモ: ここに入力するライセンスキーは、他のノードに送信されます。ライセンスキーによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに NetBackup をプッシュインストールした場合、キーはアドオン製品に対して機能します。 インストール処理中、ユーザーが、リモートインストールを実行するための適切なクレデンシャルを所有していることを確認するために、次の操作が実行されます。 ■ インストール先のクラスタシステムを選択すると、クラスタのすべてのノードに対する適切な管理クレデンシャルを所有しているかどうかを確認されます。適切なクレデンシャルを所有していない場合は、そのシステムはリストに追加されません。 ■ 適切なクレデンシャルを所有している場合は、ライセンスキーが必要かどうかは再度確認されます。必要なキーが入力されなかった場合は、そのシステムはリストに追加できません。そのノードにインストールするために、有効なライセンスキーを入力する必要があります。無効なライセンスキーを入力すると、この画面は有効なキーを入力するまで表示されたままになります。 ■
NetBackup Master Server	マスターサーバーソフトウェアをインストールするには、このアイコンをクリックします。
NetBackup Media Server	ローカルインストールまたはリモートインストールの場合は、このアイコンをクリックしてメディアサーバーソフトウェアをインストールします。

10 [NetBackup Web サービス (NetBackup Web Services)] 画面で、アカウントの種類とアカウントの詳細を指定します。

Destination Folder

デフォルトでは、**NetBackup** ファイルは次の場所にインストールされます。

C:\Program Files\VERITAS

NetBackup のインストール先のフォルダを変更する方法

- [Change]をクリックします。
- 優先の場所を参照し、新規または既存のフォルダを指定します。
- [次へ (Next)]をクリックします。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.8 の「[NetBackup インストールディレクトリの制限事項](#)」を参照してください。

[次へ (Next)]をクリックします。

■ NetBackup Port Numbers

構成に必要な場合は、この画面からポート番号を変更できます。

NetBackup と他社製品が同じポートを共有しようとして競合が発生した場合、ポート番号の変更が必要になることがあります。また、ファイアウォールでセキュリティの問題を引き起こすポートの競合が発生している場合にも変更できます。ポート番号を変更するには、置き換えるポート番号を選択し、新しい番号を入力します。

[次へ (Next)]をクリックします。

■ NetBackup Services

この画面で、次の **NetBackup** サービスの起動アカウントおよび起動の種類を指定します。

ログオン

[ローカル システム アカウント (Local System account)]または[アカウント(account)]を指定します。

デフォルトでは、[ローカル システム アカウント (Local System account)]が選択されるので、**NetBackup** は組み込みシステムアカウントを使います。このオプションを選択すると、その下のフィールドは無効になります。

異なるアカウントを指定する方法

- [アカウント (This account)]を選択します。
- 次のフィールドにアカウント情報を入力します。
ドメイン (Domain)
ユーザー名 (Username)
パスワード (Password)

スタートアップの種類	このオプションは、NetBackup ホストを再起動する必要がある場合、NetBackup サービスが自動的に開始するかどうかを判断します。デフォルトは[Automatic]です。 再起動後、NetBackup サービスを手動で開始するには、[Manual]を選択します。
Start job-related NetBackup services following installation	デフォルトでは、インストールが完了した後、ジョブに関連するサービスが自動的に開始するように設定されています。 ジョブに関連するサービスが自動的に開始しないようにするには、ボックスをクリックしてチェックマークを外します。
[安全な中止 (Safe Abort)]オプション	このオプションは、インストールの一部として再起動が必要な場合、どのようにインストールを続行するかを判断します。 このオプションを選択した場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されると、インストールは停止します。システムは元の状態にロールバックされます。 このオプションを選択しない場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されても、インストールは続行します。

[次へ (Next)]をクリックします。

12 [NetBackup System Names]画面で、次の情報を入力します。

Master Server Name	(該当する場合のみ) ローカルマスターサーバーインストールの場合は、ローカルコンピュータの名前を入力します。クラスタインストールの場合は、クラスタの仮想サーバー名を入力します。 メディアサーバーのインストールの場合は、この名前を、そのメディアサーバーが構成されるマスターサーバー名に変更する必要があります。
追加サーバー (Additional Servers)	このサーバーと通信する追加の NetBackup マスターサーバーおよびメディアサーバーの名前を入力します。後で NetBackup をインストールするコンピュータの名前を含めます。 複数の名前を入力するには、それぞれの名前をカンマで区切るか、またはそれぞれの名前の後で Enter キーを押します。

Media Server Name このフィールドはローカルの **NetBackup Enterprise** メディアサーバーのインストールの場合にのみ表示されます。

メディアサーバーソフトウェアをインストールする場合、このフィールドはデフォルトでローカルサーバー名になります。

EMM Server Name EMM (Enterprise Media Manager) サーバーには、**NetBackup** ボリューム構成およびデバイス構成についてのすべての情報が含まれます。

このオプションでは、EMM サーバーのデフォルト名を許可します。**NetBackup 7.6** 以降では、マスターサーバーに EMM を構成する必要があります。すべてのマスターサーバーには、それぞれの EMM 構成が必要です。リモート EMM または共用 EMM は、**NetBackup 7.6** でサポートされなくなりました。

EMM サーバーに関して次を考慮します。

- CIFS マウントへの EMM サーバーのインストールはベリタスではサポートされていません。
- Shared Storage Option (SSO) を使用してドライブを共有する場合、すべての **NetBackup** サーバーでデバイス情報の格納に同じホストを使用する必要があります。

EMM サーバーおよび EMM データベースについて詳しくは、『**NetBackup** 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

OpsCenter Server Name (省略可能) OpsCenter は、**NetBackup** 用の Web ベースの管理ツールです。

OpsCenter サーバーを使用しているか、またはインストールする場合は、そのサーバーのサーバー名か IP アドレスをここに入力します。

クラスタサーバーには、仮想名を使わないでください。その代わり、クラスタノードの実際のホスト名を使います。

[次へ (Next)]をクリックします。

13 (該当する場合のみ) リモートインストールのみ

[Veritas NetBackup Remote Hosts]画面で、**NetBackup** をインストールするホストを指定します。

- Windows Destination Systems
[Windows Destination Computers]を右クリックし、ドロップダウンメニューから選択するか、または次の方式を使ってください。

Browse

NetBackup をインストールしたいホストのネットワークを検索するためにここをクリックします。

- [Available Systems] ダイアログボックスで追加するコンピュータを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
- 複数のリモートコンピュータにインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。

Import

ホスト名のリストを含んでいるテキストファイルをインポートするためにここをクリックします。テキストファイルを作成する場合、ホスト名は次の形式で定義する必要があります。

Domain\ComputerName

Add

ホストを手動で追加するためにここをクリックします。

- [Manual Remote Computer Selection] ダイアログボックスが表示されたら、[Domain] と [Computer Name] を入力し、[OK] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
複数のリモートコンピュータに追加およびインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas\ になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。

Remove

[Destination Systems] リストからホストを削除するには、ホストを選択し、ここをクリックします。

Change

選択したリモートホストの NetBackup ファイルのインストールの宛先を変更するためにここをクリックします。

- [次へ (Next)] をクリックします。

14 (該当する場合のみ) クラスタインストールのみ

[NetBackup のリモートホスト (NetBackup Remote Hosts)] 画面で、コンピュータに行うインストールのリモートシステム情報を指定します。

- 初期画面で、[Browse] を右クリックします。
- [Available Systems] ダイアログボックスで、追加するコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択する場合は、Ctrl キーを押しながらクリックします。
[次へ (Next)] をクリックします。

- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートシステム上の **NetBackup** で使用されるユーザー名、パスワードおよびドメインを入力します。

さらにリモートコンピュータを追加する場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるチェックボックスをクリックします。

クレデンシャルを指定したら、クラスタノードを選択し、[Windows Destination Systems] リストに追加します。**NetBackup** のリモートインストールは、これらのノードで実行されます。インストール先のシステムを選択する場合、ローカルホストも忘れずに選択してください。

NetBackup では、システムを選択するたびに、システムおよびライセンスの確認が実行されます。たとえば、次のように、サーバーインストール先のリモートシステムが、選択した種類と一致するかどうかを確認されます。

- **NetBackup** がインストールされていない場合 リモートシステムは確認済みと見なされます。
- **NetBackup** がインストールされている場合 そのシステム上のインストールの種類と要求しているインストールの種類が比較されます。
- 無効な組み合わせの場合 問題があることが通知され、そのシステムは選択できません。無効な組み合わせの例として、すでにマスターサーバーになっているリモートシステムにリモート管理コンソールをインストールしようとしている場合があります。
- リモートシステムがサポートされていないプラットフォームまたはレベルの場合 問題があることが通知され、そのシステムは選択できません。

また、インストール処理では、リモートシステムに対して適切な管理クレデンシャルが所有されていることも確認されます。管理クレデンシャルを所有していない場合は、[Enter Network Password] 画面が表示され、管理者のユーザー名およびパスワードの入力を求められます。

[OK] をクリックし、インストール先のシステムの選択を続けます。

選択するノードごとに、この処理を繰り返します。ユーザー名およびパスワードは保持することができます。その場合、ユーザー名またはパスワードが無効な場合にのみ、そのユーザー名またはパスワードが求められるようになります。

次に、クラスタ化された環境でのプッシュインストールに関連する注意事項を示します。

- **NetBackup** は、複数のノードにインストールできます。ただし、クラスタのノード数に対する制限は、**NetBackup** ではなくクラスタサービスによって設定されます。

- 言語パッケージおよびその他の **NetBackup** のアドオン製品は、プッシュ方式でインストールすることができません。アドオン製品は、クラスタグループのノードごとにインストールする必要があります。これらの製品のインストール方法については、各製品のマニュアルを参照してください。
- インストールの開始時に入力したライセンスキーだけが、他のノードに送信されます。ライセンスキーによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに **NetBackup** をプッシュインストールした場合、キーはその製品に対して機能します。

[次へ (Next)]をクリックします。

15 (該当する場合のみ) クラスタインストールのみ

[**Cluster Settings**]画面で、仮想ネットワーク情報および物理ネットワーク情報を指定します。

新規インストールの場合、入力する次の構成設定がすべてのノードに適用されます。

Create a new Cluster Group	新しいクラスタをインストールする場合は、このオプションを選択します。
IPv4 クラスタ	デフォルトのクラスタ設定は IPv4 です。 次のアドレスを入力します。 ■ Virtual IPv4 Address 仮想サーバー名の解決結果となるべき IP アドレス。 新しいクラスタインストールの場合は、アドレスを手動で入力してください。 ■ IPv4 Subnet Mask サブネットワークを識別し、ローカルエリアネットワークで IP アドレスを共有できるようにするために使用されます。この数値は、クラスタの仮想 IP アドレスに直接関連付けられています。
IPv6 クラスタ	IPv6 クラスタを有効にするためには、このオプションを選択します。 次の IP アドレスを入力します。 ■ Virtual IPv6 Address IPv6 アドレスは CIDR 形式で入力する必要があります。
NB Cluster Group Name	NetBackup のサービスグループまたはリソースグループを識別するための名前。リソースグループ内のリソースは、依存関係を持ちます。

仮想ホスト名	クラスタで認識される NetBackup の名前。 クライアントソフトウェアをインストールするとき、このホスト名は [NetBackup System Names] 画面の [Additional Servers] フィールドに追加する必要があります。 この名前は、クライアントノードへの通信時にサーバーによって使用されます。
Path to Shared Data	クラスタ内のいずれかの共有ディスク上にある、NetBackup の構成情報が格納されるディレクトリ。ディスク (またはドライブ) を示す文字がプルダウンリストに表示されない場合は、その文字を入力します。
パブリックネットワーク	NetBackup のクラスタ環境では、クラスタのノードに割り当てられているパブリックネットワークを選択します。 警告: このクラスタに割り当てられているプライベートネットワークは選択しないでください。
Cluster Configuration	すべてのパラメータを設定した後で、このアイコンをクリックして NetBackup で使えるようにクラスタを設定します。[次へ (Next)] アイコンはクラスタを正常に構成するまで利用できません。 テキストボックスは構成について次の情報を提供します。 ■ 既存のクラスタまたは NetBackup クラスタグループを識別します。 ■ 正常に構成されたことを示します。 ■ 構成中に起きた問題かエラー (構成エラー) を識別します。 メモ: 新しいインストールのクラスタ構成が正しく行われた後に [キャンセル (Cancel)] をクリックすると、ポップアップメッセージが表示されます。このメッセージは取り消しを続行するかどうかを尋ねます。インストールを取り消し、新しいクラスタグループを削除するには、[Yes] をクリックします。インストールを続行し、新しいクラスタグループを保持するには、[No] をクリックし、次に [次へ (Next)] をクリックします。 クラスタ構成が失敗した場合に問題を解決する方法については、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。 http://www.veritas.com/docs/DOC5332 クラスタ構成が正常に行われたことを示すメッセージが表示されたら、[次へ (Next)] をクリックします。

- 16** [Ready to Install the Program] 画面で、前述の手順での選択を示す [Installation Summary] を確認します。

メモ: あらゆる警告メッセージの概略画面を確認することをお勧めします。インストールを続行する前に問題を解決すれば、インストールおよびアップグレードの問題を防ぐことができます。

次のオプションから 1 つ選択します。

- インストールを開始するには、[Install]をクリックします。
- 前の画面を表示して変更するには[Back]をクリックし、その後、この画面に戻って[Install]をクリックします。
- インストールをキャンセルするには、[Cancel]をクリックします。

[Install]をクリックすると、インストール処理が開始され、インストールの進捗状況を示す画面が表示されます。この処理には数分かかる場合があります。

リモートインストールやクラスタインストールの場合、最大 5 つのインストールが同時に起きます。1 つのインストールが完了すると別のインストールが開始し、最大 5 つのインストールが進行中となります。

17 [Installation Complete]画面で、次のオプションから選択します。

View installation log file

インストールログファイルは、詳しいインストール情報を提供し、エラーが起きたかどうかを表示します。

次の場所にあるインストールログを確認します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\
NetBackup\InstallLogs\
```

メモ: 複数のコンピュータにリモートインストールまたはクラスタインストールを実行する場合、このオプションでは、ローカルコンピュータのログのみを表示できます。インストールのために選択した各コンピュータにそれぞれのインストールログファイルが含まれています。リモートコンピュータのログファイルを表示するためには、Windows エクスプローラのウィンドウを開いて、¥¥<COMPUTERNAME>と入力します。

インストールログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- 次のように色分けされている重大なログメッセージ:
黄色 = 警告。
赤 = エラー。

Finish

インストールを完了するために次のいずれかを選択します。

- すべてのサーバーにソフトウェアをインストールした場合は、[Launch NetBackup Administration Console now]の隣にあるボックスをクリックして、[Finish]をクリックします。

NetBackup 管理コンソールを使用して構成ウィザードを起動すると、NetBackup 環境を構成できます。

- インストールするサーバーソフトウェアが他にも存在する場合は、[Finish]をクリックします。
次のコンピュータに移動して、必要なサーバーソフトウェアをインストールできます。

18 他のすべてのサーバーでこの手順のステップを繰り返します。

19 すべてのサーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアをインストールできるようになります。

p.85 の「NetBackup クライアントのインストールについて」を参照してください。

p.76 の「NetBackup クラスタ環境のインストール後の作業」を参照してください。

p.77 の「Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認」を参照してください。

NetBackup クラスタ環境のインストール後の作業

NetBackup サーバーソフトウェアがクラスタにインストールされた後、実行が必要となる場合もある処理に注意します。

再起動

インストールの完了後、各クラスタノードの再起動が必要になる場合があります。

WSFC と VCS クラスタ

通常の状態では、クラスタ環境での NetBackup のインストールの最終手順の 1 つとしてクラスタが構成されます。この手順が完了していないか、または正常に完了しなかった場合は、アクティブノードから bpclusterutil コマンドを使用して、この手順を実行できます。

bpclusterutil を実行する方法について詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

WSFC クラスタ

オフラインにした NetBackup リソースがある場合は、自動的にオンラインに戻ります。

p.77 の「[Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認](#)」を参照してください。

Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認

クラスタアドミニストレータコンソールを使用して、インストールまたはアップグレードを確認し、現在のシステム構造を表示することができます。

クラスタ管理コンソールを使って、**MSCS** クラスタのインストールまたはアップグレードが正常に行われたことを確認する方法

- 1 クラスタのインストール中に、クラスタアドミニストレータコンソールを開き、現在の構造を確認できます。
- 2 インストールおよび構成処理が完了すると、コンソールには新しいクラスタグループ構成が表示されます。

クラスタアドミニストレータコンソールを使用して、**VCS** クラスタのインストールまたはアップグレードが正常に行われたことを確認する方法

- 1 クラスタのインストール中に、クラスタアドミニストレータコンソールを開き、現在の構造を確認できます。
- 2 インストールおよび構成処理が完了すると、コンソールには新しいクラスタグループ構成が表示されます。

p.121 の「[NetBackup Server の構成について](#)」を参照してください。

Windows システムでの NetBackup サーバーのサイレントインストール

サイレントインストールを実行すると、リモートインストールを実行する場合と同様に、対話形式での入力が不要になります。**NetBackup** サービスをローカルシステムではなく特定のユーザーで実行する場合、**NetBackup** のサイレントインストールはサポートされません。

サイレントインストールを実行するには、最初に該当する **NetBackup** スクリプトを修正します。スクリプトの修正の後で、そのスクリプトを実行してサイレントインストールを開始できます。

メモ: Windows Server 2008 Server Core システムの場合、この手順でのみ **NetBackup** をインストールできます。

NetBackup サーバーソフトウェアをサイレントインストールする方法

- 1 NetBackup をインストールするシステムに管理者としてログオンします。
- 2 NetBackup インストール DVD を挿入するか、または ESD イメージ (ダウンロード済みのファイル) が存在する場所にナビゲートします。
- 3 Windows エクスプローラを開き、X86 または X64 ディレクトリの内容を、ハードドライブの一時ディレクトリにコピーします。インストールしたいプラットフォームの形式と関連付けられたディレクトリを選択します。
- 4 ソースファイルが読み取り専用であるので、コピーされたファイルの権限を変更して、インストールまたは更新できるようにします。
- 5 コピーされたファイルが存在する一時ディレクトリで、変更する適切なスクリプトを選択します。
 - マスターサーバーのインストール時: `silentmaster.cmd`
 - メディアサーバーのインストール時: `silentmedia.cmd`
 - NetBackup リモート管理コンソールのインストール時: `silentadmin.cmd`
- 6 次の行をインストールの必要に応じて編集します。
 - `SET ADDITIONALSERVERS=media1,media2,media3`
 このホストと通信する追加の NetBackup マスターサーバーおよびメディアサーバーの名前を入力します。後で NetBackup をインストールするサーバーの名前を含めます。
 他のサーバーがこのホストと通信しない場合は、スクリプトからこの行を削除します。
 - `SET ABORT_REBOOT_INSTALL=0`
 この行では、再起動が必要になった場合のインストールの続行方法を指定できます。次の設定から選択します。

0 (ゼロ、デフォルト)

デフォルトでは、再起動が必要であると判断された場合でもサイレントインストールは中止されません。この設定を 0 のままにした場合、次のタスクの 1 つを選択します。

- インストール完了後、インストールログを調べて再起動が必要かどうかを確認します。
文字列 **in use** がログ内に表示されれば、システムを手動で再起動する必要があります。
- インストール完了後、自動再起動を強制します。
自動再起動を強制するには、スクリプトを実行する前に、サイレントインストールのコマンドスクリプト (`silent*.cmd`) から次のオプションを削除します。

```
REBOOT="ReallySuppress"
```

警告: 強制再起動はユーザーに警告なしで起きます。インストールは取り消されず、システムが元の状態にロールバックされることもありません。

1

再起動が必要であると判断されたらインストールを中止する場合にこの設定を選択します。

再起動が必要な場合、この設定によってインストールが取り消されて、システムが元の状態にロールバックされます。

7 スクリプトを保存して実行します。

8 次の場所にあるインストールログを確認します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallLogs\
```

インストールログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- 重要なログメッセージは次のように色分けされます。
黄色 = 警告。
赤 = エラー。

すべてのサーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアをインストールできるようになります。

p.85 の「[NetBackup クライアントのインストールについて](#)」を参照してください。

管理インターフェースのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 管理コンソールについて](#)
- [NetBackup Java 管理コンソールのインストール](#)
- [Windows での複数バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールのインストール](#)
- [Windows 上の旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールの削除](#)
- [NetBackup のリモート管理コンソールについて](#)
- [NetBackup リモート管理コンソールのインストール](#)

NetBackup 管理コンソールについて

NetBackup 管理コンソールは 1 台以上の UNIX 版または Windows 版の NetBackup サーバーの管理に使えます。このコンソールは、すべての標準の NetBackup サーバーインターフェースを提供します。また、バックアップポリシーの作成、ボリュームの管理、状態の表示、テープドライブの監視などの操作に使用されます。

NetBackup 管理コンソールは NetBackup サーバーパッケージをインストールまたはアップグレードするときにインストールされます。

NetBackup Java 管理コンソールのインストール

NetBackup 管理コンソールを個別にインストールする必要はありません。マスターサーバーをインストールするか、またはアップグレードするときに、NetBackup Java 管理コンソールの複数のバージョンがデフォルトでインストールされます。たとえば、NetBackup

7.7 をインストールするか NetBackup 7.7 にアップグレードしたときに、コンソールのバージョン 7.0 から 7.7 がすべてインストールされます。

メモ: NetBackup のサーバーソフトウェアをインストールまたはアップグレードした後に、ホストにあるリモート管理コンソール (Windows と Java) の古いバージョンをアンインストールしてください。ネイティブの Windows 版 NetBackup 管理コンソールがある場合は、NetBackup サーバーソフトウェアをインストールまたはアップグレードするときに自動的にその NetBackup 管理コンソールがアンインストールされます。

コンソールのバージョン 7.7 をインストールするときは次のガイドラインを使います。

- Windows 用の NetBackup DVD または ESD (ダウンロード済み) ファイルからコンソールをインストールします。
- コンソールを実行するコンピュータには、512 MB 以上の物理メモリが必要です。

NetBackup 環境は、複数バージョンの NetBackup がインストールされた複数のサーバーを含むことがあります。NetBackup-Java 管理コンソールの複数のバージョンをインストールし、削除できます。

Windows での複数バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールのインストール

バージョンが混在する環境で NetBackup インターフェースの複数のバージョンをインストールするには、次の制限とガイドラインに注意します。

更新

更新 (またはパッチを適用) できるのは、最新バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールのみです。

auth.conf ファイル

NetBackup-Java 機能認可構成ファイルの auth.conf は、常に、install_path¥java に存在する必要があります。たとえば、C:¥Program Files¥Veritas¥java に存在する必要があります。このファイルは、インストールされているコンソールのバージョン数やインストール先のディレクトリに関係なく、この場所に存在している必要があります。

このファイルは、この Windows ホストでの NetBackup の管理にのみ使用され、存在しない場合はデフォルト設定が使用されます。これらのデフォルトについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「NetBackup-Java ユーザーの認可」を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

コンソールのバージョンの場所 各バージョンの Java コンソールを異なるフォルダにインストールする必要があります。

旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールをインストールする方法

- 1 インストールする NetBackup-Java 管理コンソールを含む適切なバージョンの NetBackup Windows インストールメディアを挿入します。
- 2 NetBackup のバージョンに基づいて、次のいずれかのコンソールを選択します。
 - NetBackup 6.0 バージョンの場合、[NetBackup Installation]を選択し、[Install Java Administration Console]をクリックします。インストールするコンソール (32 ビットまたは 64 ビット) を選択します。
 - NetBackup 6.5 バージョンの場合、[NetBackup Installation]を選択し、[Install Java Windows Administration Console]をクリックします。インストールするコンソール (32 ビットまたは 64 ビット) を選択します。
 - NetBackup 7.0 と 7.1 バージョンの場合、[Installation]を選択し、[Java Windows Administration Console Installation]をクリックします。
- 3 異なるバージョンの Java コンソールがすでにインストールされている場合、以前のインストールの上書きを回避するため、新しいフォルダを指定します。
たとえば、バージョン 6.5 の Java コンソールの場合、C:\¥Program Files¥Veritas¥nbjava65 と指定します。
- 4 インストールを完了するには、[Finish]をクリックします。

Windows 上の旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールの削除

場合によっては、[プログラムの追加と削除]機能の使用によって旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールを削除できます。削除したいバージョンがプログラムのリストに表示されればこの方式を使うことができます。

削除したいバージョンがプログラムのリストに表示されなければ、手動でそれを削除する必要があります。次の手順を実行します。

旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールを手動で削除する方法

- 1 旧バージョンの NetBackup-Java 管理コンソールをインストールしたフォルダを削除します。
- 2 [スタート]>[プログラム]>[Veritas NetBackup]メニューから、該当するメニュー項目を削除します。
- 3 関連するデスクトップのショートカットを削除します。

NetBackup のリモート管理コンソールについて

NetBackup リモート管理コンソールは、別のコンピュータからの NetBackup サーバーの管理に使用できる、インターフェースのみのバージョンの NetBackup です。NetBackup リモート管理コンソールを実行するコンピュータは NetBackup ソフトウェアを必要としません。

次に、NetBackup リモート管理コンソールの操作の概要を示します。

- このコンソールを使用すると、ローカルの NetBackup サーバー上での NetBackup 管理コンソールとまったく同様に、すべての NetBackup の操作を実行できます。バックアップポリシーの作成、ボリュームの管理、状態の表示、テープドライブの監視、およびその他の操作を実行できます。
- コンソールには、ローカルホスト名ではなく、管理対象のサーバー名が表示されます。
- コンソールでは、他の NetBackup サーバーの管理のみが可能です。マスターサーバーまたはメディアサーバーとしては機能できません。

NetBackup リモート管理コンソールのインストール

この手順では、NetBackup 以外のコンピュータに NetBackup のリモート管理コンソールをインストールする方法を詳細に示しています。

NetBackup リモート管理コンソールをインストールする方法

- 1 リモート管理コンソールをインストールするコンピュータで、次のいずれかを実行します。
 - NetBackup ソフトウェアを含んでいる適切な DVD を挿入します。
自動再生機能が有効になっている Windows システムでは、インストールが自動的に開始されます。
自動再生機能が無効になっている Windows システムでは、DVD ディレクトリに移動して `Browser.exe` を実行します。
 - ダウンロード済みのファイルが存在する場所に移動して、`Browser.exe` を実行します。

メモ: NetBackup サーバーソフトウェアがすでにインストールされているコンピュータには NetBackup のリモート管理コンソールをインストールできません。

- 2 初期画面で、[Installation]を選択します。
- 3 [インストール (Installation)]画面で、[NetBackup 管理コンソールのインストール (x64 のみ) (NetBackup Administration Console Installation (x64 only))]をクリックします。

- 4 [Welcome]画面で内容を確認し、[Next]をクリックします。
- 5 [License Agreement]画面で、使用許諾契約に同意して[Next]をクリックします。
- 6 [NetBackup のインストール形式 (NetBackup Installation Type)]画面で、[このコンピュータのみにインストール (Install to this computer only)]を選択して[標準インストール (Typical Installation)]をクリックし、[次へ (Next)]をクリックします。
 コンソールの以前のバージョンがすでにあれば、次のオプションが使えます。
 - インストールをキャンセルし、コンソールの以前のバージョンを削除します。次に、7.7 コンソールのインストールを再実行します。
 - バージョン 7.7 のコンソールをインストールする代替の場所を指定します。
- 7 [Ready to Install the Program]画面で、[Installation Summary]を確認して、[Install]をクリックします。
- 8 [インストールを完了する (Instllation Complete)]画面で、[完了 (Finish)]をクリックします。
- 9 コンソールを開くには、Windows の[スタート (Sart)]メニューで[プログラム (P
 ograms)]>[Veritas NetBackup]>[NetBackup リモート管理コンソール (NetBackup
 Remote Admin Console)]の順に選択します。

メモ: NetBackup リモート管理コンソールをインストールするとリモート管理コンソールの複数のバージョンがインストールされます。たとえば、リモート管理コンソールバージョン 7.7 をインストールするときに、バージョン 7.0 から 7.7 の NetBackup リモート管理コンソールがすべてインストールされます。

NetBackup クライアントソフトウェアのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup クライアントのインストールについて](#)
- [Windows での NetBackup クライアントのインストールについて](#)
- [UNIX/Linux での NetBackup クライアントのインストールについて](#)

NetBackup クライアントのインストールについて

定義上では、NetBackup サーバーはクライアントでもあります。NetBackup サーバーソフトウェアをインストールすると、クライアントソフトウェアもインストールされます。

クライアントソフトウェアをインストールするときは、サーバーソフトウェアがインストールされないため、本当のクライアントインストールを実行します。

クライアントソフトウェアは個々のコンピュータにローカルインストールするか、またはリモートインストールできます。オペレーティングシステムはどのクライアントがリモートでインストールできるか判断します。

Windows の場合

Windows ホストは Windows クライアントにのみクライアントソフトウェアをプッシュできます。

クライアントのリモートインストールを実行するために使われるホストに NetBackup をインストールする必要はありません。

UNIX または Linux の場合

NetBackup の UNIX または Linux サーバーは UNIX または Linux クライアントにのみクライアントソフトウェアをプッシュできません。

NetBackup ソフトウェアとクライアント形式のソフトウェアを、クライアントのリモートインストールを実行するために使われるサーバーにインストールする必要があります。

Windows での NetBackup クライアントのインストールについて

Microsoft Windows 版 NetBackup クライアントのインストールウィザードを使用すると、一連のウィザード画面からセットアップおよびインストールについての適切なオプションを選択することができます。オプションを選択した後、インストールが始まる前に選択項目を検証することを可能にするウィンドウが表示されます。

インストール中、ダイアログボックスにはインストールおよびセットアップの進捗状況の詳細が表示されます。インストールが完了すると、最後に表示されるウィンドウにインストールの結果が表示されます。

Windows システムに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールするとき次を注意します。

クライアントのインストール制限

NetBackup サーバーソフトウェアがインストールされているコンピュータには、NetBackup クライアントソフトウェアをインストールできません。この場合は、まず NetBackup サーバーソフトウェアを削除する必要があります。

p.144 の「[Windows サーバー、クラスター、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除](#)」を参照してください。

ユーザー権限

- デフォルトで、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012、Windows 2012 R2 Server システムでは、管理者のみが Program Files ディレクトリに対する書き込み権限を持っています。
- NetBackup は次の場所にログファイルと進捗ファイルを書き込みます。
Program Files¥VERITAS¥NetBackup¥Logs
バックアップおよびリストアを実行するために、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用する場合、ユーザーが Logs ディレクトリへの書き込み権限を持っている必要があります。ユーザーがこのディレクトリへの書き込み権限を持たない場合、エラーメッセージが表示され、バックアップまたはリストアは取り消されます。管理者アカウントはデフォルトで書き込み権限を持っていますが、管理者以外のユーザーが書き込み権限を持っていることを確認する必要があります。

Windows クライアントのインストール方法と必要条件について

次の方式を使用して、Windows システムに NetBackup クライアントをインストールできます。

表 6-1 インストール方法と必要条件

方式	要件	詳細
ローカルインストール	NetBackup クライアントソフトウェアをローカルインストールするには、システムが次の構成要件を満たしている必要があります。 ■ Microsoft Windows XP、Windows 2008/Vista、Windows 2008 R2/Windows 7、Windows 2012/2012 R2/Windows 8 のいずれか ■ Windows Sockets 準拠の TCP/IP プロトコルスタック(サーバーまたはオペレーティングシステムに付属の TCP/IP プロトコルスタックを使用することをお勧めします) ■ ご使用の TCP/IP プロトコルスタックがサポートするネットワークアダプタ (NIC)	インストールウィザードでは、インストールを実行するコンピュータにのみクライアントソフトウェアがインストールされます。 p.89 の「NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール」を参照してください。

方式	要件	詳細
リモートインストール	NetBackup クライアントソフトウェアをリモートインストールするには、システムが次の構成要件を満たしている必要があります。 - ローカルインストールのすべての要件を満たしている必要があります。 - インストール元のシステムで Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012、Windows 2012 R2 Server のいずれかを実行している必要があります。 - リモートインストールを実行するユーザーには、管理者権限が必要です。 Remote Registry サービスはリモートシステムで開始する必要があります。 Remote Registry サービスが開始されない場合、インストールは次のエラーメッセージを受信します。 <pre>Attempting to connect to server server_name failed with the following error: Unable to connect to the remote system. One possible cause for this is the absence of the Remote Registry service. Please ensure this service is started on the remote host and try again.</pre>	インストールウィザードによって、クライアントソフトウェアをインストール可能なクライアントがネットワーク上でスキャンされます。 インストール元のコンピュータでは、Windows 2008、Windows 2008 R2、または Windows 2012 Server を実行している必要があります。 また、リモートインストールはシステム管理者権限を必要とします。 メモ: NetBackup の Windows サーバーから UNIX のコンピュータにクライアントをリモートでインストールできません。 p.89 の「NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール」を参照してください。

方式	要件	詳細
サイレントインストール	サイレントインストールの必要条件はローカルインストールの必要条件と同じです。	サイレントインストールとは、対話形式の入力を必要としない処理です。ただし、実行する前に、 <code>silentclient.cmd</code> ファイルを編集する必要があります。 p.97 の「NetBackup Windows クライアントのサイレントインストール」 を参照してください。

すべてのインストール方式で NTFS ディスクパーティションが必要です。

インストールする NetBackup クライアントのバージョンが NetBackup サーバーソフトウェアのインストールされたバージョンと同じか、またはそれよりも古いことが必要です。サーバーのバージョンよりも新しいバージョンのクライアントを使用することはできません。

p.9 の「[NetBackup のバージョン間の互換性について](#)」を参照してください。

p.85 の「[NetBackup クライアントのインストールについて](#)」を参照してください。

p.57 の「[NetBackup のインストール前の環境チェッカーについて](#)」を参照してください。

NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール

ローカルコンピュータまたはネットワーク上の複数のコンピュータで NetBackup をインストールするのにこの手順を使います。インストール処理は、[キャンセル (Cancel)] をクリックするといつでも中止でき、[戻り (Back)] をクリックすると、前のウィンドウに戻ります。

Windows クライアントをリモートインストールするとき、次を注意します。

要件	Windows クライアントのインストールの要件を見直します。 p.87 の「Windows クライアントのインストール方法と必要条件について」 を参照してください。
権限	NetBackup を正常にインストールするには、リモートクライアントに対する管理者権限が必要です。
クライアント名エントリ	インストール時に、クライアント名が小文字でレジストリに書き込まれます。バックアップを機能させるには、NetBackup サーバーのポリシーに、クライアント名を小文字で指定する必要があります。

メモ: クライアントのインストール後、変更内容を有効にするために、システムを再起動する必要がある場合があります。再起動が必要な場合にはアラートメッセージが表示されます。

NetBackup クライアントソフトウェアを Windows システムにローカルまたはリモートでインストールする方法

- 1 クライアントソフトウェアをインストールするホストに管理者としてログオンします。
- 2 次の方法のいずれかを使用して、NetBackup インストールウィザードを起動します。
 - DVD メディア
ドライブに Windows 版 NetBackup の DVD を挿入します。自動再生機能が無効になっている場合は、DVD ドライブに移動して `Browser.exe` を実行します。
 - ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
イメージが存在するディレクトリに移動して、`Browser.exe` を実行します。
- 3 初期画面で、[Installation]を選択します。
- 4 [Installation]画面で、[Client Software Installation]を選択します。
- 5 [Welcome]画面で内容を確認し、[Next]をクリックします。
- 6 (該当する場合) 以前にこのホストに NetBackup 8.0 をインストールしてある場合、[Program Maintenance]ダイアログが表示されます。
 - [変更 (Modify)]を選択してローカルホストのインストール設定を変更するか、またはローカルホストをリモートホストへのプッシュインストールを実行するためのプラットフォームとして使用します。
 - [修復 (Repair)]を選択して、NetBackup 8.0 をローカルホストで元の状態にリストアします。
 - NetBackup 8.0 をローカルホストから削除するには、[削除 (Remove)]を選択します。
- 7 [License Agreement]画面で、使用許諾契約に同意して[Next]をクリックします。

8 [Veritas NetBackup Client Installation Type]画面で、次の情報を入力します。

Where to install	ローカルインストールの場合、[Install to this computer only]を選択します。 リモートインストールの場合、[Install to multiple computers on your network]を選択します。 この手順では、インストール先のシステムのリストにローカルホストを追加しないかぎり、クライアントはローカルホストにインストールされません。
Typical	デフォルト設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。
Custom	任意の設定の NetBackup をインストールするには、このオプションを選択します。

[次へ (Next)]をクリックします。

9 (該当する場合)この手順はローカルの[カスタム (Custom)]インストールにのみ適用されます。

[Veritas NetBackup Client Destination Folder]画面では、NetBackup ファイルがインストールされる場所を選択できます。

Destination Folder	デフォルトでは、NetBackup ファイルは次の場所にインストールされます。 C:\Program Files\VERITAS NetBackup のインストール先のフォルダを変更する方法 ■ [Change]をクリックします。 ■ 優先の場所を参照し、新規または既存のフォルダを指定します。 ■ [次へ (Next)]をクリックします。 インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。 p.8 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。 メモ: アップグレードの場合は宛先を変更できません。
--------------------	--

10 (該当する場合)この手順は[カスタム (Custom)]インストールにのみ適用されます。

[NetBackup Options]画面で、次のオプションから選択します。

At System Startup

次のオプションを有効または無効にします。

- **Start NetBackup Client Service Automatically**
デフォルトでは、システムの起動直後に **NetBackup** サービスが利用可能となるように、このオプションは有効になっています。
- **Start NetBackup Client Job Tracker Automatically**
デフォルトでは、このオプションは無効に設定されています。インストール後にこのオプションを手動で起動するには、[スタート]>[すべてのプログラム]>[Veritas NetBackup]>[NetBackup Client Job Tracker]をクリックします。

ポート (Ports)

構成に必要な場合は、この画面からポート番号を変更できます。

NetBackup と他社製品が同じポートを共有しようとして競合が発生した場合、ポート番号の変更が必要になることがあります。また、ファイアウォールでセキュリティの問題を引き起こすポートの競合が発生している場合にも変更できません。

ポート番号を変更するには、置き換えるポート番号を選択し、新しい番号を入力します。

[次へ (Next)]をクリックします。

- 11 [NetBackup Services]画面で、**NetBackup Client Service** の起動アカウントおよび起動の種類を指定します。

ログオン

[ローカル システム アカウント (Local System account)] または [アカウント(account)]を指定します。

デフォルトでは、[ローカル システム アカウント (Local System account)]が選択されるので、**NetBackup** は組み込みシステムアカウントを使います。このオプションを選択すると、その下のフィールドは無効になります。

異なるシステムアカウントを指定する方法

- このオプションを選択します。
- 次のフィールドにアカウント情報を入力します。

ドメイン (Domain)

ユーザー名 (Username)

パスワード (Password)

[安全な中止 (Safe Abort)] オプション このオプションは、インストールかアップグレードの一部として再起動が必要な場合、どのようにインストールを続行するかを判断します。

このオプションを選択した場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されると、インストール (またはアップグレード) は停止します。システムは元の状態にロールバックされます。

このオプションを選択しない場合、インストール処理で再起動が必要であると判断されても、インストール (またはアップグレード) は続行します。

- 12** [NetBackup System Names] 画面で、次のフィールドが自動的に入力されます。通常は変更の必要がありません。[Client Name]を除いて、構成の必要に応じて変更を加えることができます。

クライアント名 (Client Name) この名前を変更しないでください。

Master Server Name 必要に応じて、クライアントバックアップイメージが格納されている適切なマスターサーバーにこの名前を変更します。

追加サーバー (Additional Servers) このクライアントからアクセスするすべてのマスターサーバーとメディアサーバーの名前を入力します。

- 13** [Veritas NetBackup Remote Hosts] 画面で、NetBackup をインストールするホストを指定します。

- Destination Systems

[Windows Destination Computers] アイコンを右クリックし、ドロップダウンメニューから選択するか、または次のアイコンを使います。

参照 (Browse)

NetBackup をインストールしたいホストのネットワークを検索するためにここをクリックします。

- [Available Systems] ダイアログボックスで追加するコンピュータを選択し、[Next] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
- 複数のリモートコンピュータにインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。

インポート

ホスト名のリストを含んでいるテキストファイルをインポートするためにここをクリックします。テキストファイルを作成する場合、ホスト名は次の形式で定義する必要があります。

Domain\ComputerName

追加 (Add)

ホストを手動で追加するためにここをクリックします。

- [Manual Remote Computer Selection] ダイアログボックスが表示されたら、[Domain] と [Computer Name] を入力し、[OK] をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials] ダイアログボックスで、リモートコンピュータのインストールを実行するために使われるアカウントの [User Name] と [Password] を入力します。
複数のリモートコンピュータに追加およびインストールする場合は、[Remember User Name and Password] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。
- [Remote Destination Folder] ダイアログボックスで、NetBackup がインストールされる [Destination Folder] を確認または変更します。
デフォルトでは、この場所は C:\Program Files\Veritas になります。
複数のリモートコンピュータにインストールする場合、同じ場所を使うには、[Use this folder for subsequent systems] の隣にあるボックスをクリックします。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの場所を入力する必要がなくなります。
- [OK] をクリックします。

削除 (Remove)

[Destination Systems] リストからホストを削除するには、ホストを選択し、ここをクリックします。

変更 (Change)

選択したリモートホストの NetBackup ファイルのインストールの宛先を変更するためにここをクリックします。

- [次へ (Next)] をクリックします。

14 [Ready to Install the Program] 画面で、前述の手順での選択を示す [Installation Summary] を確認します。

メモ: あらゆる警告メッセージの概略画面を確認することをお勧めします。インストールを続行する前に問題を解決すれば、インストールおよびアップグレードの問題を防ぐことができます。

次のオプションから 1 つ選択します。

- インストールを開始するには、[Install] をクリックします。

- 前の画面を表示して変更するには[Back]をクリックし、その後、この画面に戻って[Install]をクリックします。
- インストールをキャンセルするには、[Cancel]をクリックします。

[Install]をクリックすると、インストール処理が開始され、インストールの進捗状況を示す画面が表示されます。この処理には数分かかる場合があります。

リモートインストールは 5 つまで並行して行われます。1 つのリモートインストールが完了すると別のリモートインストールが開始し、最大 5 つのインストールが進行中となります。

[Install]をクリックした後に[Cancel]をクリックしても、インストールはすぐに停止しません。インストールはインストールがすでに開始してしまったすべてのリモートホストで続行します。ただし、その時点以降に指定されたホストにはクライアントソフトウェアはインストールされません。

NetBackup では、[Cancel]をクリックしたときに完了していたリモートインストールはすべて正常に終了したものと見なされます。

- 15** [インストールを完了する (Instllation Complete)]画面で、[完了 (Finish)]をクリックします。

次の場所にあるインストールログを確認します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallLogs\
```

インストールログファイルは、詳しいインストール情報を提供し、エラーが発生したかどうかを表示します。

メモ: 複数のコンピュータにリモートインストールを実行する場合、このオプションでは、ローカルコンピュータのログのみを表示できます。インストールのために選択した各コンピュータにそれぞれのインストールログファイルが含まれています。リモートコンピュータのログファイルを表示するには、Windows エクスプローラのウィンドウを開いて %\<COMPUTERNAME> と入力し、InstallLogs ディレクトリにナビゲートします。

インストールログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- NetBackup 7.0 以降では、重要なログメッセージは次のように色分けされます。
黄色 = 警告。
赤 = エラー。

NetBackup Windows クライアントのサイレントインストール

サイレントインストール処理は対話形式の入力を必要としません。ただし、`silentclient.cmd` ファイルを実行する前に、そのファイルを編集しておく必要があります。

NetBackup クライアントのサイレントインストールは、NetBackup サービスをローカル管理者以外のユーザーで実行する場合はサポートされません。

カスタムのサービスアカウントを使用して NetBackup をインストールする場合は、次の項を参照してください。

p.89 の「[NetBackup Windows クライアントのローカルまたはリモートでのインストール](#)」を参照してください。

ローカル NetBackup クライアントのサイレントインストールを実行するために次の手順を使います。

Windows で NetBackup クライアントソフトウェアのサイレントインストールを実行する方法

- 1 ドライブに NetBackup のインストール DVD を挿入するか、または ESD イメージ (ダウンロード済みのファイル) が存在する場所にナビゲートします。
- 2 Microsoft Windows エクスプローラウィンドウで、DVD ドライブに移動します。
- 3 ハードディスクドライブの一時フォルダに次のいずれかのディレクトリの内容をコピーします。たとえば、`C:\¥temp` にコピーします。
 - `PC_Cln¥x86`
 - `PC_Cln¥x64`
- 4 コピー元のファイルは読み取り専用であるため、ハードディスクドライブにコピーしたファイルの権限を変更して、更新できるようにします。
- 5 一時ディレクトリで、テキストエディタを使用して `silentclient.cmd` ファイルを編集し、スクリプトによって必要なクライアントソフトウェアがインストールされるようにします。
- 6 `silentclient.cmd` スクリプトを実行します。
- 7 インストールが正常だったことを検証するには、次のディレクトリのインストールログ ファイルを調べます。

```
%ALLUSERSPROFILE%\¥Veritas¥NetBackup¥InstallLogs
```

NetBackup クライアントの構成方法

次のいずれかの操作を実行して、NetBackup クライアントを構成することができます。

- | | |
|--------------------------------|--|
| <p>サーバーまたはメディアサーバーの追加方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ バックアップ、アーカイブおよびリストインターフェースを起動します。 ■ [ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines)]をクリックします。 |
| <p>クライアントプロパティを表示および変更する方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ バックアップ、アーカイブおよびリストインターフェースを起動します。 ■ [ファイル (File)]>[NetBackup クライアントのプロパティ (NetBackup Client Properties)]をクリックします。 |
| <p>サーバープロパティを表示および変更する方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup 管理コンソールを開きます。 ■ [ホストプロパティ (Host Properties)]を展開し、[クライアント (Clients)]をクリックします。 ■ 右ペインで、クライアントを右クリックし、[プロパティ (Properties)]を選択します。
表示されるダイアログボックスの[サーバー (Servers)]タブに、Windows クライアントへのアクセスが必要である NetBackup のすべてのサーバーが一覧表示されます。 |

クライアント構成について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

UNIX/Linux での NetBackup クライアントのインストールについて

UNIX/Linux クライアントのインストールは、クライアントコンピュータのローカルで実行するか、または UNIX/Linux 版 NetBackup サーバーからリモートで実行することができます。UNIX/Linux NetBackup サーバーからクライアントソフトウェアをリモートでインストールするには、クライアント形式のソフトウェアを UNIX/Linux サーバーに最初にインストールする必要があります。

UNIX/Linux システムで NetBackup クライアントソフトウェアをインストールするときは、次を注意します。

UNIX/Linux パッケージの統合 NetBackup 7.0 以降、アドオン製品およびデータベースエージェントの多くは NetBackup クライアントパッケージとともにインストールされるようになりました。これらの製品を個別にインストールする必要はなくなりました。

次の製品が NetBackup 8.0 クライアントパッケージに含まれるようになりました (製品がプラットフォームでサポートされている場合)。

- BMR ブートサーバー
- DB2
- 暗号化
- Informix
- LiveUpdate エージェント
- Lotus Notes
- Oracle
- SAP
- Snapshot Client
- Sybase

リストにある製品のバイナリはクライアントパッケージによって配置されます。ただし、製品を有効にするには、有効なライセンスが必要です。製品構成が前に必要であった場合 (db2_config など) は、構成も必要となります。

フランス語、日本語、中国語の言語パッケージは別のアドオンのままです。これらの製品をインストールし、アップグレードする処理は変わりません。

gzip および gunzip コマンド gzip および gunzip コマンドが各システムにインストールされている必要があります。これらのコマンドがインストールされているディレクトリは、root ユーザーの PATH 環境変数設定に含まれている必要があります。

NetBackup-Java 互換性

UNIX/Linux クライアントからバックアップまたはリストアを開始するには、次のグラフィカルインターフェースが利用可能です。

- NetBackup-Java と互換性があるクライアントでは、NetBackup-Java インターフェース (jbpSA) を使うことができます。
- NetBackup-Java と互換性がないクライアントでは、bp インターフェースを使うことができます。jbpSA コマンドを使うことにより、NetBackup 7.7 UNIX サーバーの NetBackup クライアントコンソールからのログインもサポートされます。

グラフィカルインターフェースとの互換性に関する詳しい情報が利用可能です。『NetBackup Software Compatibility List (SCL)』を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: SCL の「バックアップポリシーのためのクライアントの選択」セクションに記載され、「NetBackup 管理コンソール」セクションに記載されていないクライアントはバックアップとリストアのサポート対象になりますが、利用可能なすべてのグラフィカルインターフェースをサポートしません。

UNIX/Linux クライアントのインストール方式について

次の方式を使用して、UNIX/Linux システムで NetBackup クライアントをインストールできます。

ローカルインストール

- この方式はインストールスクリプトを実行するコンピュータにクライアントソフトウェアをインストールします。
- クライアントをデフォルト以外の場所にインストールするには、クライアントソフトウェアをインストールする前にディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。まず、ソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして /usr/opensv を作成します。
- IBM 社の zSeries Linux クライアントでは、NetBackup の DVD または ESD イメージの内容を仮想 Linux 環境で読み込むことができる場所に転送する必要があります。イメージは、FTP または NFS マウントコマンドを使用して転送できません。

p.101 の「UNIX クライアントのローカルインストール」を参照してください。

- リモート (プッシュ) インストール ■ UNIX/Linux 版 NetBackup サーバーから UNIX/Linux クライアントコンピュータにクライアントソフトウェアをプッシュインストールできます。UNIX/Linux クライアントは、メディアサーバーまたはマスターサーバーではなく、完全なクライアントである必要があります。クライアントソフトウェアのプッシュインストールは、推奨インストール方式です。
- UNIX/Linux クライアントにプッシュする前にサーバーで最初に NetBackup クライアントの形式のソフトウェアをインストールする必要があります。それから、クライアント名を含むポリシーを作成する必要があります。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>
p.49 の「マスターサーバーへのクライアント形式のソフトウェアのインストール」を参照してください。
 - NetBackup UNIX/Linux サーバーから Windows クライアントソフトウェアをリモートインストールすることはできません。
 - ファイアウォールによってクライアントのリモートインストールを実行できない場合があります。
 - IBM 社の zSeries Linux のようなクライアントはローカルにマウントされた DVD デバイスを持たなかったり、NetBackup DVD または ESD イメージにアクセスできなかったりすることがあります。このような場合は、UNIX/Linux のマスターサーバーまたはメディアサーバーからクライアントソフトウェアをプッシュする必要があります。
 - 次のリモートインストール方式を利用できます。
p.108 の「[ftp](#) の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。
p.107 の「[rsh](#) の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。
p.110 の「[ssh](#) の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。
p.110 の「[sftp](#) の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

p.85 の「[NetBackup クライアントのインストールについて](#)」を参照してください。

UNIX クライアントのローカルインストール

NetBackup クライアントソフトウェアをローカルコンピュータにインストールするには、次の手順を実行します。

クライアントソフトウェアを UNIX クライアントにローカルインストールする方法

- 1 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

DVD

- ドライブに NetBackup UNIX クライアントの DVD を挿入します。
p.16 の「[NetBackup メディアキットについて](#)」を参照してください。
- 必要に応じて、DVD をマウントします。
p.36 の「[NetBackup ソフトウェアメディアのマウントについて](#)」を参照してください。
- 次のコマンドを入力します。

```
dvd_directory/install
```

dvd_directory は、DVD にアクセス可能なディレクトリのパスです。

- ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
- インストールイメージが存在する場所に移動します。
 - 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
```

```
Copyright 1993 - 2016 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Client Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

クライアントのバイナリは、バイナリがコンパイルされたオペレーティングシステムのバージョンを表します。通常、バイナリは、より新しいバージョンのオペレーティングシステム上で問題なく動作します。インストール手順によって、システムに適したバイナリのコピーが試行されます。スクリプトでローカルのオペレーティングシステムが認識されない場合は、選択肢が表示されます。

- 3 プロンプトに従って、インストールを完了します。

インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。

p.8 の「[NetBackup インストールディレクトリの制限事項](#)」を参照してください。

- 4 インストール完了後、[Exit from this Script]を選択します。

標準 RPM ツールによる Linux クライアントバイナリのインストールとアップグレード

標準 RPM インストーラを使って NetBackup Linux クライアントをインストールおよびアップグレードできるようになりました。この変更で Debian パッケージを使うクライアントは含まれません。任意に選択するインストーラ (rpm、yum など) または NetBackup インストールスクリプトを使うことができます。インストールまたはアップグレードに成功すると、`/usr/opensv/pack/install.history` ファイルに記録されます。

標準 RPM ツールを使って Linux クライアントのバイナリをインストールまたはアップグレードする方法

- 1 クライアントの `/tmp` ディレクトリに NetBackup インストール応答ファイル (NBInstallAnswer.conf) を作成してください。
- 2 次の情報を使って NBInstallAnswer.conf に値を指定します。

```
SERVER=master_server_name
CLIENT_NAME=client_name
```

例:

```
SERVER=master_01
CLIENT_NAME=client_101
```

さらに、NBInstallAnswer.conf ファイルに次のいずれかのオプションを追加できます。

- `CLIENT_NAME=XLOCALHOSTX`
このオプションにより、ローカルホストがクライアント名を提供できるようになります。このオプションを指定すると、単一のマスターサーバードメイン内のすべてのクライアントに同じ応答ファイルを使うことができます。
- `SERVICES=no`
このオプションを指定すると、インストールまたはアップグレードの後に NetBackup サービスが開始されなくなります。このオプションにより、インストールまたはアップグレードの後、NetBackup クライアントでサービスを開始する前に追加の構成を実行できます。

- 3 `CLIENTS2` パッケージから必要なクライアントの RPM ファイルを解凍してクライアントコンピュータにコピーします。
 - 十分な容量があるシステムに `CLIENTS2` パッケージをダウンロードします。
 - `CLIENTS2` ファイルの内容を解凍します。
例:

```
tar xzvf NetBackup_7.7.3_CLIENTS2.tar.gz
```
 - 目的のオペレーティングシステムのディレクトリに移動します。

例:

```
CLIENTS2/NBClients/anb/Clients/usr/opensv/netbackup/client/  
Linux/RedHat2.6.18/
```

- クライアントコンピュータに表示される .rpm ファイルをコピーします。

```
VRTSnbpcck.rpm  
VRTSnbpx.rpm  
VRTSnbclt.rpm  
VRTSnbjre.rpm  
VRTSnbjava.rpm  
VRTSpddea.rpm  
VRTSnbcfg.rpm
```

メモ: NetBackup Java コンソールの RPM (VRTSnbjava.rpm) は省略可能です。環境内のすべてのクライアントに NetBackup Java コンソールをインストールする必要がないこともあります。

メモ: z/Architecture クライアント用の VRTSpddea.rpm はないことに注意してください。

- 4 次のコマンドに示されている順序で .rpm ファイルをインストールします。

```
rpm -U VRTSnbpcck.rpm  
rpm -U VRTSnbpx.rpm  
rpm -U VRTSnbclt.rpm  
rpm -U VRTSnbjre.rpm  
rpm -U VRTSnbjava.rpm  
rpm -U VRTSpddea.rpm  
rpm -U VRTSnbcfg.rpm
```

- 5 (該当する場合) 応答ファイルがない場合は、次のメッセージが表示されます。

```
You are doing a silent install, with no answer file. The services  
will not be started on this client. Please run  
/usr/opensv/netbackup/bin/private/nb_init_cfg to configure  
NetBackup.
```

/usr/opensv/netbackup/bin/private ディレクトリに変更し、nb_init_cfg コマンドを実行して適切なプロンプトを表示します。手動で bp.conf ファイルを構成することもできます。

Linux クライアントに NetBackup インストールスクリプトを使う場合は、インストール動作に単一の変更のみが表示されます。NetBackup インストールスクリプトは、インストールパッケージをクライアントの /usr/opensv/pack/ ディレクトリにコピーしなくなりました。インストールまたはアップグレードに成功すると、/usr/opensv/pack/install.history ファイルに記録されます。

RPM インストールのエラーメッセージ、原因、およびその解決策

ここに示されている手順とは異なるインストールを試みると、エラーメッセージが表示されることがあります。表 6-2 に、処理およびそれによって生成されるメッセージをいくつか示します。

表 6-2 インストールのエラーメッセージと解決策

インストール処理	エラーメッセージ	解決策
ユーザーは、バイナリの同じバージョンにバイナリをインストールしようとしています。	# rpm -U VRTSnbpcck.rpm package VRTSnbpcck.rpm-version-platform is already installed	rpm コマンドを使ってインストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。
ユーザーは、誤った順序でバイナリをインストールしようとしています。	# rpm -U VRTSnbcfg.rpm error: Failed dependencies: VRTSnbclt >= 7.7.3 is needed by VRTSnbcfg-version-platform	マニュアルを参照して、RPM の正しいインストール順序を確認します。詳細情報が利用可能です。 p.104 の「標準 RPM ツールを使って Linux クライアントのバイナリをインストールまたはアップグレードする方法」 を参照してください。
ユーザーは、バイナリの新しいバージョンの上に古いバージョンをインストールしようとしています。	# rpm -U VRTSnbclt.rpm file /usr/opensv/lib/java/nbvmwaretags.jar from install of VRTSnbclt-version-platform conflicts with file from package VRTSnbclt-version-platform	rpm コマンドを使ってインストールされているパッケージの名前を特定します。このパッケージをアンインストールしてから操作を再試行します。

UNIX または Linux クライアントのリモートインストール方式について

次の方法を使用して、クライアントソフトウェアを UNIX または Linux マスターサーバーからクライアントホストに送信できます。

- rsh
p.107 の「[rsh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。
- ftp

p.108 の「[ftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

- ssh
p.110 の「[ssh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。
- sftp
p.110 の「[sftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

メモ: クラスタ環境でのインストールの場合、NetBackup サーバーの実際のローカルホスト名ではなく仮想名を入力します。クライアントソフトウェアのプッシュインストールを実行できるのは、アクティブノードからだけです。

rsh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール

この手順を実行する前に、次のガイドラインを参照してください。

クライアントの /.rhosts ファイル	この方法を使用するには、UNIX クライアントの /.rhosts ファイルにサーバーのエントリを含める必要があります。/.rhosts エントリ情報は、ソフトウェアのインストールのためには必要ですが、NetBackup ソフトウェアの操作時には特に必要ではありません。
クライアントソフトウェアの場所	クライアントソフトウェアをデフォルト以外の場所にインストールする場合、まず、目的のディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。クライアントソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして /usr/opensv を作成します。 インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。 p.8 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。
バックアップポリシー	クライアントがバックアップポリシーに割り当てられていることを確認します。

`rsh` の方法を使用して **UNIX** マスターサーバーから **UNIX** クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする方法

- 1 NetBackup 管理コンソールを起動します。
- 2 [ログイン (Login)]ダイアログボックスで、クライアントのポリシー構成を含む NetBackup サーバー名を入力します。

クライアントソフトウェアをインストールできるのは、インターフェース起動時に[ログイン (Login)]ダイアログボックスで指定した NetBackup サーバーから実行する場合だけです。クライアントは、この NetBackup サーバー上のポリシーに定義されている必要があります。
- 3 NetBackup 管理コンソールのメインウィンドウで、次の手順を実行します。
 - マスターサーバープロパティが表示される左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]の隣のアイコンをクリックします。ツリーが展開され、利用可能なオプションが表示されます。
 - 中央の[すべてのポリシー (All Policies)]ペインで、マスターサーバーを選択します。
- 4 [処理 (Actions)]>[UNIX クライアントソフトウェアのインストール (Install UNIX Client Software)]をクリックします。この処理は[UNIX クライアントソフトウェアのインストール (Install UNIX Client Software)]ウィンドウを開きます。
- 5 [インストール対象外のクライアント (Don't install these clients)]リストからインストールするクライアント名を選択して[追加 >> (Add >>)]をクリックします。

クライアントが[インストール対象のクライアント (Install these clients)]リストに移動します。
- 6 [クライアントソフトウェアのインストール (Install Client Software)]をクリックして、インストールを開始します。

インストールは一度開始されると停止できません。

クライアントソフトウェアのインストールには、1 つのクライアントにつき数分かかる場合があります。インストールの進捗状況に従って、[進捗状況 (Progress)]フィールドにメッセージが書き込まれます。

インストール中に、サーバーの `/usr/opensv/netbackup/client` からクライアントの `/usr/opensv` にクライアントソフトウェアがコピーされます。

クライアントに正常にインストールされなかった場合、ユーザーに通知されますが、そのクライアントはポリシー内に保持されます。
- 7 インストールが完了したら、[閉じる (Close)]をクリックします。

ftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール

この手順を実行する前に、次のガイドラインを参照してください。

クライアントへのアクセス	FTP 経由でのクライアントへのアクセスに使用可能なログイン ID およびパスワードが必要です。
クライアントソフトウェアの場所	クライアントソフトウェアをデフォルト以外の場所にインストールする場合、まず、目的のディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。ソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして <code>/usr/opensv</code> を作成します。 インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。 p.8 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。
バックアップポリシー	クライアントがバックアップポリシーに割り当てられていることを確認します。

ftp の方法を使用して UNIX マスターサーバーから UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする方法

- 1 サーバーからクライアントの `/tmp` ディレクトリにクライアントソフトウェアを移動するには、NetBackup サーバーで `install_client_files` スクリプトを実行します。

次のいずれかのコマンドを使用します。

- 1 つのクライアントにソフトウェアを一度に移動するためには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ftp client user
```

`client` は、クライアントのホスト名です。

`user` は、クライアントの FTP で必要なログイン ID です。

- ソフトウェアをすべてのクライアントに一度に移動する方法

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ftp ALL user
```

`ALL` オプションは、サーバーのバックアップポリシーに構成されているすべてのクライアントのインストールを指定します。

`user` は、クライアントの FTP で必要なログイン ID です。

`.netrc` ファイルを設定していない場合は、`install_client_files` スクリプトによって各クライアントのパスワードの入力を求められます。

- 2 スクリプトが実行された後、各クライアントコンピュータの `root` ユーザーは、次のスクリプトを実行する必要があります。

```
sh /tmp/bp.<pid>/client_config
```

`pid` はプロセス ID です。`client_config` スクリプトはバイナリをインストールします。

ssh の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール

このクライアントインストール方式は SunSSH と OpenSSH 製品の使用に基づいており、SunSSH と OpenSSH を特定のバージョンレベルとパッチレベルに設定しておく必要があります。これらのパッチについて詳しくは、『Veritas NetBackup 8.0 リリースノート』を参照してください。

この手順を実行する前に、次のガイドラインを参照してください。

SSH デーモン (sshd)	ssh の方法を使用するには、UNIX クライアントの sshd を有効にして root ユーザーログインできるように構成する必要があります。
クライアントソフトウェアの場所	クライアントソフトウェアをデフォルト以外の場所にインストールする場合、まず、目的のディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。クライアントソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして /usr/opensv を作成します。 インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。 p.8 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。
バックアップポリシー	クライアントがバックアップポリシーに割り当てられていることを確認します。

ssh の方法を使用して UNIX マスターサーバーから UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする方法

- ◆ NetBackup サーバーで、install_client_files スクリプトを実行します。

次のいずれかのコマンドを使用します。

- 一度に 1 つのクライアントにのみソフトウェアを移動する方法

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ssh client
```

client は、クライアントのホスト名です。
- ソフトウェアをすべてのクライアントに一度に移動する方法

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ssh ALL
```

ALL オプションは、サーバーのバックアップポリシーに構成されているすべてのクライアントのインストールを指定します。

sftp の方法を使用したクライアントソフトウェアのインストール

このクライアントインストール方式は SunSSH と OpenSSH 製品の使用に基づいており、SunSSH と OpenSSH を特定のバージョンレベルとパッチレベルに設定しておく必要が

あります。これらのパッチについて詳しくは、『Veritas NetBackup 8.0 リリースノート』を参照してください。

この手順を実行する前に、次のガイドラインを参照してください。

SSH デーモン (sshd)	この方法を使用するには、UNIX クライアントの sshd を有効にして root または root 以外のユーザーログインができるように構成する必要があります。
クライアントファイルの場所	クライアントソフトウェアをデフォルト以外の場所にインストールする場合、まず、目的のディレクトリを作成して、リンクさせる必要があります。ソフトウェアを保存するディレクトリを作成してから、そのディレクトリへのリンクとして /usr/opensv を作成します。 インストールフォルダの制限事項についての追加情報を参照できます。 p.8 の「NetBackup インストールディレクトリの制限事項」を参照してください。
バックアップポリシー	クライアントがバックアップポリシーに割り当てられていることを確認します。

sftp の方法を使用して UNIX マスターサーバーから UNIX クライアントにクライアントソフトウェアをインストールする方法

- 1 サーバーからクライアントの /tmp ディレクトリにクライアントソフトウェアを移動するには、NetBackup サーバーで install_client_files スクリプトを実行します。

次のいずれかのコマンドを使用します。

- ソフトウェアを 1 つのクライアントに一度に移動する方法

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files sftp client user
```

client は、クライアントのホスト名です。
user は、クライアントの SSH で必要なログイン ID です。
- ソフトウェアをすべてのクライアントに一度に移動する方法

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files sftp ALL user
```

ALL オプションは、サーバーのバックアップポリシーに構成されているすべてのクライアントのインストールを指定します。
user は、クライアントの FTP で必要なログイン ID です。

- 2 スクリプトが実行された後、各クライアントコンピュータの root ユーザーは、次のスクリプトを実行する必要があります。

```
sh /tmp/bp.<pid>/client_config
```

pid はプロセス ID です。client_config スクリプトはバイナリをインストールします。

サーバーの初期インストール後の UNIX または Linux クライアントの追加

インストール中に選択しなかった UNIX または Linux クライアントが存在する場合にはサーバーのインストール後にその UNIX または Linux クライアントを追加できます。また、バックアップ環境に新しい UNIX または Linux クライアントを追加することもできます。

クライアントソフトウェアを後でインストールするには、まず、NetBackup サーバーに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールする必要があります。

初期インストール後にサーバーに UNIX/Linux クライアントを追加する方法

1 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

DVD

- ドライブに NetBackup UNIX クライアントの DVD を挿入します。
p.16 の「[NetBackup メディアキットについて](#)」を参照してください。
- 必要に応じて、DVD をマウントします。
p.36 の「[NetBackup ソフトウェアメディアのマウントについて](#)」を参照してください。
- 次のコマンドを入力します。

```
dvd_directory/install
```

`dvd_directory` は、DVD にアクセス可能なディレクトリのパスです。

- ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)
 - インストールイメージが存在する場所に移動します。
 - 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Veritas Installation Script
Copyright 1993 - 2013 Veritas Corporation, All Rights Reserved.
```

```
Installing NetBackup Client Software
```

```
Please review the VERITAS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT located on
the installation media before proceeding. The agreement includes
details on the NetBackup Product Improvement Program.
```

```
For NetBackup installation and upgrade information specific to
your
platform and to find out if your installed EEBs or hot fixes are
contained in this release, check out the Veritas Services and
Operations Readiness Tools (SORT) Installation and Upgrade
Checklist
and Hot fix and EEB Release Auditor, respectively, at
https://sort.veritas.com/netbackup.
```

```
Do you wish to continue? [y,n] (y)
```

クライアントのバイナリは、バイナリがコンパイルされたオペレーティングシステムのバージョンを表します。通常、バイナリは、より新しいバージョンのオペレーティングシステム上で問題なく動作します。インストール手順によって、システムに適したバイナリのコピーが試行されます。スクリプトでローカルのオペレーティングシステムが認識されない場合は、選択肢が表示されます。

- 3 コピーするクライアント形式を選択し、プロンプトに従ってそのクライアント形式をインストールします。目的のクライアント形式がすべてインストールされるまで、必要に応じて繰り返します。

サーバーからリモートインストールを行うすべての形式の UNIX/Linux クライアントのソフトウェアをコピーしたことを確認します。

- 4 インストールが完了したら、DVD のマウントを解除します。
- 5 指定したクライアントに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールします。
p.106 の「UNIX または Linux クライアントのリモートインストール方式について」を参照してください。

サーバーのアップグレード後のクライアントのアップグレード

update_clients インストールスクリプトによって、クライアントにクライアントソフトウェアのプッシュインストールを実行できます。NetBackup メディアサーバーまたはマスターサーバーであるリモートクライアントには、クライアントソフトウェアのプッシュインストールは実行できません。これは、1 つのホスト上のサーバーソフトウェアおよびクライアントバイナリが同じバージョンである必要があるためです。

update_clients インストールスクリプトを使用すると、サーバーに構成されている完全なクライアントリストを確認できます。パラメータを指定せずに実行すると、/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpplclients に基づいて、すべてのクライアントの更新が試行されます。一部のクライアントをアップグレードする場合は、一部のクライアントを指定できます。ハードウェアおよびオペレーティングシステムのパラメータを使用するか、-ClientList パラメータを使用します。

メディアサーバーから update_clients を実行できます。この場合、-ClientList パラメータを使用する必要があります。このコマンドを使用すると、メディアサーバーおよび一連のクライアントを、マスターサーバーよりも前のバージョンに保持できます。このコマンドを使用するには、予定外のクライアントをアップグレードしないように、マスターサーバーおよびメディアサーバーでの update_clients -ClientList コマンドの使用に熟知している必要があります。

クラスタ環境の場合、クライアントソフトウェアのプッシュインストールを実行できるのは、アクティブノードからだけです。

クライアントのアップグレードの間に、新しいクライアントファイルがクライアントの /tmp 内のディレクトリに書き込まれます。このディレクトリには、正常にアップグレードを行うために新しいクライアントファイルを一時的に保存するための十分な領域がなければなりません。十分な領域が利用可能でない場合、アップグレードスクリプトで /tmp ディレクトリ内の場所への書き込みを行うことができなかったという状態メッセージが表示されます。この問題を解決するには、/tmp ディレクトリにより多くの領域を割り当てて、アップグレード手順を再び実行します。一時ディレクトリはアップグレードが完了すると削除されます。

サーバーのアップグレード後にクライアントをアップグレードする方法

- 1 インストールスクリプトを開始するには、次のいずれかの方法を使用します。

DVD

- ドライブに NetBackup UNIX クライアントの DVD を挿入します。
p.16 の「[NetBackup メディアキットについて](#)」を参照してください。
- 必要に応じて、DVD をマウントします。
p.37 の「[UNIX または Linux システムでの NetBackup ソフトウェアメディアのマウント](#)」を参照してください。
- 次のコマンドを入力します。

```
cd_directory/install
```

cd_directory は、DVD にアクセス可能なディレクトリのパスです。

ESD イメージ (ダウンロード済みファイル)

- インストールイメージが存在する場所に移動します。
- 次のコマンドを入力します。

```
./install
```

2 次のメッセージが表示されたら、Enter キーを押して続行します。

```
Installing NetBackup Client Software.  
Do you wish to continue? (y/n) [y]
```

クライアントのバイナリは、バイナリがコンパイルされたオペレーティングシステムのバージョンを表します。通常、バイナリは、より新しいバージョンのオペレーティングシステム上で問題なく動作します。たとえば、HP PA-RISC 11.11 バイナリは、HP PA-RISC 11.23 レベルのオペレーティングシステムでも使われます。

3 インストールするクライアント形式を選択し、プロンプトに従ってそのクライアント形式をインストールします。目的のクライアント形式がすべてインストールされるまで、必要に応じて繰り返します。

このサーバーからプッシュするすべての形式の UNIX クライアントのソフトウェアをインストールしたことを確認してください。これを行わない形式の UNIX クライアントは、NetBackup のポリシー構成に追加できません。

4 インストールが完了したら、DVD のマウントを解除します。

5 NetBackup マスターサーバー上で、root ユーザーとして次のコマンドを入力して、bprd が動作しているかどうかを確認します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpps
```

bprd が動作している場合は、次のコマンドを実行して停止します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bprdreq -terminate
```

- 6 バックアップまたはリストアが実行中ではないことを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bpdbjobs
```

- 7 `update_clients` スクリプトを実行することによって UNIX クライアントソフトウェアを更新します。クライアントのリストには、仮想名ではなく各ノードのホスト名を指定します。

次のいずれかのコマンドを使用します。

-ClientList ファイルを `/usr/opensv/netbackup/bin/update_clients`
使わない場合

-ClientList ファイルを `/usr/opensv/netbackup/bin/update_clients`
使う場合 `-ClientList filename`

メディアサーバーでは、-ClientList パラメータを使用する必要があります。

クライアントが 30 を超える場合、リストを複数のファイルに分割して、各ファイルに対して `update_clients` を実行できます。

クライアントリストファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- 次のように入力して、NetBackup の `admincmd` ディレクトリに移動します。

```
cd /usr/opensv/netbackup/bin/admincmd
```

- `bpplclients` コマンドを使用して、現在 NetBackup データベースに構成されているクライアントのリストが含まれるファイルを作成します。このコマンドで使用するオプションは、次に示すように、マスターサーバーまたはメディアサーバーのどちらからプッシュインストールを行うかによって異なります。

マスターサーバーからプッシュインストールを行う場合 `./bpplclients -allunique -noheader > file`

メディアサーバーからプッシュインストールを行う場合 `./bpplclients -allunique -noheader -M m_server_name > file`

オプションの説明は、次のとおりです。

`m_server_name` 環境内の NetBackup マスターサーバーの名前。

`file` 一意のクライアントのリストを含めるファイルの名前。NetBackup データベース内でクライアントが構成されていない場合、ファイルは空になります。

bppplclients コマンドは、次の形式で file に出力を書き込みます。

```
hardware os client
```

hardware	ハードウェアの名前。たとえば、ディレクトリ /usr/opensv/netbackup/client では、ls コマンドを実行 します。
os	オペレーティングシステムの名前。たとえば、ディレクトリ /usr/opensv/netbackup/client/ hardware では、ls コ マンドを実行します。
client	クライアントの名前。

次に、file の内容の例を示します。

```
Solaris Solaris9 curry
```

- 必要に応じて、file を編集します。
file の内容を変更するには、この手順を実行します。NetBackup クライアントソフトウェアで更新するクライアントだけが含まれるように file を編集します。クライアントのホスト名は、クライアントの各ノード名である必要があります。仮想名は指定できません。hostname コマンドと domainname コマンドは個々のノード名の正しい値を戻します。使用できる形式は、hostname または hostname.domainname のいずれかです。

- 8 update_clients スクリプトを実行すると、情報の入力が必要です。次の情報がスクリプトに表示されます。

```
Starting update_clients script.  
There are N clients to upgrade.  
Do you want the bp.conf file on the clients updated to list this  
  
server as the master server? (y/n) [y]
```

y または n のどちらかを入力します。

```
Enter the number of simultaneous updates you wish to take  
place. [1 - 30] (default: 15):
```

Enter キーを押します。

```
The upgrade will likely take Y to Z minutes.  
Do you want to upgrade clients now? (y/n) [y]
```

y または n のどちらかを入力します。

- 9 すべてのサーバーおよびクライアントがアップグレードされたら、マスターサーバー上で **root** ユーザーとして次のコマンドを入力して、bprd デーモンを起動します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/initbprd
```

NetBackup の構成

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の起動と停止のスクリプトについて](#)
- [NetBackup Server の構成について](#)

NetBackup の起動と停止のスクリプトについて

NetBackup をインストールするとき、インストールスクリプトは起動と停止のスクリプトの構成も実行します。起動スクリプトを使用して、システムがブートする際に **NetBackup** デーモンを自動的に起動することができます。停止スクリプトを使用して、システムを停止する際に起動スクリプトを自動的に終了することができます。

インストール処理はオペレーティングシステムの適切な場所に **NetBackup** の起動と停止のスクリプトをコピーします。

非クラスタ環境でのアップグレードの場合、既存の **NetBackup** 関連の起動および停止スクリプトは保存され、新しいバージョンのスクリプトがインストールされます。

[表 7-1](#) は、**NetBackup** のインストール中にインストールされる各種のプラットフォームの起動スクリプトと停止スクリプトのリンクをリストします。

表 7-1 プラットフォーム別の NetBackup の起動と停止のスクリプトのリンク

プラットフォーム	リンク
AIX	/etc/rc.netbackup.aix ■ レベル 2 でのブート中にこのスクリプトが呼び出されるように、NetBackup のインストールスクリプトによって /etc/inittab ファイルが編集され、次に示すエントリが追加されました。 netbackup:2:wait:/etc/rc.netbackup.aix ■ 停止するには、次に示す行を /etc/rc.shutdown ファイルに追加します。 /etc/rc.netbackup.aix stop
HP-UX	/sbin/rc1.d/K001netbackup ->/sbin/init.d/netbackup /sbin/rc2.d/S777netbackup ->/sbin/init.d/netbackup
Linux Debian	/etc/rc0.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup /etc/rc1.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup /etc/rc2.d/S95netbackup ->/etc/init.d/netbackup
Red Hat Linux	/etc/rc.d/rc0.d/K01netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc1.d/K01netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc2.d/S77netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc3.d/S77netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc5.d/S77netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc6.d/K01netbackup ->/etc/rc.d/init.d/netbackup

プラットフォーム	リンク
SuSE Linux	/etc/init.d/rc0.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc2.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc3.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc5.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/init.d/rc6.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
Solaris	/etc/rc0.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/rc1.d/K01netbackup ->/etc/init.d/netbackup
	/etc/rc2.d/S77netbackup ->/etc/init.d/netbackup

NetBackup Server の構成について

すべてのサーバーソフトウェアがインストールされた後、環境のロボットとストレージデバイスと連携して働くように **NetBackup** を構成する準備ができています。オペレーティングシステムがこれらのデバイスを構成されたデバイスとして認識してから **NetBackup** で構成する必要がありますので注意してください。

p.18 の「[ストレージデバイスの構成について](#)」を参照してください。

NetBackup を構成するとき次のガイドラインを使います。

NetBackup Enterprise Server マスターサーバーおよびメディアサーバーの構成手順は非常に類似しています。ただし、マスターサーバーからストレージデバイスやボリュームなどのすべてのサーバー情報を構成することを推奨します。この順序に従うことで、マスターサーバーがメディアサーバーを適切に管理できるようになります。

警告: マスターサーバーとメディアサーバー間の通信に問題があっても、構成ウィザードを実行することは可能です。ただし、問題が解決されるまで、メディアサーバー上でウィザードを実行しないでください。通信に問題がある場合にこのウィザードを実行しても、入力した情報はマスターサーバーによって認識されません。最初に問題を修正する必要があります。問題を修正してから、マスターサーバーで構成ウィザードを実行します。

クラスタ環境

- クラスタ内の各ノードでデバイスを構成します。
- アクティブ ノードのすべてのストレージデバイスが NetBackup と連携して働くように、これらを構成することから開始します。
- フェールオーバー対応 NetBackup サーバーでは、クラスタ内の NetBackup がインストールされている各ノードにすべてのデバイスを接続します。他のノードにマイグレートする方法については、クラスタのベンダーが提供するマニュアルを参照してください。
- 特に指定しないかぎり、クラスタ内のマスターサーバーおよびメディアサーバーの仮想ホスト名を使用するように NetBackup を構成します。

アドオン製品のフェールオーバーの構成方法について詳しくは、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

NetBackup サーバーの初期構成では、NetBackup 管理コンソールを起動し、[開始 (Getting Started)]アイコンをクリックすることをお勧めします。一連のウィザードに従って次の構成手順を実行します。

- ストレージデバイスの構成 (Configure Storage Devices)
p.124 の「[デバイスの構成ウィザードについて](#)」を参照してください。
- ボリュームの構成 (Configure Volumes)
p.126 の「[ボリュームの構成ウィザードについて](#)」を参照してください。
- カタログバックアップの構成 (Configure the Catalog Backup)
p.127 の「[カタログバックアップウィザードについて](#)」を参照してください。
- バックアップポリシーの作成 (Create a Backup Policy)
p.128 の「[バックアップポリシーの構成ウィザードについて](#)」を参照してください。

NetBackup がすでに構成され、特定の領域を変更したいと思ったら NetBackup 管理コンソールの適切なウィザードをクリックします。

NetBackup のすべてのウィザードに関する詳細情報と NetBackup を構成する方法について詳しくは『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

p.18 の「[ストレージデバイスの構成について](#)」を参照してください。

NetBackup 管理コンソールの起動

NetBackup 管理コンソールを NetBackup を構成するために開くには、次の手順を使います。開始ウィザードによって、NetBackup を機能させるための主な構成手順が示されます。

メモ: NetBackup 管理コンソールの最初のウィンドウでは、開始ウィザード以外のウィザードを起動できます。たとえば、ディスクプールを構成するか、またはスナップショットバックアップのポリシーを作成できます。すべての NetBackup ウィザードについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Windows システムでは、NetBackup のインストールの最後に表示されるチェックボックス[管理コンソールの起動 (Launch Administration Console)]にチェックマークを付けると、この手順をスキップできます。

Windows で NetBackup 管理コンソールを起動する方法

- 1 NetBackup サーバーに管理者としてログインします。
- 2 [スタート (Start)] > [プログラム (Programs)] > [Veritas NetBackup] > [NetBackup リモート管理コンソール (NetBackup Remote Admin Console)]をクリックします。
- 3 構成を開始するには、管理コンソールで[開始 (Getting Started)]をクリックします。
[開始 (Getting Started)]画面が表示され、デバイスの構成を始めるように求めるメッセージが表示されます。

メモ: オペレーティングシステムで動作するようにデバイスを構成する必要が引き続きあったらウィザードを開じます。最初にそれらのデバイスをデバイスとオペレーティングシステムのベンダーによって指定されたように構成する必要があります。

UNIX で NetBackup 管理コンソールを起動する方法

- 1 root ユーザーとして NetBackup サーバーにログインします。
クラスタ環境では、root としてアクティブノードにログインします。
NetBackup サーバー以外のコンピュータでユーザーインターフェースを実行する必要がある場合は、そのコンピュータにログインします。UNIX システムの場合は、root ユーザーとしてログインします。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/jnbSA &
```
- 3 root ユーザーのパスワードを入力します。
クラスタ環境では、NetBackup 管理コンソールにログインするときに、[ホスト (Host)]フィールドに仮想ホスト名を指定します。
- 4 [ログイン (Login)]をクリックします。

- 5 構成を開始するには、管理コンソールで「開始 (Getting Started)」をクリックします。
- 6 最初の「開始 (Getting Started)」画面で内容を確認し、「次へ (Next)」をクリックします。

次の画面はストレージデバイスの構成を求めるプロンプトを表示します。

メモ: オペレーティングシステムで動作するようにデバイスを構成する必要がある引き続きあったらウィザードを閉じます。最初にそれらのデバイスをデバイスとオペレーティングシステムのベンダーによって指定されたように構成する必要があります。

デバイスの構成ウィザードについて

バックアップを実行する前に、NetBackup 用のストレージデバイスを定義する必要があります。このウィザードに従って、処理を行います。ただし、お使いのオペレーティングシステム用のストレージデバイスが正しく構成されている必要があります。NetBackup は、デバイスが正しく取り付けられていない、または正しく構成されていない場合は、正常に動作しません。

p.18 の「ストレージデバイスの構成について」を参照してください。

クラスタ環境では、すべてのストレージデバイスをアクティブノードから構成します。フェールオーバー対応 NetBackup サーバーでは、NetBackup がインストールされている各ノードにすべてのデバイスを接続することをお勧めします。

手順について詳しくは、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

このウィザードでは、次の処理を実行できます。

- バックアップデバイス用のホストのスキャン
- 自動検出されたデバイスの確認
- ドライブ構成の確認と修正
- デバイス構成の更新

ウィザードはデバイスを構成するとき次の情報を示します。

デバイスの構成

- ウィザードによって[デバイスホスト (Device Hosts)]画面が表示されたら、デバイスを自動検出および構成するホストを指定する必要があります (NetBackup Enterprise Server のみ)。
- ウィザードによって[バックアップデバイス (Backup Devices)]画面が表示されたら、デバイスのリストが完全かつ正確であることを確認します。既知のバックアップデバイスがこのリストに表示されない場合は、次の手順を実行します。
 - バックアップデバイスが物理的にホストに接続されていることを確認します。
 - すべての指定したデバイスとオペレーティングシステムのベンダーのインストール手順が正常に実行されることを確認します。
 - すべてのドライブが適切なデバイスに定義されていることを確認します。ドライブを移動する必要がある場合は、ドライブを選択して正しい移動先へドラッグします。
- クラスタでは、各ノードにおいてストレージデバイスの構成が実行されていることを確認します。アクティブノードで始め、そして別のノードに NetBackup のアクティブノードを移動し、そのノードでストレージデバイスの構成を実行します。NetBackup が実行されているクラスタの各ノードに対してこの手順を繰り返します。

メモ: デフォルトでは、ロボットデーモンや NetBackup アドオン製品で障害が発生しても、NetBackup はフェールオーバーされません。ただし、ロボットデバイスや NetBackup アドオン製品を構成して、これらで障害が発生した場合に NetBackup をフェールオーバーするようにできます。オペレーティングシステムは、フェールオーバーするように NetBackup を構成する前に、構成されているロボットを認識する必要があります。フェールオーバーの構成について詳しくは、『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

ストレージユニットの定義

- [ストレージユニットの構成 (Configure Storage Units)] 画面で、ストレージユニットを定義します。システムがテープデバイスを備えていない場合は、ディスクストレージユニットを定義することで、データをディスクに格納できます。
- ストレージユニットのパスの入力には、次の規則を適用します。
 - 適切なパス区切り文字 (UNIX の場合はスラッシュ (/)、Windows の場合は円記号 (\)) を使用します。
 - Windows プラットフォームのドライブを区切る場合は、コロン (:) を使用します。
 - 次の文字だけを使用します。
アルファベット文字 (ASCII の A から Z および a から z)
数字 (0 から 9)
その他の文字: プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、アンダースコア (_) またはピリオド (.)

p.126 の「ボリュームの構成ウィザードについて」を参照してください。

ボリュームの構成ウィザードについて

ストレージデバイスを構成した後、開始ウィザードからボリュームの構成ウィザードを開始します。ただし、ディスクストレージ機能だけが使用可能な場合、このウィザードはスキップされます。

このウィザードは構成されたそれぞれのロボットのインベントリを開始することを可能にします。インベントリの実行中に新しいロボットメディアが検出されると、ボリュームデータベースは自動的に更新されます。また、スタンドアロンドライブで使用する新しいボリュームも定義できます。

スタンドアロンドライブのボリュームまたはボリューム構成について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: クラスタ環境では、アクティブノードからボリュームを構成します。

このウィザードは次のタスクをすることを可能にします。

- ボリュームの構成用のデバイスの選択
- ロボットのインベントリの実行
- 新しいボリュームの作成
- 新しいボリュームグループの作成

ボリュームを構成し、インベントリを実行するときウィザードは次の情報を示します。

ロボットまたはデバイスのインベ ントリ	■ NetBackup は、選択済みのロボットまたはデバイスのインベ ントリを実行します。インベントリが完了した後に結果を表示 するには、[結果 (Results)] フィールドを参照してください ■ デバイスのインベントリが完了した後、ウィザードはどのデバ イススロットがクリーニングメディアを含んでいるかを指定する ように求めます。 NetBackup をアップグレードした際に、すでにバーコード規 則が存在している場合は、クリーニングメディアに使用するス ロットがバーコードリーダーによって自動的に検出されます。 クリーニングスロットを指定しない場合、NetBackup によって すべてのメディア (クリーニングメディアを含む) が標準のメ ディアと見なされ、上書きされます。 ■ インベントリが完了した後、どのデバイススロットがクリーニ ングメディアを含んでいるかを指定するように求められます。 [クリーニングメディアの識別 (Identify Cleaning Media)] 画 面で 1 つ以上のスロットをクリーニングテープとして指定する と、[ロボットのインベントリ (クリーニングメディア) (Robot Inventory (Cleaning Media))] 画面が表示されます。この画 面には、EMM データベースを更新した後の結果が表示され ます。 クリーニングメディアを指定しない場合、NetBackup によって すべてのメディア (クリーニングメディアを含む) が標準のメ ディアと見なされ、上書きされます。
スタンドアロンドライブ	■ デバイスのボリューム数を指定します。 ■ このウィザードでは、スタンドアロンドライブのクリーニングテ ープを構成することはできません。
複数のドライブ形式	複数のドライブ形式を指定した場合は、次の項目が適用されま す。 ■ 1 つのロボットドライブによって書き込まれるメディアは他のど のドライブでも動作しないことがあります。この場合は、 NetBackup によって、ロボットに複数の形式のドライブが存 在すると見なされます。 ■ ロボットに複数の形式のドライブが存在する場合、ウィザード ではロボットのインベントリを実行できません。

p.127 の「[カタログバックアップウィザードについて](#)」を参照してください。

カタログバックアップウィザードについて

NetBackup カタログはバックアップファイルとディレクトリの構成と場所についての情報を含んでいます。ディスクに障害が発生してカタログが消失した場合は、カタログバックアップを行うことによって、データのリストアとバックアップスケジュールを簡単に再開できるようになります。

したがって、データのバックアップを行う前に、カタログバックアップポリシーを構成することが必要です。

このウィザードはオンラインホットカタログバックアップのポリシーを作成することを可能にします。オンラインホットカタログバックアップでは、通常のクライアントバックアップの実行中にカタログをバックアップできます。

カタログバックアップのポリシーは次の情報を指定することを可能にします。

- カatalogバックアップの宛先
バックアップ先はどの構成されたストレージデバイスでもかまいません。追加のディザスタリカバリ保護用に、カタログバックアップのために第 2 の場所を指定できます。

メモ: NetBackup はディスクへのカタログバックアップをサポートしますが、ベリタスはオフサイトに保管されるリムーバブルメディアにカタログをバックアップすることを推奨します。

- カatalogバックアップを行う日時
- カatalogバックアップからのリカバリに必要であるディザスタリカバリファイルの場所
次のガイドラインを使用してカタログバックアップを構成します。
- 他のすべてのファイルやデータがバックアップされる前にカタログバックアップポリシーを構成します。
- クラスタシステムの場合、アクティブノードからカタログバックアップポリシーを構成します。

カタログバックアップについて詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』の「NetBackup カatalogの保護」の章を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

クラスタ環境のカタログバックアップを構成する方法に関しては『NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

バックアップポリシーの構成ウィザードについて

このウィザードでは、1 台以上のクライアントのグループのバックアップポリシーを定義できます。クラスタ環境では、アクティブノードからポリシーを構成します。

ウィザードに従って、次の項目を指定します。

- ポリシー名およびポリシー形式
- クライアント
- バックアップを行うファイルおよびディレクトリ

- バックアップ形式
- バックアップのローテーション
- バックアップの開始時刻

このウィザードでは、ポリシーを使用して実行するバックアップの形式を選択するように求められます。

表 7-2 は 利用可能なバックアップ形式を記述します。

表 7-2 バックアップ形式の説明

バックアップ形式	説明
完全バックアップ	ファイルリストで指定されたすべてのファイルをバックアップします。
増分バックアップ	ファイルリストに指定されたすべての変更ファイルのバックアップを行います。
差分バックアップ	差分増分バックアップとも呼ばれます。 最後の正常な増分バックアップまたは完全バックアップ以降に変更されているファイルのバックアップを行います。バックアップが一度も行われていない場合、すべてのファイルのバックアップが行われます。
累積バックアップ	累積増分バックアップとも呼ばれます。 最後の正常な完全バックアップ以降に変更されているファイルのみのバックアップを行います。バックアップが一度も行われていない場合、すべてのファイルのバックアップが行われます。
ユーザーバックアップ	特定のファイルをバックアップするためにユーザーによって手動で開始されます。

バックアップポリシーを作成する場合は、次のガイドラインを使用してください。

- バックアップポリシーの構成ウィザードの[クライアントリスト (Client List)]画面には、バックアップ対象のクライアントのリストが表示されます。このリストでクライアントの追加、変更または削除を行うことができます。
- このバックアップポリシーを使用して完全バックアップまたは増分バックアップを行う頻度を選択できます。また、バックアップの保持期間も選択できます。

バックアップポリシーの構成ウィザードの終了後、インストールの検証テストを実行するかどうか尋ねられます。このテストを実行するには、NetBackup 管理コンソールの左ペインで[アクティビティモニター (Activity Monitor)]をクリックします。これで、バックアップジョブの進捗状況を監視できます。

NetBackup ソフトウェアのアップグレード

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のアップグレードについて](#)
- [NetBackup 7.x アップグレードポータルについて](#)

NetBackup のアップグレードについて

NetBackup 7.6 以降では、『Veritas NetBackup インストールガイド』にアップグレードに関する情報が含まれません。

詳細なアップグレード情報については、[NetBackup アップグレードポータル](#)にある『Veritas NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。次のリンクをクリックしてポータルにアクセスできます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH74584>

p.9 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

p.130 の「[NetBackup 7.x アップグレードポータルについて](#)」を参照してください。

NetBackup 7.x アップグレードポータルについて

NetBackup 7.x アップグレードポータルには、バージョン 8.0 へのアップグレードに必要な情報とその手順が含まれます。次に、ポータルへのリンクを示します。

<http://www.veritas.com/docs/TECH74584>

ポータルのマニュアルに記述されているように、NetBackup 8.0 にアップグレードする必要があります。

NetBackup 8.0 へのアップグレードの計画と準備をサポートするため、ポータルで利用できる重要な情報を次に示します。

- **カタログバックアップ**
アップグレードに失敗した場合に備えて、アップグレードの前に、カタログバックアップを作成し、カタログのバックアップを用意する必要があります。
- **NetBackup 8.0 の NetBackup カatalogチェック (NBCC) ユーティリティ**
アップグレードの前に、カタログをチェックし、アップグレードの失敗の原因になる可能性のある不整合がカタログにないことを確認する必要があります。NBCC の結果がカタログの不整合を示した場合は、ガイダンスについて、ベリタスのテクニカルサポートに補足情報を求める必要があります。
- **NetBackup OpsCenter 8.0 へのアップグレード**
『Veritas NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』には、NetBackup OpsCenter 8.0 へのアップグレードに関する重要な注意事項が記載されています。このアップグレードは、NetBackup 8.0 にアップグレードする前に実行する必要があります。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>
- **カタログのクリーンアップ**
正常なアップグレードを妨げる可能性のある不整合が現在の NetBackup カatalogに含まれないようにする必要があります
- **NetBackup 8.0 へのアップグレード**
カタログのクリーンアップとNBCC の結果が許容可能であると宣言されて、NetBackup OpsCenter 8.0 にアップグレードした後に、NetBackup 8.0 へのアップグレードを開始します。

NetBackup 8.0 のアップグレード処理に関して質問または問題がある場合は、Veritas のテクニカルサポートに連絡してください。

p.9 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除

この章では以下の項目について説明しています。

- [UNIX システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について](#)
- [UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削除について](#)
- [UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削除](#)
- [Windows システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について](#)
- [Windows サーバー、クラスター、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除](#)
- [Windows システムからの NetBackup LiveUpdate の削除](#)
- [Windows サーバーおよび Windows クライアントからの Java コンソールの状態データの削除について](#)

UNIX システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について

NetBackup の削除手順は、インストールされているすべてのアドオン製品と共に NetBackup を完全に削除します。各手順で、NetBackup を削除する前に、必要なすべてのデータを保存したり、アドオン製品を削除したりできるようになっています。

ベリタスは NetBackup サーバーソフトウェアを削除するときに以下の順序を使うことを推奨します。

- すべての必要なデータを保存します。
このタスクは NetBackup を後日再インストールすることを計画している場合非常に重要です。
- NetBackup サーバーソフトウェアを削除する前にすべてのアドオン製品を削除します。
- NetBackup サーバーソフトウェアを削除します。

p.133 の「UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削除」を参照してください。

p.133 の「UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削除について」を参照してください。

UNIX および Linux システムでの NetBackup クライアントソフトウェアの削除について

UNIX/Linux クライアントから NetBackup を削除する場合は、次のガイドラインを参照します。

NetBackup クライアントソフトウェアを削除しても、PBX は削除されません。PBX を手動で削除する必要があります。このマニュアルのクライアントソフトウェアの削除手順には、このタスクを実行する方法を記述する手順が含まれています。

警告: PBX を実行する必要がある他のベリタスソフトウェア製品をクライアントで使用している場合、PBX を削除しないでください。

UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントからの NetBackup の削除

この手順では、UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントから NetBackup を削除します。NetBackup を正常に削除するための特定の作業の実行手順については、他のマニュアルの参照が必要となる場合もあります。

UNIX および Linux のサーバーおよびクライアントから NetBackup を削除する場合は、次のガイドラインを参照します。

NetBackup リレーショナルデータベース (NBDB) の場所	<code>/usr/opensv/db/data</code> にある NBDB ファイルをデフォルトのインストール場所から移動した場合、この手順ではそのファイルを削除する方法について説明しています。
クラスタ環境	NetBackup の削除を開始する前に、クラスタアプリケーションから NetBackup を削除する必要があります。クラスタのマニュアルの説明に従ってグループを削除した後で、NetBackup を削除できます。 クラスタ内の各ノードから NetBackup を削除する必要があります。
HP-UX Service Guard Cluster	NetBackup がクラスタパッケージとして実行されるように構成されている場合は、次のディレクトリも削除する必要があります。 <pre>/etc/cmcluster/netbackup</pre>
PBX	NetBackup を削除しても、PBX は削除されません。PBX を手動で削除する必要があります。この手順にはこのタスクを実行する方法を記述する手順が含まれています。 警告: PBX を実行する必要がある他のベリタスソフトウェア製品をクライアントで使用している場合、PBX を削除しないでください。
NetBackup 管理コンソール	NetBackup 管理コンソールは、NetBackup を削除するとき閉じる必要があります。これを行わないと、NetBackup により、手順の再度実行を強制するエラーが発生することがあります。

UNIX サーバーから NetBackup を削除する方法

- 1 サーバーまたはクライアントで root ユーザーとしてログオンします。
- 2 (該当する場合: サーバーのみ) カタログバックアップを実行します。
- 3 NetBackup 管理コンソールが開いている場合は、ここで閉じる必要があります。
- 4 (該当する場合: サーバーのみ) インストールされているアドオン製品から、重要なデータをすべて保存します。
- 5 次のコマンドを使って NetBackup または Media Manager デーモンを停止します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all
```

- 6** 次のコマンドを使ってインストール済みのアドオン製品を識別します。

AIX	<code>lslpp -L</code>
HP-UX	<code>swlist</code>
Linux の場合	<code>rpm -qa</code>
Solaris	<code>pkginfo</code>

7 つのアドオン製品を、サーバーとクライアントにインストールできます。インストールするには次を行います。

```
VRTSfrnb (Applies only to servers)
VRTSfrnbclt
VRTSjanb (Applies only to servers)
VRTSjanbclt
VRTSzhnb (Applies only to servers)
VRTSzhnbclt
VRTSnbsds (Applies only to servers)
```

見つかったアドオン製品を削除します。

- 7** (該当する場合: サーバーのみ) **Solaris** システムの場合にのみ、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/volmgr/bin/driver/sg.install -deinstall
```

- 8** 次のコマンドを実行して、`/etc/vx/vrtslog.conf` ファイルに格納された **VxUL** マスター構成から **NetBackup** を登録解除します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/vxlogcfg -r -p 51216
```

`-p` オプションはプロダクト ID を指定します (**NetBackup** の場合は 51216)。

- 9** (該当する場合: サーバーのみ) **BMR** がサーバーでサポートされ、有効になっている場合、次のコマンドを使って関連ファイルを削除します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bmrsetupmaster -undo -f
```

- 10** **LiveUpdate** を使用してすべての **NetBackup** 製品を登録解除するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/nblu_registration -r
```

- 11** (該当する場合: サーバーのみ) **NBDB** ファイルをデフォルトのインストール場所から移動した場合、次の手順を実行して手動で削除する必要があります。

- **NBDB** ファイルが存在する次のディレクトリに移動します。

```
/usr/opensv/db/data
```

- vxdbms.conf ファイルを開きます。
このファイルには、データベース関連のファイルのリストと、各ファイルのパスが記載されています。

- データベース関連の各ファイルを削除します。

- 12 (該当する場合: サーバーのみ) NetBackup ファイバートランスポートがサーバーでサポートされ、有効になっている場合、次のコマンドを使って関連ファイルを削除します。**

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/nbftsrv_config -d
```

- 13 (該当する場合: Linux のみ) 次のとおり適切なコマンドを使用して NetBackup 構成のパッケージを削除します。**

```
rpm -e VRTSnbcfg
```

- 14 PureDisk をサポートするクライアントの場合は、次のコマンドを実行してすべての PureDisk ファイルを削除します。**

```
/opt/pdde/pddeuninstall.sh -forceclean
```

- 15 (該当する場合: サーバーのみ) MSDP をサポートするクライアントの場合は、次のコマンドを実行してすべての MSDP ファイルを削除します。**

```
/opt/pdde/pddeuninstall.sh -basedir /usr/opensv/pdde/ -ostdir  
/usr/opensv/lib/ost-plugins/ -forceclean
```

メモ: 上のコマンドは、3 つのパラメータ (basedir、, ostdir、forceclean) および入力パスとして 2 つのディレクトリパラメータを受け取る単独のコマンドであることに注意してください。

- 16 (該当する場合: サーバーのみ) NetBackup サーバーパッケージを削除するには、次のコマンドを実行します。**

AIX	installp -u VRTSnetbp
-----	-----------------------

HP-UX	swremove VRTSnetbp
-------	--------------------

Linux の場合	rpm -e VRTSnetbp
-----------	------------------

Solaris

pkgrm VRTSnetbp

- インストール済みのパッケージ VRTSnetbp を削除するかどうか尋ねられたら、y を入力して、Enter キーを押します。
- スーパーユーザー権限を使用してパッケージの削除を続行するかどうかを尋ねられたら、y を入力して、Enter キーを押します。

17 適切なネーティブコマンドを次のとおり使って **NetBackup-Java** ディスプレイコンソールを削除します。

AIX

installp -u VRTSnbjava

HP-UX

swremove VRTSnbjava

Linux の場合

rpm -e VRTSnbjava

Solaris

pkgrm VRTSnbjava

18 適切なネーティブコマンドを次のとおり使って **NetBackup Java Runtime Environment** を削除します。

AIX

installp -u VRTSnbjre

HP-UX

swremove VRTSnbjre

Linux の場合

rpm -e VRTSnbjre

Solaris

pkgrm VRTSnbjre

19 適切なネーティブコマンドを次のとおり使って **NetBackup クライアント** を削除します。

AIX

installp -u VRTSnbclt

HP-UX

swremove VRTSnbclt

Linux の場合

rpm -e VRTSnbclt

Solaris

pkgrm VRTSnbclt

20 適切なネーティブコマンドを次のとおり実行して PBX を削除します。

メモ: PBX を実行する必要がある他のベリタスソフトウェア製品をサーバーで使用している場合、PBX を削除しないでください。

AIX	<code>installp -u VRTSspb</code>
HP-UX	<code>swremove VRTSspb</code>
Linux の場合	<code>rpm -e VRTSspb</code>
Solaris	<code>pkgrm VRTSspb</code>

21 (該当する場合: Linux のみ) 次のとおり適切なコマンドを使用して NetBackup 事前チェックパッケージを削除します。

```
rpm -e VRTSnbpck
```

22 /usr/opensv ディレクトリを削除するには、次のいずれかの方法を選択します。

警告: `rm -f /usr/opensv` コマンドを実行して、このコマンドを実行するコンピュータにインストールされているアドオン製品を削除することもできます。

- /usr/opensv が実際のディレクトリの場合は、次のコマンドを実行します。

```
rm -rf /usr/opensv
```

- /usr/opensv がそのディレクトリへのシンボリックリンクの場合は、次のコマンドを実行します。

```
cd /usr/opensv
pwd
ls
```

警告: 次の手順に進む前に、現在のディレクトリおよびサブディレクトリが削除対象であることを確認してください。異なるディレクトリを削除しないようにするには、前のコマンドを実行して現在のディレクトリを確認し、そのディレクトリ内のファイルを表示します。ディレクトリの場所と内容を確認したら、次のコマンドを使用してディレクトリを削除します。

```
rm -rf *
cd /
rm -f /usr/opensv
```

メモ: オペレーティングシステムによっては、`/usr/opensv` ディレクトリを削除するために `rmdir` コマンドが必要になる場合もあります。

```
rmdir /usr/opensv
```

23 Linux システムの場合のみ:

起動スクリプトと停止スクリプトを変更した場合は、次のコマンドを実行します。

```
/sbin/chkconfig --del netbackup
```

p.119 の「[NetBackup の起動と停止のスクリプトについて](#)」を参照してください。

24 次の起動スクリプトを削除します。

AIX システムの場合	/etc/rc.netbackup.aix
HP-UX システムの場合	/sbin/init.d/netbackup /sbin/rc1.d/K001netbackup /sbin/rc2.d/S777netbackup
Linux Debian システムの 場合	/etc.init.d/netbackup /etc/rc0.d/K01netbackup /etc/rc1.d/K01netbackup /etc/rc2.d/S95netbackup
Linux Red Hat システムの 場合	/etc/rc.d/init.d/netbackup /etc/rc.d/rc0.d/K01netbackup /etc/rc.d/rc1.d/K01netbackup /etc/rc.d/rc2.d/S77netbackup /etc/rc.d/rc3.d/S77netbackup /etc/rc.d/rc5.d/S77netbackup /etc/rc.d/rc6.d/K01netbackup

次の起動スクリプトはサーバーでのみ実行され、**NetBackup** ファイバートランспортがサーバーで有効になったときのみ表示されます。

```
/etc/rc.d/init.d/nbftserver
/etc/rc.d/rc0.d/K03nbftserver
/etc/rc.d/rc1.d/K03nbftserver
/etc/rc.d/rc2.d/S21nbftserver
/etc/rc.d/rc3.d/S21nbftserver
/etc/rc.d/rc5.d/S21nbftserver
/etc/rc.d/rc6.d/K03nbftserver
```

Linux SuSE システムの場合: /etc/init.d/netbackup
/etc/init.d/rc0.d/K01netbackup
/etc/init.d/rc2.d/S77netbackup
/etc/init.d/rc3.d/S77netbackup
/etc/init.d/rc5.d/S77netbackup
/etc/init.d/rc6.d/K01netbackup

次の起動スクリプトはサーバーでのみ実行され、NetBackup
ファイバートランスポートがサーバーで有効になったときのみ表
示されます。

/etc/init.d/nbftserver
/etc/init.d/rc2.d/K01nbftserver
/etc/init.d/rc2.d/S05nbftserver
/etc/init.d/rc3.d/K01nbftserver
/etc/init.d/rc3.d/S05nbftserver
/etc/init.d/rc5.d/K01nbftserver
/etc/init.d/rc5.d/S05nbftserver

その他のサーバーおよびク /etc/init.d/netbackup
ライアントの場合: /etc/rc0.d/K01netbackup
/etc/rc1.d/K01netbackup
/etc/rc2.d/S77netbackup

次の起動スクリプトはサーバーでのみ実行され、NetBackup
ファイバートランスポートがサーバーで有効になったときのみ表
示されます。

/etc/init.d/nbftserver
/etc/rc0.d/K03nbftserver
/etc/rc1.d/K03nbftserver
/etc/rc2.d/S21nbftserver

25 AIX システムの場合のみ:

- /etc/inittab ファイルで、次の NetBackup エントリを削除します。

/etc/rc.netbackup.aix

- /etc/rc.shutdown ファイルで、次の行を削除します。

/etc/rc.netbackup.aix stop

26 次のとおり LiveUpdate コンポーネントを削除します。

- 最初に、次のファイルを調べて NetBackup が LiveUpdate を使う唯一の製品であるかどうかを確認します。

```
/etc/Product.Catalog.JavaLiveUpdate
```

- NetBackup が現在 LiveUpdate を使用する唯一の製品である場合は、次のコマンドを実行します。

```
/opt/Symantec/LiveUpdate/uninstall.sh -a
```

- LiveUpdate が /opt/Symantec ディレクトリにインストールされている唯一の製品である場合は、次のファイルを削除します。

```
rm -f /etc/Symantec.conf
```

メモ: 次の製品カタログファイルを削除する前に、空であることを確認してください。空のファイルのサイズは 0 バイトになります。製品カタログファイルが空でなければ、他の製品に必要であるため、ファイルを削除しないでください。

```
rm -f /etc/Product.Catalog.JavaLiveUpdate
```

- 27 root** ユーザーアカウントに対する NetBackup-Java アプリケーションの状態データを削除するには、次のように適切なコマンドを実行します。

警告: スラッシュ文字 (/) とピリオドまたはドット文字 (.) の間に空白を挿入しないでください (/ .veritas)。これらの文字の間に空白があると、ルート階層下のすべてのファイルが削除されます。

- すべてのリリースについて root ユーザーアカウントに対する NetBackup-Java アプリケーションの状態データを削除するには、次のコマンドを実行します。

```
/bin/rm -rf /.veritas
```

- 特定のリリースについて root ユーザーアカウントに対する NetBackup-Java アプリケーションの状態データを削除するには、次のコマンドを実行します。

```
/bin/rm -rf /.veritas/java/<version>
```

<version> は 6 桁の NetBackup バージョン番号です。たとえば、アップグレードが適用されていない NetBackup バージョン 7.7 は 770000 として入力します。

28 NetBackup-Java ユーザーに、\$HOME/.veritas ディレクトリが削除可能であることを通知します。

\$HOME/.veritas および \$HOME/.veritas/java ディレクトリには、ユーザーが **NetBackup-Java** アプリケーションを終了するときに保存されるアプリケーションの状態情報が含まれます。保存される情報には、表の列の順序とサイズが含まれます。この処理によって、このディレクトリが削除されます (**root** ユーザーのみ)。

\$HOME/.veritas/java/.userPrefs/vrts に存在する common サブディレクトリは削除してもかまいません。

29 NetBackup アクセス制御機能が有効になっている場合、クライアントおよびサーバーにいくつかのファイルが配置されます。これらのファイルは、次のカテゴリに分類されます。

■ NetBackup アプリケーションの一時ファイル

このファイルは、**NetBackup** とともに削除されます。

■ 個々のユーザーのキャッシュファイル

これらのキャッシュファイルは、\$HOME/.vxss ディレクトリに存在します。このディレクトリを削除できることをすべてのユーザーに通知します。

ファイルは、**NetBackup** 管理コンソールでのシングルサインオン操作によってのみ、コンソールが実行されているホスト上の /.vxss ディレクトリに生成されます。これらのファイルは、終了機能を実行すると、**NetBackup** 管理コンソールによって削除されるため、通常、このディレクトリには一時ファイルは格納されません。ただし、システムがクラッシュした場合、このディレクトリのファイルは削除されません。データを損失せずにこれらのファイルを安全に削除するには、コンソールを停止してください。

また、**NetBackup** では、クライアントとサーバーの **NetBackup** アプリケーションのキャッシュ済みの証明書も作成されます。これらのファイルは、/.vxss ディレクトリに存在します。通常、これらのファイルには、ネットワークインターフェースの DNS エントリとの一貫性がある名前 (たとえば、machine.company.com) が付けられます。次に、ディレクトリエントリの例を示します。

```
/usr/openv/var/vxss/credentials/machine.company.com
```

```
/usr/openv/var/vxss/credentials/dhcpp
```

これらのファイルは、bpnbat -LoginMachine コマンドを実行すると作成されます。このコンピュータに、後で **NetBackup** の再インストールを行う予定がある場合は、次のいずれかを実行します。

■ 証明書を vxss/credentials ディレクトリに保持します。

■ 証明書を保持しない場合は、Root+AB ブローカーで最初に設定されたコンピュータの ID パスワードを入力する必要があります。または、再インストール時に、Root+AB ブローカーでパスワードをリセットすることもできます。

Root+AB ブローカーについて詳しくは、『**NetBackup** セキュリティおよび暗号化ガイド UNIX、Windows および Linux』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

NetBackup アクセス制御機能およびその削除方法について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Windows システムでの NetBackup サーバーソフトウェアの削除について

NetBackup サーバーソフトウェアを削除するとき、処理によってサーバーから VERITAS/NetBackup ディレクトリが削除されます。

NetBackup サーバーソフトウェアを次のように削除できます。

- サーバーソフトウェア、構成とカタログ情報を削除します。
- サーバーソフトウェアを削除し、NetBackup 構成とカタログ情報を保存します。
NetBackup を再インストールする場合は、この手順を使用して、NetBackup を削除する前に構成、カタログおよびログファイルの情報を保存しておいてください。

メモ: アンインストール後に、一部のレジストリやディレクトリの情報が Windows コンピュータに残ります。これらのファイルが NetBackup Authentication Service または NetBackup Authorization Service のどちらかで使用中の可能性があるので、この動作は意図的なものです。

p.144 の「[Windows サーバー、クラスタ、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除](#)」を参照してください。

Windows サーバー、クラスタ、およびクライアントからの NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアの削除

NetBackup ソフトウェアと NetBackup の構成情報とカタログ情報を削除するには、次の手順を使います。

NetBackup サーバーおよびクライアントソフトウェアを削除する方法

- 1 (該当する場合: クラスタのみ) グループを削除する場合は、クラスタのマニュアルの説明に従います。

複数のノードから NetBackup を一度に削除することはできません。

- 2 (該当する場合: サーバーとクラスタのみ) NetBackup 管理コンソールが開いている場合は閉じます。

(該当する場合: クライアントのみ) NetBackup のバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースが開いている場合は閉じます。

NetBackup を削除しようとしたときにこれらのインターフェースのいずれかが開いていると、エラーが発生してこの手順を再開するよう強制される場合があります。

- 3 [スタート]>[設定]>[コントロールパネル]を選択します。
- 4 [コントロールパネル]ウィンドウを開きます。Windows 2008 以降の場合は、[プログラムと機能]をクリックします。
- 5 [現在インストールされているプログラム (Currently Installed Programs)]のリストで、サーバーおよびクラスタの[Veritas NetBackup]をクリックします。クライアントの[Veritas NetBackup Client]を選択します。
- 6 [削除]をクリックします。

Windows 2008/Vista 以降のシステムの場合、[はい]をクリックして続行した後、PBX がまだ動作していることを知らせる別のダイアログボックスが表示されます。

ベリタスは[アプリケーションを終了しない]をクリックすることを推奨します。(再起動が必要になります)]をクリックして NetBackup の削除を続行することを推奨します。PBX は削除のために必要に応じて自動的に停止し、再起動します。

- 7 (該当する場合: サーバーとクラスタのみ) 次のとおり、NetBackup の重複排除ユーザーディレクトリを削除します。

Documents and Settings ディレクトリで、purediskdbuser ディレクトリを削除します。

NetBackup サーバーソフトウェアを削除して NetBackup の構成情報とカタログ情報を保存するには、次の手順を使います。

NetBackup 構成とカタログ情報を削除したり保存したりする方法

- 1 NetBackup 管理コンソールが開いている場合は、閉じます。
NetBackup を削除しようとしたときにコンソールセッションが開いていると、この手順の再開を強制するエラーが発生することがあります。
- 2 [スタート]>[設定]>[コントロールパネル]を選択します。
- 3 [コントロールパネル]ウィンドウを開きます。Windows 2008 以降の場合は、[プログラムと機能]をクリックします。

- 4 [現在インストールされているプログラム (Currently Installed Programs)]のリストで、[Veritas NetBackup]をクリックします。
- 5 [変更 (Change)]をクリックします。これによって、NetBackup の変更、修復および削除を実行できます。
- 6 [Program Maintenance]ダイアログボックスで、[削除 (Remove)]を選択します。
- 7 [NetBackup のすべての構成、カタログおよびログファイルを削除する (Remove all NetBackup Configuration, Catalog, and Log files)]の横にあるチェックボックスのチェックを外して、この機能を無効にします。(このチェックボックスには、デフォルトでチェックマークが付いています。)
- 8 [次へ (Next)]をクリックします。
- 9 NetBackup アクセス制御機能が有効になっている場合、クライアントおよびサーバーにいくつかのファイルが配置されます。これらのファイルは、次のカテゴリに分類されます。

NetBackup アプリケーションの 一時ファイル このファイルは、NetBackup とともに削除されます。

個々のユーザーのキャッシュ
ファイル

ユーザーのキャッシュファイルは、削除されずに次のような
ホームディレクトリに残ります。

```
user¥Local Settings¥Application
Data¥VERITAS¥NetBackup
```

ファイルは、**NetBackup** 管理コンソールでのシングルサイン
オン操作によってのみ、コンソールが実行されているホス
ト上の ¥NetBackup ディレクトリに生成されます。これらの
ファイルは、終了機能を実行すると、**NetBackup** 管理コン
ソールによって削除されるため、通常、このディレクトリには
一時ファイルは格納されません。ただし、システムがクラッ
シュした場合には、このディレクトリのファイルが残ることがあ
ります。データを損失せずにこれらのファイルを安全に削除
するには、コンソールを停止してください。

また、**NetBackup** では、クライアントとサーバーの
NetBackup アプリケーションのキャッシュ済みの証明書も
作成されます。これらのファイルは、¥NetBackup ディレク
トリ内に存在します。通常、これらのファイルには、ネットワ
ークインターフェースの DNS エントリとの一貫性がある名前
(machine.company.com など) が付けられます。次に、
ディレクトリエントリの例を示します。

```
user¥Local Settings¥Application
Data¥VERITAS¥NetBackup¥pc.comp.com
```

```
user¥Local Settings¥Application
Data¥VERITAS¥NetBackup¥dhcp
```

これらのファイルは、bpbdat -LoginMachine コマンドを
実行すると作成されます。このコンピュータに、後で
NetBackup の再インストールを行う予定がある場合は、次
のいずれかを実行します。

- 証明書を ¥NetBackup ディレクトリに保持します。
- 証明書を保持しない場合は、**Root+AB** ブローカーで最
初に設定されたコンピュータの ID パスワードを入力す
る必要があります。または、再インストール時に、
Root+AB ブローカーでパスワードをリセットすることでも
できます。『**NetBackup** セキュリティおよび暗号化ガイド』
を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 10 次のとおり NetBackup の重複排除ユーザーディレクトリを削除します。

メモ: この手順は、NetBackup の以前のバージョンからバージョン 8.0 にアップグレードした場合にのみ必要です。

Documents and Settings ディレクトリで、purediskdbuser ディレクトリを削除します。

Windows システムからの NetBackup LiveUpdate の削除

NetBackup LiveUpdate と Veritas LiveUpdate は同じ LiveUpdate エージェントを共有します。LiveUpdate を削除すると、NetBackup の更新やその他のシマンテック製品の更新を自動的に配布できなくなります。

LiveUpdate を削除する前に、インストールされた他のシマンテック製品が LiveUpdate を使わないことを確認してください。

次の手順を使用して Windows システムの LiveUpdate ファイルを削除します。

Windows システムの NetBackup LiveUpdate を削除する方法

- 1 [スタート]>[コントロールパネル]を選択します。
- 2 [コントロールパネル]ウィンドウで次のいずれかを実行します。
 - Windows XP 以前の場合は、[プログラムの追加と削除]をクリックします。
 - Windows Vista/2008 以降の場合、[プログラムと機能]をクリックします。
- 3 [LiveUpdate (LiveUpdate)]をクリックし、[削除]を選択します。

Windows サーバーおよび Windows クライアントからの Java コンソールの状態データの削除について

NetBackup Java コンソールは、ユーザー単位の状態データを保存しています。この情報にはユーザー設定、ツールバーの場所、および関連する設定が含まれています。NetBackup Java コンソールをアンインストールした後に、次のフォルダを削除することによって、状態データを削除します。

`USERPROFILE_DIR¥Veritas¥Java¥JAVA_VERSION`

- 移動ユーザープロファイルの場合は、`USERPROFILE_DIR` は `%APPDATA%` にあります。

- Windows XP 以前のローカルユーザープロファイルの場合は、*USERPROFILE_DIR* は %USERPROFILE%\Local Settings にあります。
- Windows 2008/Vista 以降のローカルユーザープロファイルの場合は、*USERPROFILE_DIR* は %LOCALAPPDATA% にあります。
- *JAVA_VERSION* は 6 桁の NetBackup のバージョン番号です。たとえば、アップグレードが適用されていない NetBackup バージョン 7.5 は 750000 になります。

例:

7.7 の NetBackup Java コンソールがインストールされた Windows 2008 システムの場合は、ローカルユーザーポリシー、Java コンソール状態フォルダは、%LOCALAPPDATA%\Veritas\Java\770000 にあります。

参照先

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Java Runtime Environment](#) について
- [レプリケーションディレクタを使用した NetApp ディスクアレイの使用](#)
- [NetBackup データベースに対するセキュリティ強化](#)

NetBackup Java Runtime Environment について

次の製品のいずれかをインストールするときに、ベリタスはカスタマイズされたバージョンの Java Runtime Environment (JRE) をインストールします。

- NetBackup マスターサーバー、メディアサーバー、またはクライアントソフトウェア
- NetBackup リモート管理コンソール
- OpsCenter サーバー、エージェント、または View Builder

カスタマイズされたバージョンの JRE には、標準 JRE インストールに含まれる `man`、`plugin` など、すべてのディレクトリが含まれているわけではありません。

以前は、NetBackup または OpsCenter と共にインストールされる JRE パッケージは、いずれかのソフトウェアの以降のリリースにアップグレードした場合にのみ更新されました。nbcomponentupdate ユーティリティを使用して、JRE を以下の製品でサポートされているバージョンに更新することができます。

- NetBackup マスターサーバー、メディアサーバー、またはクライアントソフトウェア
- NetBackup リモート管理コンソール
- OpsCenter サーバー、エージェント、または View Builder

メモ: このユーティリティを使用して、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン用の JRE を更新することはできません。

システムで NetBackup 8.0 以降を実行している場合、表 10-1 を使用して、nbcomponentupdate ユーティリティの場所を特定します。

表 10-1 JRE 更新ユーティリティの場所

製品	オペレーティングシステム	パス
NetBackup	Windows	<code>install_path¥netbackup¥java¥nbcomponentupdate.exe</code>
	UNIX または Linux	<code>/usr/opensv/java/nbcomponentupdate</code>
OpsCenter Server	Windows	<code>install_path¥server¥bin¥nbcomponentupdate.exe</code>
	UNIX または Linux	<code>SYMCOpsCenterServer/bin/nbcomponentupdate</code>
OpsCenter Agent	Windows	<code>install_path¥agent¥bin¥nbcomponentupdate.exe</code>
OpsCenter View Builder	Windows	<code>install_path¥viewbuilder¥bin¥nbcomponentupdate.exe</code>
リモート管理コンソール	Windows	<code>install_path¥java¥nbcomponentupdate.exe</code>

NetBackup 7.7.x 以前がある場合、以下の場所から nbcomponentupdate ユーティリティをダウンロードします。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000115043

nbcomponentupdate コマンドとそのパラメータに関する詳細情報を参照できます。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』

NetBackup とともにインストールされる JRE は、その NetBackup リリースに対してサポートされているメジャーバージョンです。サポートされているメジャー JRE バージョンのマイナーバージョンに更新するには、このユーティリティを使用します。たとえば、NetBackup 8.0 が JRE 1.8.0.31 をインストールした場合、サポート対象のメジャーバージョンは 1.8 です。JRE 1.8.0.92 に更新するには、このユーティリティを使用します。

ベリタスは、JRE ベンダーがインストール済みの JRE バージョンに対し End-of-Life を宣言した場合にのみ別のメジャー JRE バージョンに更新することを推奨します。お使いの環境にインストール済みの JRE バージョンでもある JRE 1.8 に対し、JRE ベンダーが End-of-Life を宣言した場合は、JRE 1.9 に更新します。

JRE を更新しようとする前に、NetBackup などの製品を終了します。更新時に製品が実行中である場合、ユーティリティが終了し、製品を終了するように求めるエラーメッセージが表示されます。

注意: JRE 更新が進行中の場合、ユーティリティを停止しないでください。このアクションにより、JRE を使用する NetBackup などの製品が不安定になる可能性があります。

追加バージョンの JRE がその他のアプリケーションに対してシステムにインストールされている場合、NetBackup JRE はそれらの JRE と干渉しません。NetBackup JRE は Web ブラウザとの統合を行ったり、Java アプレットまたは Web Start の実行を許可したりするものではありません。したがって、NetBackup JRE は Java アプレットまたは Web Start の脆弱性を利用するタイプのブラウザベースの攻撃で使用されることがありません。

NetBackup JRE アラートに関する詳しい情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH50711>

レプリケーションディレクタを使用した NetApp ディスクアレイの使用

レプリケーションディレクタは、2 つの異なる状況で NetApp ディスクアレイのスナップショットをレプリケートできます。

- 非クラスタモード: 7 モードは、NAS および SAN におけるスナップショットのレプリケートに使われています。プラグインは、OCUM (OnCommand Unified Manager) サーバー (図 10-1) にインストールする必要があります。
- クラスタモード: クラスタ化されたデータ ONTAP (cDOT) は、ストレージの仮想マシン間 (SVM または vServer) におけるスナップショットのレプリケートに使います。サポート対象は、NAS のみです。
プラグインは、OCUM サーバー、マスターサーバー、またはあらゆるメディアサーバー (図 10-2) 以外の Windows コンピュータまたは Linux コンピュータにインストールする必要があります。

モードは両方とも同じテクノロジーをサポートします。

表 10-2 では、NetBackup バージョンと NetApp プラグインの間の関連について説明します。

表 10-2 バージョンの互換性

NetBackup バージョン (NetBackup Version)	NetApp プラグイン バージョン	説明	OCUM サーバーに対するマ スターサーバーの比	サポート対象のポリシー 形式
7.7 以降	1.1	7 モードのサポートがすべ ての NetBackup 7.7 レプリ ケーションディレクタ機能に 提供されます。	1 つのマスターサーバーは多数の OCUM サーバーをサポートします。 プラグインは、OCUM (OnCommand Unified Manager) サーバーにインストールする必要が あります。	MS-Windows、標準、 NDMP、VMware、Oracle
	1.1 P1	7 モードのサポートがすべ ての NetBackup 7.7 レプリ ケーションディレクタ機能に 提供されます。	1 つのマスターサーバーは多数の OCUM サーバーをサポートします。	MS-Windows、標準、 NDMP、VMware、Oracle
	2.0	cDOT サポートを提供しま す。	1 つのマスターサーバーは多数の OCUM サーバーをサポートします。 プラグインは、OCUMサーバー、マ スターサーバー、またはあらゆるメ ディアサーバー以外の Windows コンピュータまたはLinuxコンピュ ータにインストールする必要があります。	MS-Windows、標準、 NDMP、VMware、Oracle
7.6	1.1	すべての NetBackup 7.6 レプリケーションディレクタ機 能を対象とした NetApp Data ONTAP 7 モードのサ ポート。	多数の OCUM サーバーに対して 1 つのマスターサーバー	MS-Windows、標準、 NDMP、VMware、Oracle

メモ: プラグインをアップグレードする前に NetBackup 環境全体をアップグレードする
必要があります。すべてのマスターサーバー、メディアサーバー、クライアント、プラグインと
通信するホストをアップグレードします。

図 10-1 NetBackup と NBUPlugin for 7-mode 間の通信

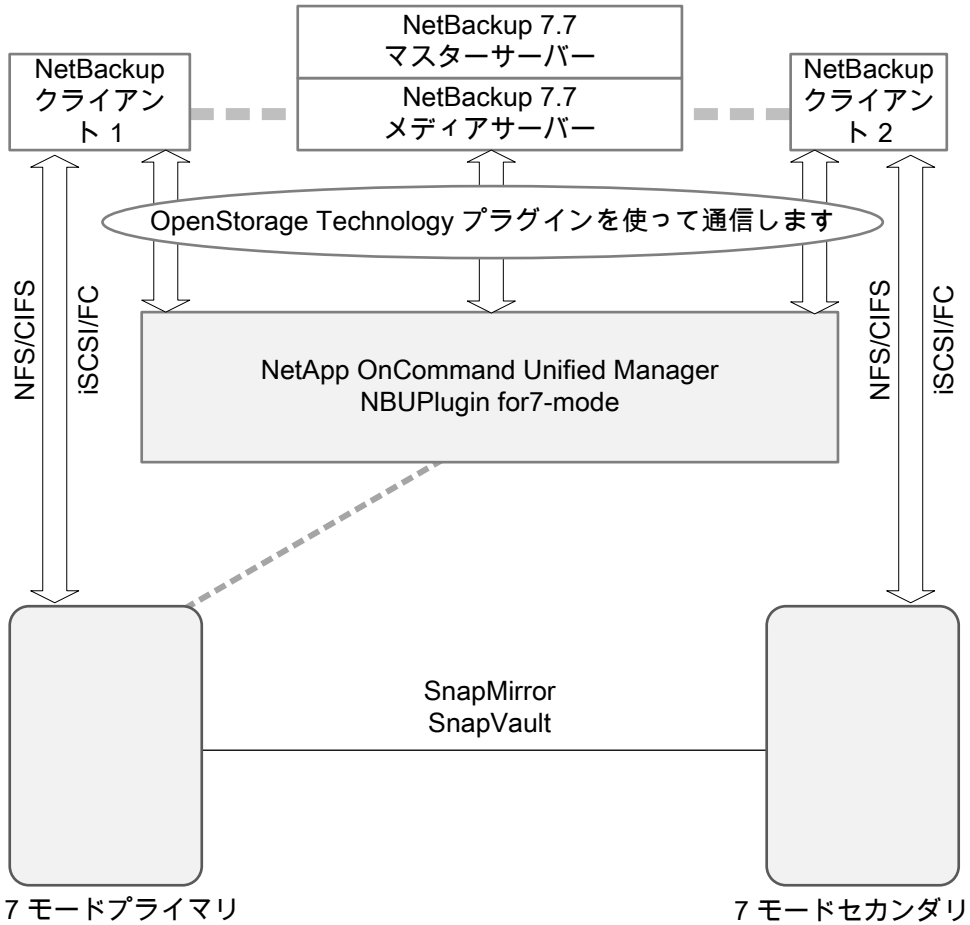
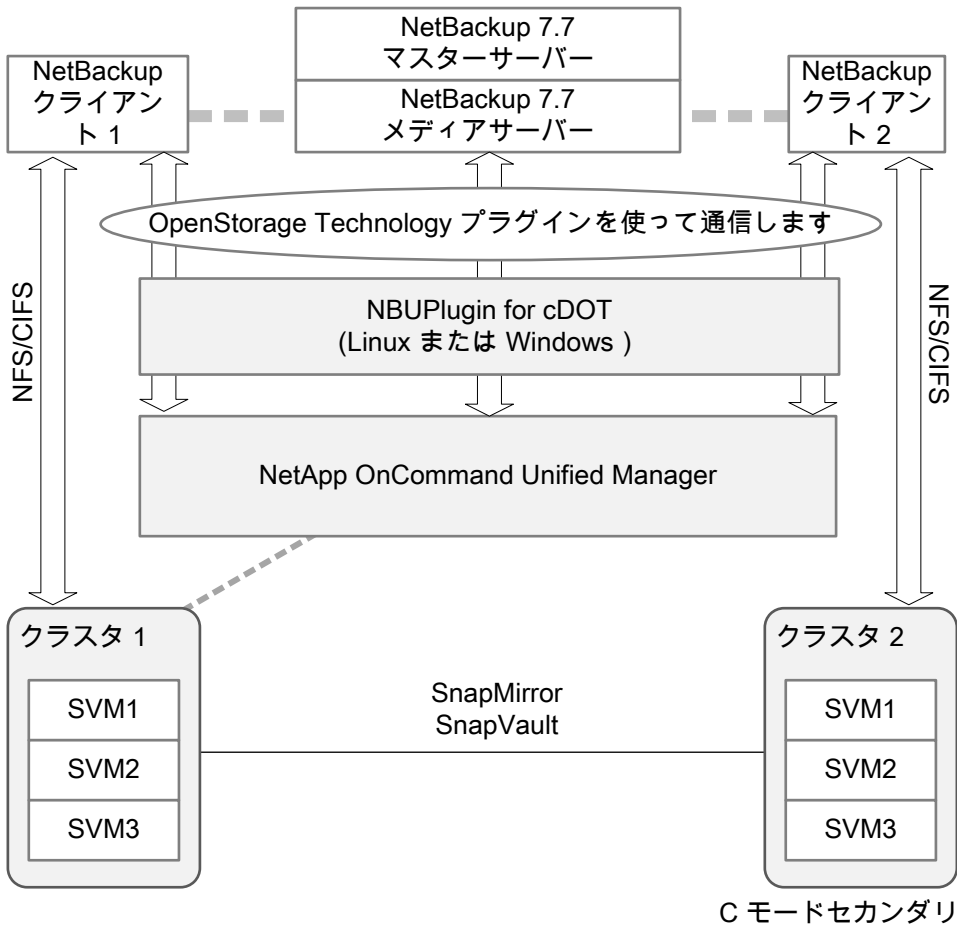


図 10-2 NetBackup と NBUPlugin for Clustered Data ONTAP 間の通信



プラグインのバージョンの判断

NBUPlugin のバージョンを判断するには、NBUPlugin がインストールされているシステムで次のバージョンファイルを検索します。

Windows の場合: `Install_path\Program Files\Netapp\NBUPlugin\version.txt`

UNIX の場合: `/usr/NetApp/NBUPlugin/version.txt`

ファイルの内容には、製品名、ビルドの日付、NBUPlugin のバージョンが記載されています。複数のプラグインがインストールされている場合は、両方のリストに表示されます。

プラグインのアップグレード

NetApp Plug-in for Veritas NetBackup をアップグレードするには、古いプラグインを使用するすべてのストレージライフサイクルポリシージョブがアップグレード前に完了していることを確認してください。

ストレージライフサイクルポリシーに関連付けられたすべてのジョブの完了、処理中、または未開始を判断するには、次のコマンドを使用します。

Windows の場合: %NetBackup%\bin\admincmd>nbstlutil.exe stlilist -U

UNIX の場合: /usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/nbstlutil stlilist -U

NetBackup データベースに対するセキュリティ強化

NetBackup のセキュリティ変更の一部として、Veritas により NetBackup (NBDB) データベースのパスワードが変更される可能性があります。ユーザーが NetBackup データベースのパスワードをデフォルト値から変更している場合、パスワードの変更は行われません。デフォルトパスワードのままになっている NetBackup データベースが、新しいランダム生成されたパスワードにより更新されます。NetBackup のすべての新しいインストールでは、セキュリティ強化の一環として、ランダムに生成されたパスワードが NetBackup データベースに割り当てられます。このパスワードは、インストールまたはアップグレード中には提供されません。このランダムに生成されたパスワードを変更するには nbdb_admin コマンドを使用します。nbdb_admin コマンドについて詳しくは、『Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

A

AIX

- アップグレード 34
- インストール 34

B

bp.conf ファイル

- インストールスクリプト 35

bpplclients コマンド 116

- クライアントリストの作成 116

C

client_config スクリプト 108、110

D

DVD のマウント

- NetBackup のインストール 36

E

ESD イメージ

- NetBackup 18

F

ftp 方式

- UNIX クライアントのインストール 108
- リモート UNIX クライアントのインストール 108

G

gunzip コマンド

- UNIX クライアントのインストール 99

gzip コマンド

- UNIX クライアントのインストール 99

H

hosts ファイル 31

I

inetd.conf ファイル

- インストールスクリプト 35

install_client_files スクリプト 110

IPv4 クラスタ 73

IPv6 クラスタ 73

J

Java ベースの Windows 管理コンソール

- インストール 80

L

Linux

- NetBackup DVD のマウント 37

Linux クライアント

- NetBackup の削除 133

- PBX の削除について 133

- インストール方法 100

Linux クライアントのインストール方式

- 概要 100

Linux クライアントの追加 112

Linux サーバー

- NetBackup の削除 133

Linux でのクライアントインストール

- 概要 98

N

NBUPlugin

- アップグレード 156

- バージョンの判別 155

NetBackup

- ESD イメージ 18

- インストールする方法 19

- メディアキットの内容 16

NetBackup 7.x

- バージョンの混在のサポート 9

NetBackup 7.x へのアップグレード

- アップグレードポータルについて 130

NetBackup DVD 16

NetBackup DVD のマウント
 Linux 37
 UNIX 37
 NetBackup Enterprise Server
 構成ガイドライン 121
 NetBackup-Java
 互換性 100
 NetBackup-Java 管理コンソール
 Windows での複数バージョンのインストール 81
 Windows での複数バージョンの削除 82
 概要 80
 NetBackup LiveUpdate
 Windows システムからの削除 148
 NetBackup Product Improvement Program 20
 NetBackup Server の構成
 概要 121
 NetBackup アクセス制御
 ファイルの削除 143
 NetBackup ウィザード
 開始 121
 カタログバックアップの構成 127
 デバイス構成 124
 バックアップポリシーの構成 128
 ボリュームの構成 126
 NetBackup カatalogバックアップの構成
 概要 127
 NetBackup 管理コンソール 80
 開始方法 122
 NetBackup クライアントソフトウェア
 UNIX クライアントの種類の追加 112
 ローカルインストール 101
 NetBackup クライアントのインストール
 ローカル 101
 NetBackup サーバー
 構成 121
 ソフトウェアの削除 144
 NetBackup サーバーソフトウェア
 UNIX での削除について 132
 NetBackup スクリプト
 UNIX 119
 起動と停止 119
 NetBackup ソフトウェアの削除
 Linux クライアントについて 133
 UNIX クライアントについて 133
 Windows クライアント 144
 NetBackup 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ 16
 NetBackup のアップグレード 130
 NetBackup のインストール
 DVD のマウント 36

NetBackup の削除
 Linux クライアント 133
 Linux サーバー 133
 UNIX クライアント 133
 UNIX サーバー 133
 NetBackup の削除について
 UNIX システムの場合 132
 NetBackup のストレージデバイス
 構成 124
 NetBackup ボリューム
 構成 126
 NetBackup メディア
 マウントについて 36
 NetBackup メディアキット
 概要 16
 NetBackup リモート管理コンソール
 インストール 83
 NTFS パーティション 89

P

PBX

Linux クライアントからの削除について 133
 UNIX クライアントからの削除について 133
 削除 134
 非 Solaris からの削除 134

R

rsh 方式

UNIX クライアントのインストール 107
 リモート UNIX クライアントのインストール 107

S

sftp 方式

UNIX クライアントのインストール 110
 リモート UNIX クライアントのインストール 110

Shared Storage Option (SSO)

デバイス情報の格納 69

SORT

Veritas Operations Readiness Tools 10、15
 Veritas Services and Operations Readiness Tools 9

ssh 方式

UNIX クライアントのインストール 110
 リモート UNIX クライアントのインストール 110

U

UNIX

NetBackup DVD のマウント 37

- NetBackup スクリプト 119
 - UNIX クライアント
 - NetBackup の削除 133
 - PBX の削除について 133
 - インストール方法 100
 - プッシュインストール 101
 - リモートインストール 101
 - ローカルインストール 100～101、112
 - UNIX クライアントのインストール
 - ftp 方式 108
 - rsh 方式 107
 - sftp 方式 110
 - ssh 方式 110
 - UNIX クライアントのインストール方式
 - 概要 100
 - UNIX クライアントの追加 112
 - UNIX サーバー
 - NetBackup の削除 133
 - UNIX システムおよび Linux システム
 - インストール要件 29
 - UNIX でのクライアントインストール
 - 概要 98
 - UNIX と Linux のインストール要件
 - 概要 29
- ## V
- verify
 - Windows クラスタのインストールまたはアップグレード 77
 - Veritas Operations Readiness Tools (SORT)
 - 推奨アップグレード手順 15
 - 推奨インストール手順 10
 - Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)
 - 概要 9

W

- Windows
 - Java コンソールの削除またはアンインストール 148
 - クラスタインストール 63
 - クラスタインストールの検証 77
 - サイレントインストール 77
 - サーバーソフトウェアの削除またはアンインストール 144
 - ソフトウェアの削除またはアンインストール 144
 - リモートインストール 63
 - ローカルインストール 63

- Windows クライアント
 - NetBackup ソフトウェアの削除 144
 - インストールの制限 86
 - インストール方法 87
 - 構成 97
 - サイレントインストール 89、97
 - システム要件 87
 - ユーザー権限 87
 - リモートインストール 88
 - ローカルインストール 87
- Windows クライアントソフトウェア
 - リモートインストール 89
- Windows クライアントのインストール方式
 - 概要 87
- Windows クライアントのシステム要件
 - 概要 87
- Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認
 - クラスタアドミニストレータコンソール 77
- Windows システム
 - インストール要件 51
 - クラスタのインストールおよびアップグレード要件 61
- Windows システムからの削除
 - NetBackup LiveUpdate 148
- Windows でのクライアントインストール
 - 概要 86
- Windows でのサイレントインストール
 - サーバー 77
- Windows での複数バージョンのインストール
 - NetBackup-Java 管理コンソール 81
- Windows での複数バージョンの削除
 - NetBackup-Java 管理コンソール 82
- Windows でのローカルインストール
 - サーバーソフトウェア 63
- Windows 版 NetBackup リモート管理コンソール
 - 概要 83

あ

- アクセス制御
 - ファイルの削除 147
- アップグレード
 - AIX 34
- アップグレードポータル
 - NetBackup 7.x について 130
- アンインストール
 - Windows Java コンソール 148
 - Windows サーバーソフトウェア 144
- インストール
 - AIX 34

- Java ベースの Windows 管理コンソール 80
- Linux クライアントの方式 100
- NetBackup リモート管理コンソール 83
- UNIX クライアントの方式 100
- UNIX クライアントのローカルインストール 101
- Windows クライアントの方式 87
- 新しいクラスタグループ 73
- インストールガイドライン
 - HP-UX システム 34
 - Solaris システム 33
 - UNIX クラスタ 34
- インストールスクリプト
 - bp.conf ファイル 35
 - inetd.conf ファイル 35
 - サーバーのインストール 35
 - サービスファイル 35
- インストールする方法
 - 新規インストールの場合の順序 19
- インストールの制限
 - Windows クライアント 86
- インストールの続行
 - マスターサーバーのインストール後 43
- インストール後の作業
 - クラスタインストール 76
- インストール前
 - 環境チェッカーについて 57
 - 環境チェッカーの実行 58
- インストール要件
 - UNIX システムおよび Linux システム 29
 - Windows システム 51
- インベントリ
 - スタンダロンドライブ 127
 - ロボット 127
- オペレーティングシステム
 - ストレージデバイスの構成 18
- オンラインホットカタログ
 - バックアップ 127

か

- 開始
 - NetBackup ウィザード 121
- 開始方法
 - NetBackup 管理コンソール 122
- ガイドライン
 - カタログバックアップの構成 127
 - スタンダロンドライブのインベントリ 127
 - デバイス構成 125
 - バックアップポリシーの作成 128
 - ロボットインベントリ 127

概要

- Linux クライアントのインストール方式 100
- Linux クライアントのリモートインストール方式 106
- Linuxでのクライアントインストール 98
- NetBackup-Java 管理コンソール 80
- NetBackup Server の構成 121
- NetBackup カタログバックアップの構成 127
- NetBackup の Linux クライアントの削除 133
- NetBackup の UNIX クライアントの削除 133
- NetBackup メディアのマウント 36
- UNIX クライアントのインストール方式 100
- UNIX クライアントのリモートインストール方式 106
- UNIX でのクライアントインストール 98
- UNIX と Linux のインストール要件 29
- Veritas Services and Operations Readiness Tools 9
- Windows クライアントのインストール方式 87
- Windows クライアントのシステム要件 87
- Windows でのクライアントインストール 86
- Windows 版 NetBackup リモート管理コンソール 83
- インストール前の環境チェッカー 57
- 起動スクリプトと停止スクリプト 119
- クライアントソフトウェアのプッシュインストール 48
- クライアントのインストール 85
- ストレージデバイスの構成 18
- バックアップポリシーの構成ウィザード 128
- プリインストールチェッカー 19
- ライセンスキーエントリ 24

仮想 IP アドレス 73

仮想ホスト名 74

カタログバックアップの構成

- NetBackup ウィザード 127
- ガイドライン 127

環境チェッカー

- インストール前の実行 58
- 概要 57

起動スクリプトと停止スクリプト

- 概要 119

起動と停止

- NetBackup スクリプト 119

クライアント

- Linux クライアントのリモートインストール方式について 106
- UNIX クライアントのリモートインストール方式について 106
- サーバーのアップグレードの後のアップグレード 114
- サーバーへのコピー 112
- 初期インストール後の追加 112
- ソフトウェアのプッシュインストール 112

- クライアント形式のソフトウェア
 - マスターサーバーへのインストール 49
- クライアントソフトウェア
 - Windows でのローカルインストール 89
- クライアントソフトウェアのプッシュインストール 112
 - 概要 48
- クライアントのアップグレード
 - サーバーをアップグレードした後 114
- クライアントのインストール
 - Linux の方式 100
 - UNIX の方式 100
 - Windows の方式 87
 - 概要 85
- クライアントのインストール方式
 - リモート Linux クライアント 106
 - リモート UNIX クライアント 106
- クライアントリストの作成
 - bpplclients コマンド 116
- クラスタ
 - プライベートネットワーク 74
- クラスタアドミニストレータコンソール
 - Windows クラスタのインストールまたはアップグレードの確認 77
- クラスタインストール
 - インストール後の作業 76
- クラスタ化された Windows 環境でのインストール
 - サーバーソフトウェア 63
- クラスタグループ
 - 構成 74
 - 新規インストール 73
- クラスタグループ名 73
- クラスタのインストールおよびアップグレード
 - 要件 61
- クラスタのインストールまたはアップグレード
 - Windows の確認 77
- クリーニングメディア
 - バーコード規則 127
- 構成
 - NetBackup カタログバックアップ 127
 - NetBackup サーバー 121
 - NetBackup のストレージデバイス 124
 - NetBackup ボリューム 126
 - Windows クライアント 97
 - クラスタグループ 74
 - マスターサーバーとメディアサーバー 121
- 構成ガイドライン
 - NetBackup Enterprise Server 121
- 互換性
 - NetBackup-Java 100

コマンド

- bpplclients 116

さ

- サイレントインストール
 - Windows クライアント 89、97
- 削除
 - Windows Java コンソール 148
 - Windows サーバーソフトウェア 144
 - クラスタのサーバーソフトウェア 144
- 作成
 - バックアップポリシー 128
- サーバー
 - Windows でのサイレントインストール 77
- サーバーソフトウェア
 - Windows でのローカルインストール 63
 - クラスタ化された Windows 環境でのインストール 63
 - クラスタでの削除 144
 - リモートで Windows にインストール 63
- サーバーソフトウェアの削除
 - UNIX システムの場合 132
- サーバーのインストール
 - Red Hat Linux の要件 31
 - インストールスクリプト 35
- サーバーのインストール要件
 - Red Hat Linux 31
- サーバーへのクライアントのコピー 112
- サービスファイル
 - インストールスクリプト 35
- サブネットマスク 73
- サポートされているロボット形式
 - このリリースでの検索 19
- システム要件
 - Windows クライアント 87
- 順序
 - インストールの 19
- 証明書。「セキュリティ証明書」を参照
- 新規インストール
 - 順序 19
- 推奨アップグレード手順
 - Veritas Operations Readiness Tools 15
- 推奨インストール手順
 - Veritas Operations Readiness Tools 10
- スクリプト
 - client_config 108、110
 - ftp を使用した install_client_files 108
 - install_client_files 110
 - sftp を使用した install_client_files 110
 - ssh を使用した install_client_files 110

- スタンドアロンドライブ
 - インベントリ 127
- スタンドアロンドライブのインベントリ
 - ガイドライン 127
- ストレージデバイスの構成
 - オペレーティングシステム 18
 - 概要 18
- ストレージユニット
 - 定義 126
- 制限とガイドライン
 - 複数バージョンの NetBackup 管理コンソールのインストール 81
- セキュリティ証明書
 - NetBackup ホスト用 21
 - クラウドストレージの場合 22
- ソフトウェアインストール
 - マスターサーバー 38
 - メディアサーバー 44
- ソフトウェアの削除
 - NetBackup サーバー 144

た

- 定義
 - ストレージユニット 126
- デバイス構成
 - NetBackup ウィザード 124
 - ガイドライン 125
- デバイス情報の格納
 - Shared Storage Option (SSO) 69
- ドメインネームサービス (DNS) 31

な

- について
 - NetBackup 7.x アップグレードポータル 130
- 認証証明書。「セキュリティ証明書」を参照
- ネットワーク情報サービス (NIS) 31

は

- バーコード規則
 - クリーニングメディア 127
- バージョン、NetApp NBUPugin の判断 152
- バージョンの混在のサポート
 - NetBackup 7.x 9
- バックアップ
 - オンラインホットカタログ 127
- バックアップ形式
 - バックアップポリシー 128

- バックアップポリシー
 - 作成 128
 - 作成のガイドライン 128
 - バックアップ形式 128
- バックアップポリシーの構成ウィザード
 - 概要 128
- パブリックネットワーク 74
- ファイルの削除
 - アクセス制御 147
- 複数バージョンの NetBackup 管理コンソールのインストール
 - 制限とガイドライン 81
- プッシュインストール
 - UNIX クライアント 101
- プライベートネットワーク
 - クラスタ 74
- プラグイン
 - NetApp 152
 - NetApp からのアップグレード 156
- プリインストールチェッカー
 - 概要 19
- 方式
 - Linux クライアントのインストール 100
 - UNIX クライアントのインストール 100
 - Winodws クライアントのインストール 87
- ボリュームの構成
 - NetBackup ウィザード 126

ま

- マスターサーバー
 - インストールの続行 43
 - クライアント形式のソフトウェアのインストール 49
 - ソフトウェアインストール 38
- マスターサーバーとメディアサーバー
 - 構成 121
- マスターサーバーへのインストール
 - クライアント形式のソフトウェア 49
- メディアキット
 - 内容の説明 16
- メディアサーバー
 - ソフトウェアインストール 44

や

- ユーザー権限
 - Windows クライアント 87
 - ユーザー主導の操作 87
- ユーザー主導の操作
 - ユーザー権限 87

要件

- クラスタのインストールおよびアップグレード 61

- ライセンス 23

よくある質問事項

- ライセンスキー 25

ら

ライセンス

- 要件 23

ライセンスキー

- よくある質問事項 25

ライセンスキーエントリ

- 概要 24

リモート

- UNIX クライアントのインストール方式について 106

リモート UNIX クライアントのインストール

- ftp 方式 108

- rsh 方式 107

- sftp 方式 110

- ssh 方式 110

リモートインストール

- Linux クライアントの方式について 106

- UNIX クライアント 101

- UNIX クライアントの方式について 106

- Windows クライアント 88

- Windows クライアントソフトウェア 89

リモートで Windows にインストール

- サーバーソフトウェア 63

ローカルインストール

- UNIX クライアント 100

- Windows クライアント 87

- Windows のクライアントソフトウェア 89

ロボット

- インベントリ 127

ロボットインベントリ

- ガイドライン 127

ロボット形式

- サポート対象の検索 19